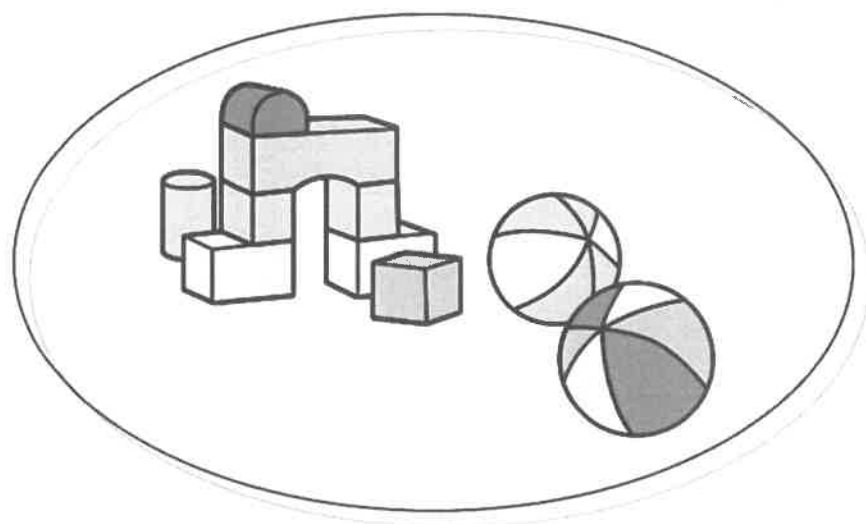


中野区
就学前教育プログラム改訂版
実践編



令和2年2月
中野区教育委員会

はじめに

中野区教育委員会 教育長
入野 貴美子

平成30年4月より、新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が全面実施となりました。各就学前教育・保育施設においては、家庭との緊密な連携の下、小学校以降の教育や生涯にわたる学習へのつながりを見通しながら、これらに基づいた教育・保育が行われております。

また、中野区教育委員会は、平成17年に策定した中野区教育ビジョンおよび教育ビジョン実行プログラム(平成18年)において、教育理念を実現するためのプロジェクトの一つとして「幼児教育から義務教育への円滑な接続」を掲げ、現在に至るまで、「幼児期から連続した教育」を目指し、継続的かつ段階的に教育施策を充実させてまいりました。

この度、こうした国の動向や中野区で積み重ねてきている多くの実践等を踏まえ、「中野区就学前教育プログラム(平成24年12月)」を改訂することといたしました。

平成30年度には「中野区就学前教育プログラム改訂版(理論編)」を作成し、全園及び全小・中学校に配付いたしました。この理論編は、0歳児から5歳児、小学校入門期の発達に応じて確実に経験させたい内容をまとめたものです。子どもたち一人ひとりが安心して充実した学校生活を送ることができ、就学前教育・保育で育まれた資質・能力が小学校教育の中で生かされる学びの連続性を確保した教育が行われることを目標としています。

今年度は、家庭、地域社会、就学前教育・保育施設、小学校が、それぞれの役割と機能を果たし、子どもたちに確かな発達と豊かな生活を築くことを実践してきた事例を、「中野区就学前教育プログラム改訂版(実践編)」としてまとめました。

本実践編には、発達や学びの連続性を考慮した具体的な事例が数多く掲載されています。関係の皆様には、自園の特性と掲載事例の内容を照らし合わせながら、子ども一人ひとりの育ちや発達段階に配慮した根拠のある就学前教育の充実を図っていただくことを期待しております。

最後になりましたが、作成に当たりご指導いただきました白百合女子大学 人間総合学部 初等教育学科 准教授 石沢 順子 先生、帝京平成大学 現代ライフ学部 児童学科 講師 小山 朝子 先生、ご協力いただいた連携教育検討委員会及び合同研究 研究員の方々をはじめ、全ての皆様にご心から感謝申し上げます。

目次

はじめに

1 就学前教育プログラム改訂版（実践編）とは	
（1）就学前教育プログラム改訂版（理論編）と（実践編）の指導資料としての意義	3
（2）事例の見方について	3
2 0歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）57日頃から3か月頃	7
（2）3か月頃から6か月頃	8
（3）6か月頃から9か月頃	9
（4）9か月頃から12か月頃	10
（5）実践事例	11
3 1歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）Ⅰ期4月から5月	29
（2）Ⅱ期6月から8月	30
（3）Ⅲ期9月から10月	31
（4）Ⅳ期11月から12月	32
（5）Ⅴ期1月から3月	33
（6）実践事例	34
4 2歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）Ⅰ期4月から5月	57
（2）Ⅱ期6月から8月	58
（3）Ⅲ期9月から10月	59
（4）Ⅳ期11月から12月	60
（5）Ⅴ期1月から3月	61
（6）実践事例	62
5 3歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）Ⅰ期4月から5月	85
（2）Ⅱ期6月から9月上旬	86
（3）Ⅲ期9月中旬から10月	87
（4）Ⅳ期11月から12月	88
（5）Ⅴ期1月から3月	89
（6）実践事例	90
6 4歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）Ⅰ期4月から5月	113
（2）Ⅱ期6月から9月上旬	114
（3）Ⅲ期9月中旬から10月	115
（4）Ⅳ期11月から12月	116
（5）Ⅴ期1月から3月	117
（6）実践事例	118
7 5歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）Ⅰ期4月から5月	141
（2）Ⅱ期6月から9月上旬	142
（3）Ⅲ期9月中旬から10月	143
（4）Ⅳ期11月から12月	144
（5）Ⅴ期1月から3月	145
（6）実践事例	146
8 3・4・5歳児夏季保育 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	
（1）3・4・5歳児 夏季保育（7月下旬から8月）	169
（2）実践事例	170
委員等名簿	182

1 就学前教育プログラム改訂版（実践編）

（1）就学前教育プログラム改訂版（理論編）と（実践編）の指導資料としての意義

平成30年度に、就学前教育プログラム改訂版（理論編）が作成されました。（以下、「理論編」とする。）「理論編」は、生きる力の育成を軸とした就学前教育と小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子どもの発達と学びの連続性、0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領に基づき、教育課程の編成や全体的な計画、指導計画の作成等に活用できる指導資料です。また、中野区教育ビジョン（第3次）の基本理念である「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」の具現化を目指す筋道でもあります。更に、これからの幼児教育の充実・発展は、「保幼小連携教育」や「小中連携教育」と相まって0歳から15歳の子どもたちの健やかな成長への礎でもあります。

そこで今年度は、「理論編」28ページから57ページに記載されている、発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法を、実際の教育・保育の参考事例として掲載した、就学前教育プログラム改訂版（実践編）として作成しました。（以下、「実践編」とする。）各施設の実情に照らし、活用してください。

（2）事例の見方について

- ① 生きる力の基礎と子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点について
生きる力の基礎は、確かな学力につながる「学びの芽生え」、豊かな人間性につながる「人との関わり」、健康・体力につながる「生活習慣」「運動」の4つの視点として捉えました。（詳細は「理論編」17ページから27ページに記載されている、「就学前教育プログラム改訂版（理論編）」の基本的な考え方をご覧ください。）
- ② 「実践編」における事例の期の分け方について
ア 0歳児は心身の発達等が著しいため、個人差に対応できるよう、月例に応じて設定しています。
イ 1歳児から5歳児は、季節や年間行事等にそろえているため、Ⅰ期からⅤ期に設定しています。
- ③ 事例の内容について
事例の内容は、次のような項目で記載されています。

	「学びの芽生え」「人との関わり」「運動」	「生活習慣」
タイトル	遊びの内容の表題	活動の内容の表題
1	遊びのねらい	活動のねらい
2	遊び方・援助のポイント	活動・援助のポイント
3	環境の構成	環境の構成
4	安全上の配慮	安全上の配慮
5	遊びを通して育まれた姿	活動を通して育まれた姿
6	家庭との連携	家庭との連携

0歳児 事例

2 0歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法

(1) 0歳児 (57日頃から3か月頃)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・大好きな大人からあやされたり、声をかけられたりすることを喜ぶ。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・一人ひとりの安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻から出ていた音声が喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光（明るい光、優しい光など）に反応する。【事例1】
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。【事例2】 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。【事例2】
生活習慣・運動	基本的な 生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。【事例3】 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。【事例3】 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。【事例4】 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。【事例4】

〈指導例〉

☆学びの芽生え「お散歩って 楽しいな♪」【事例1】

☆生活習慣「先生とぎゅっ」【事例3】

☆人との関わり「ぎゅっ ぎゅっ にこっ！」【事例2】

☆運動「握ることができるかな」【事例4】

〈援助のポイント〉

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人ひとりの生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体調の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人ひとりの授乳時間や感覚を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

〈家庭との連携〉

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。

(2) 0歳児(3か月頃から6か月頃)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされたり、声を掛けられたりすると喜び、自分でも声を出す。 ・飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす。 	
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。【事例5】
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。【事例6】 ・自分から相手にはほほえみかけるようになる。【事例6】 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生活習慣・運動	基本的な 生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・胃の入り口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 (目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃) ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。【事例7】 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいになると肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。【事例8】 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「もこ によき つーん」【事例5】 ☆人との関わり「いない いない ばあ！」【事例6】
 ☆生活習慣「リズムが安定すると気持ちがいいね」【事例7】 ☆運動「ころりんば」【事例8】

〈援助のポイント〉

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて、睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子どもの情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいく。

〈家庭との連携〉

- ・昼は起きて明るいところで生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること(子どもの手の届くところに危険な物は置かない、子どもは大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的に関わる、準備食の内容やタイミングなど)を知らせ、保護者が安心して子どもの動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

(3) 0歳児（6か月頃から9か月頃）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けを喜び、自分でも声を出すことを親しむ。 ・保育者と十分に関わり欲求を受け止めてもらい、親しみをもち安定して過ごす。 ・腹ばいや寝返り、座位など、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。【事例9】 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。【事例9】 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。 ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。 ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。【事例10】 ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。【事例10】 ・人の動きを目で追う様子がある。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。【事例11】 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ） ・うつ伏せの状態で爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。【事例12】 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「引っ張ったら出てきた」【事例9】 ☆人との関わり「先生大好き！」【事例10】
 ☆生活習慣「いろいろなものが食べられるようになってきた」【事例11】 ☆運動「先生と一緒に」【事例12】

〈援助のポイント〉

- ・安全で活動しやすい環境の中で、ほう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。
 また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子どもからの要求を待ち、子どもの意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子どもが不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子どもが安心感をもてるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子どもが十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがいないか確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期で、病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

(4) 0歳児(9か月頃から12か月頃)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人やものに対する興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ・保育者と十分に関わって、欲求を受け止めてもらい、親しみをもちながら安定して過ごす。 ・はいはいをする、はいはいから座位になるなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなったおとなが出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。【事例13】 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合せるなどをするようになる。【事例13】 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが出始める
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。【事例14】 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 ・他の子どもが持っているものに手を出したり、相手に物を渡したりする。【事例14】 ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・誉めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・おとなの言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみで食べようとする。【事例15】 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。【事例15】 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。【事例16】 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。【事例16】 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り替えることができ始める。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「ペタペタ ビリビリ楽しいな」【事例13】 ☆人との関わり「はいっ どうぞ!」【事例14】
 ☆生活習慣「おててに持って食べてみよう」【事例15】 ☆運動「ねえねえ何しているの?」【事例16】

〈援助のポイント〉

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意志をもち始め自分でやりたがる時期なので、子どもの主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子どもの発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子どものできた喜びを一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子どもの関心を広げていく。

〈家庭との連携〉

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子どもには歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

(5) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（57日から3か月頃）「学びの芽生え」【事例1】

お散歩って 楽しいな♪

1 遊びのねらい

○光（明るい光、優しい光など）に反応する。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<部屋の窓際やテラスで過ごす>

- ・保育者に抱っこをされながら光や音に反応し、一点を見つめる。
- ・機嫌に合わせて、マットの上に仰向けになって過ごす。

<園周辺や公園をバギーで散歩する>

- ・光や音に反応し、子どもなりの思いを表情や行動で表そうとする。
- ・シャボン玉に反応し、凝視したり、顔の近くに飛んでくると目を閉じたりする。
- ・風が吹くと気持ちよさそうに笑う。

援助のポイント

- ・最初に、部屋の窓際の光、テラスの光に慣れてから戸外に移動する。
- ・戸外に出掛ける際は、月齢に合わせて背中との角度を調節し、周囲が見えやすくなるように工夫する。
- ・日差しが顔に強く当たらないように、バギーの屋根の角度を調整する。
- ・「○○があるね。」と言葉を伝えるだけでなく、実際に花などを目の前で見せて、「お花あったね。綺麗だね。」などと言葉を掛ける。



・出掛けることが分かり嬉しそうな様子



・シャボン玉を目で追う様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・テラス、園庭、路地、公園など

②用具・遊具

- ・マット、バギー、シャボン玉など

4 安全上の配慮

- 体温調整が未熟な時期で、急な不調が予想されるため、一人ひとりの様子を十分に把握し、短時間から徐々に経験できるようにする。
- 触れたものを口にすることが予想されるため、誤飲につながる物がないか周囲を確認する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 部屋の窓際からテラス、さらに戸外で過ごすことにより、自然の光を浴びて反応したり、花や風などの自然物に触れたりする経験ができた。
- 子どもの表情やわずかな反応を見逃さず、「○○があるね。」などの言葉を掛けて共感することで子どもの興味が増した。また、保育者との安定した関係も構築された。
- 目の前の物に興味を示し、手を伸ばして触ろうとする姿を見ることができた。
- 車や踏切、電車の音が聞こえると、反応して手足を動かしていた。

6 家庭との連携

- 保育室の前に写真を掲示したり、保護者会で子どもたちの姿を動画で見せたりすることで、安心感につなげるとともに、成長を共感し合うことで保護者との信頼関係を構築する。
- 0歳児が心地よくお散歩できる路地や公園の場所を、保護者が見ることができる場所に掲示したり、おたよりで配布したりして情報提供する。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（57日頃から3か月頃）「人との関わり」【事例2】

ぎゅっぎゅっ にこっ！

1 遊びのねらい

- あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
- 音や話し声のする方に顔を向けるようになる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者と触れ合い遊びをする>

- ・保育者にあやされて遊ぶ。



・揺れるカラーポリ袋を見る様子



・保育者に声を掛けられ、目を合わせながら触れ合う様子



・「いないいないばあ。」を見ている様子



・新聞紙に触れ音や感触を楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・お腹が満たされているときや目覚めた後は機嫌がよく、この時間に遊ぶと笑顔を多く見ることが出来る。
- ・素材がもつ音や特性を活かすことで遊びが広がり、自分でも握って楽しむ様子を見ることが出来る。
- ・保育者との表情豊かで直接的な触れ合いにより、最も反応を引き出すことが期待される。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内、ゆったりと触れ合える空間

②用具・遊具

- ・布、ポリ袋、新聞紙など

4 安全上の配慮

○小さな遊具は誤飲の危険が予想されるため、口に入らないような大きさの遊具を用意する。

○布などは顔にかかることが予想されるため、保育者は側を離れないようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

○優しく声を掛けながら、手足や体を揺らしたりくすぐったりしてスキンシップを図ることで、保育者との愛着関係が育まれ、自ら手足を動かすしぐさが増し、よく笑い、情緒の安定に繋がった。

○最初は呼びかけや音に対して反応が少なかったが、声の大きさ・抑揚・リズムに変化をもたせることで、顔を向けたり、多くの反応を見せたりするようになった。

6 家庭との連携

○毎月の園だよりやクラスだよりなどを通して、子どもたちが大好きなわらべ歌や触れ合い遊びを絵や図を用いて紹介する。保護者会では、保育者が実際にやって見せて、園と同様に家庭でも保護者と子どもが触れ合い遊びを楽しめるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（57日頃から3か月頃）「生活習慣」【事例3】

先生とぎゅっ

1 活動のねらい

- 1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。
- よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたたり、顔や手足がピクピク動いたりする。

2 活動・援助のポイント

活動

<一人ひとりの安定した生活リズムで気持ちよく過ごす>

- ・泣いて不快なことを表現する。
- ・生理的欲求が満たされ、心地よく過ごす。

援助のポイント

- ・入園当初は、担当の保育者を決めて、その保育者との安定した関わりを通し、愛着関係を育む。
- ・泣くことによる欲求を受け止め、子どもが泣いている原因（おむつが汚れている、空腹、眠い、暑い、寒い、かゆい、痛い、うるさい、不安など）として考えられる要素を取り除く。
- ・子どもに関わる際は、「おむつ替えようね。」「きれいになったね。」などと優しく言葉を掛けながら笑顔で接する。
- ・抱き上げて、視線を合わせたり言葉を掛けたりすることで安心感を与え、情緒を安定させる。



・心地よく眠っている様子



・快の表情をしている様子

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・音、室温、換気、湿度の調節

4 安全上の配慮

- 体調の小さな変化が予想されるため、すぐに対応できるよう保育者が側につき対応する。小さな変化でも、お迎えの際に保護者に伝え確認し合う。

5 活動を通して育まれた姿

- 泣いている原因を迅速かつ的確に取り除くことで、笑顔を多く見せるようになった。
- ミルクや午睡の時間を少しずつ整えていくことで一日の生活のリズムが、徐々についてきた。
- 頭を撫でると落ち着く子どもや、手を握る・様々な箇所をトントンするなど、保育者と触れ合うことで安心し、次第に落ち着いて過ごせるようになった。

6 家庭との連携

- 発達段階を写真で残し、保護者が見ることができるよう園内に掲示し、子どもたちの今の姿や今後の発達の見通しがもてるようにする。
- 連絡帳などで、ミルクの時間や量、睡眠の時間、排せつの様子だけでなく、園で過ごしている子どもの姿を具体的に記載し一目で分かるようにする。
- できるだけ家庭と園の過ごし方に差ができないよう、一人ひとりの生活リズムや関わり方について、口頭や連絡帳で具体的な姿を保護者と伝え合うことで子どもにとって安定した環境をつくる。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（57日頃から3か月頃）「運動」【事例4】

握ることができるかな

1 遊びのねらい

- 周囲の動くものを目で追う。
- 手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。

2 遊び方・援助のポイント

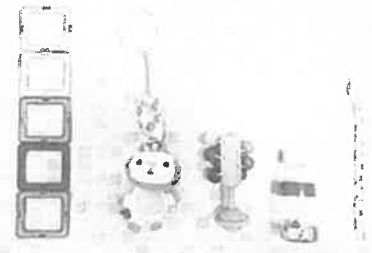
遊び方

<保育者からの声掛けによって、保育者と目が合うことを喜ぶ>

- ・音や声のする方に顔を向けようとする。
- ・保育者に声を掛けられ、視線を合わせようとする。

<遊具に手を伸ばし、握る>

- ・遊具に手を伸ばそうとする。
- ・手に遊具を置かれると握ろうとする。



・音が出る遊具や
握りやすい遊具

援助のポイント

- ・子どもと視線が合うような低い目線で正面から優しく声を掛ける。
- ・視界に入る位置で音の出る遊具などを動かしたり、揺らしたりして興味を引き、子どもの視線を誘導する。
- ・子どもが手を伸ばして遊具を求めたら、捕まえることができるように手のひらに遊具を付ける。
- ・捕まえることができたなら、「にぎにぎできたね。」などと優しく言葉を掛けたり、子どもの頭をなでたりしながら触れ合いを楽しむ。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・子どもが握りやすいサイズの遊具
 - ・鈴やビーズなど、音の違う遊具

4 安全上の配慮

- 握った遊具を振り回すことが予想されるため、他児と適切な距離を置き、すぐに対応できるようにする。
- 遊具は口にも運ぶことから、不衛生になることが予想されるため、遊び終えたら洗ったり拭き取ったりし、清潔な状態を保つ。

5 遊びを通して育まれた姿

- 繰り返し声を掛けることにより目が合う頻度が多くなり、保育者を安心できる存在として認識し、微笑みを返すようになった。
- 好みの音があり、その音を鳴らして動かすと、よく目で追う姿を見ることができた。
- 様々な玩具を用いることで、玩具の揺れ方や音に合わせて目で追ったり、腕や指先を動かして捕まえようとしたりするしぐさを見ることができた。
- 遊具を手に置くと、握ったり離したり、握ったまま口の方へ近付けたりするようになった。

6 家庭との連携

- お迎えの際に、子どもの好きな遊具を見せ、遊ばせ方を具体的にやって見せて、家庭で過ごす際にも園と同様に触れ合い遊びを楽しめるようにする。
- 保護者や保育者の愛情豊かな受容によって愛着関係が形成され、情緒が安定していくことを知らせ、発達に適した遊具を使って触れ合いながら遊ぶ大切さを伝える。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（3か月頃から6か月頃）「学びの芽生え」【事例5】

もこによきつーん

1 遊びのねらい

○唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜手遊びや絵本の読み聞かせに興味をもち反応する＞

- ・保育者の声のする方に顔を向け興味をもつ。
- ・手遊びを行うと凝視したり、口を開けて高い声を出したりして反応する。
- ・絵本や手遊びに出てくる音をまねして、唇を動かして音や声を出そうとする。



・子どもに
絵本や手
遊びを見
せている
様子



・子どもの反応を見ながら、
絵本を読んでいる様子

子どもたちに人気の絵本紹介

- ☆オノマトペ（擬態語・擬音語）が面白い絵本・言葉の繰り返しや心地よいリズム感がある絵本など。
- ☆「もこもこもこ」作・谷川俊太郎・文研出版 ☆「あっぷっぷ」作・中川ひろたか・ひかりのくに
- ☆「ごあいさつあそび」作・木村裕一・偕成社など

援助のポイント

- ・絵本を読むときは、表現豊かにゆっくりと読み、子どもの興味を高める。
- ・同じ絵本や手遊びを繰り返すことで、子どもが次の展開を期待し、安心して楽しめるようにする。
- ・絵本「もこもこもこ」に出てくる「によき。」「つん。」などの言葉を普段の遊びの中にも取り入れ、「によきによき。」「つんつん。」と言いながら体を動かしたり子どもに触れたりして、保育者との関わりを楽しむ。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室、テラス、廊下など

②用具・遊具

- ・絵本（見せる絵本、子どもが触れる絵本）

4 安全上の配慮

- 実際の絵本は、子どもが触れると紙で手を切る場合があることも予想されるため、触ることができる本には、布製や軟らかい素材の絵本を用意する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 高い声を出して喜んだり、手足を動かして反応するようになった。
- 「うー」「ぶー」「ぱっ。」などと、繰り返し音を出すようになり、保育者との関わりに心地よさを感じる様子を見ることができた。

6 家庭との連携

- 降園時や連絡帳で、読み聞かせの様子を伝えたり、子どもの反応などを実際に見せたりするなどして伝え、家庭でも読み聞かせや手遊びを楽しんでもらうきっかけにするとともに、子どもが好きな絵本の題名や手遊びの歌詞や動きを掲示物やおたよりで知らせて、絵本選びや遊ぶときの参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（3か月頃から6か月頃）「人との関わり」【事例6】

いない いない ばあ！

1 遊びのねらい

- 初期の人見知りが始まる。
- 自分から相手にほほえみかけるようになる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者にあやされ笑顔で過ごす>

- ・名前を呼ばれると反応する。
- ・保育者との触れ合いを喜び、声を出し反応する。



・友達と向かい合って顔を見合わせる様子



・トンネルの前から名前を呼ぶと反応する様子



・保育者の表情に喜んで反応する様子



・手作り玩具に笑顔を見せる様子（作り方は下記参

援助のポイント

- ・保育者は表情豊かに関わり、その都度子どもの反応に対し丁寧に応えていく。
- ・室内にいくつかの遊びのコーナーを設定し、繰り返し楽しむことができるようにする。

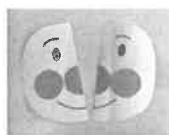
手作り玩具の作り方

材料

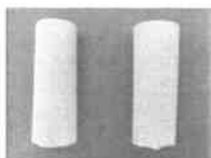
- ・トイレットペーパーの芯
- ・髪ゴム
- ・ラシヤ紙
- ・折り紙
- ・クレヨン



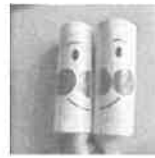
①好きなイラストを作る。



②イラストを半分に切る。



③トイレットペーパーの芯に折り紙を貼り、その上にイラストを貼る。



④髪ゴムを2本の芯に通して結ぶ。



⑤ゴムを引っ張り間から顔を出す。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室、散歩先

②用具・遊具

- ・マット、木製トンネル、玩具、カーテンなど

4 安全上の配慮

- 担当したコーナーの子どもだけに注意を払うだけでなく、転倒やトラブルによるけがが予想されるため、保育者同士の声の掛け合いを密にし合うことで、危険を未然に防ぐようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者が向かい合って微笑み返すことで、反応して繰り返し笑顔を見せたり、腹ばいの姿勢から前に出ようと、何度も手を伸ばそうとする姿が見られるようになった。
- 担任の認識ができて、愛着関係が育まれてきたと同時に、見慣れない人への人見知りが始まった。

6 家庭との連携

- 子どもの発達を、写真やビデオを通じて実際にその様子を見てもらうことで、保護者と一緒に共感したり、喜び合ったりする。また、発達に応じた遊びを家庭でも十分に行えるように、子どもの好きなふれあい遊びや手作りおもちゃの作り方をよりや掲示物などで知らせ参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（3か月頃～6か月頃）「生活習慣」【事例7】

リズムが安定すると気持ちがいいね

1 活動のねらい

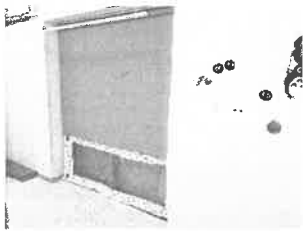
○眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。

2 活動・援助のポイント

活動

＜飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす＞

- ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。
- ・子ども一人ひとりの、眠るタイミングで、一定時間心地よく眠る。



・眠るために日の眩しさを軽減した室内の様子



・各自のスペースが確保されている様子

- ・目覚めているときは、保育者にあやされ、安心して笑顔になる。

援助のポイント

- ・それぞれの子どもにとって、より過ごしやすいリズムを探し、職員同士が声を掛け合い、口頭で確認したり、連絡ボードに記入したりするなど、情報交換を密にして、全員で把握する。
- ・同じ部屋の中で、飲む、寝る、遊ぶことを保障するために、空間の使い方を工夫したり、保育者の動線を少なくしたり、声の大きさに気を付けたりする。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで体の健康を保ち、「快」の感覚を育む。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・一人ひとりのリズムを保障する空間

4 安全上の配慮

○この時期は、子どもとの愛着形成のために担当の保育者が対応することが多い。この場合、情報が共有されないと、他の保育者の対応が困難になることが予想されるため、職員同士が情報交換を密にし、それぞれの子どもの状況を全員で把握する。

5 活動を通して育まれた姿

- 登園後から午前中に一定時間睡眠できると、その後の遊びや授乳を機嫌よく行うことができるようになった。
- 保育者が、子どもの生活リズムを把握し援助することで、一人ひとりが機嫌よく安定して過ごすことができるようになった。

6 家庭との連携

- 昼は起きて明るいところで生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さについて個人差に応じながら保護者に伝え、家庭でもできるようにする。
- 働きながら育児をする中での悩みに対して、お迎えの際や個人面談などの時間を作り、保護者から十分に聴き取り共感しながら具体的なアドバイスを行い、励ますことで信頼関係を深め、子どもにとってよい環境になるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（3か月頃～6か月頃）「運動」【事例8】

ころりんぱ

1 遊びのねらい

○足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返り、うつ伏せの感覚をつかむ>

- ・保育者とのスキンシップの中で、体を左右にコロコロと動かすことで、体を横に向ける姿勢に慣れ、安心して体の傾け方を知る。
- ・うつ伏せの体勢に慣れ、寝返りを嫌がらずに行う。



・1歳児が寝返る姿を見せている様子



・自分から寝返りを行う様子

援助のポイント

- ・保育者の声掛けだけでなく、お気に入りの玩具や音の鳴る玩具などで興味を引き、手を伸ばそうとするところで体を傾けるしぐさを誘発する。
- ・クッションやタオルを脇の下に入れることで、少しずつうつ伏せの姿勢を保つことができるようにする。
- ・滑らかな傾斜を作り、子どもが自然と寝返りの感覚をつかむことができるようにする。
- ・「できたね。」「いろいろなものが見えるね。」などと声を掛けたり、手を叩いて見せたりすることで、心地よさにつなげる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・クッションやタオル、傾斜を作る敷物、玩具

4 安全上の配慮

○うつ伏せの姿勢から仰向けに戻ることができない子どもは、窒息することも予想されるため、必ず保育者が側につき目を離さないよう注意し、仰向けの姿勢に戻す。

5 遊びを通して育まれた姿

- 体を傾けることへの抵抗が強かった子どもは、毎日繰り返すことで安心感を得て、少しずつ身を任せるようになった。
- 異年齢児が寝返る様子を見て、刺激を受けてまねをするように手足を動かしたり、空中を蹴り上げたりするようになった。
- 繰り返し「できたね。」などと言葉を掛けることで心地よい嬉しさを感じ、できたときの笑顔を見ることができた。

6 家庭との連携

○成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子どもの手の届くところに危険な物は置かない、子どもは大人が予想する以上に動くことを考慮するなど。）を具体的に知らせ、保護者が安心して子どもの動きたい欲求に合った環境を整えられるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（6か月頃から9か月頃）「学びの芽生え」【事例9】

引っ張ってみたら 出てきた

1 遊びのねらい

- 物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。
- 引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<布に興味をもち、布を触ったり箱から引っ張り出したりして遊ぶ>

- ・保育者や、高月齢児（9か月～12か月頃）が布で遊んでいる姿を見て興味をもち、布に触れて遊ぶ。



・布を引っ張り出して遊ぶ様子

作り方

- ①布の端と端にマジックテープを付ける。
- ②つなげて長くしたものを箱やミルク缶の中に入れる。



- ※○はマジックテープの位置。
- ※マジックテープを使わずに結んでつなげてもよい。

- ③箱やミルク缶を、肌触りのよい布などで覆う。



・できあがった手作り玩具

援助のポイント

- ・遊びに集中できるように、少人数で遊ぶように場を設定する。
- ・保育者が実際に遊び方を見せて興味をもたせる。
- ・布を引っ張り出して遊ぶ姿を見守りながら、「出てきたね。」「おもしろいね。」などと声を掛けながら、意欲を育む。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・布を使った手作り玩具

4 安全上の配慮

- お座りが安定していない子どもは、夢中になって遊んでいるうちに転倒することが予想されるため、側に付いて見守りながら一緒に遊ぶ。

5 遊びを通して育まれた姿

- 柔らかい布の感触を楽しみながら、指や手のひらでつかんで引っ張り出すことを楽しんでいた。
- 「出てきたね。」と声を掛け共感することで、「あつ、あつ。」と、子どもから出てきたことを知らせようとするしぐさをしたり、声を出したりするようになった。
- 指や手のひらの発達が促され、様々な形状の玩具を握ったりつまんだりするようになった。

6 家庭との連携

- 実際に遊んでいる玩具を保護者に見せ、家庭でも身近なものを使って遊ぶことができるように、作り方を情報提供する。
- 触ったものを口に運ぶので、この時期の子どもの最大口径（概ね4センチメートル以上）の玩具を選ぶ。また、遊んだ後は洗って天日干しをするなどして清潔を保つなど、安全と衛生に留意をしながら十分な探索活動ができるように環境を整えることの大切さを保護者に伝え、家庭で実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（6か月頃から9か月頃）「人との関わり」【事例10】

先生 大好き！

1 遊びのねらい

- 要求があると声を上げる。
- 名前を呼ばれると応じる様子がある。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者との愛着関係を育む>

- ・保育者にしてほしいことがあると泣いたり声を上げたりして表現する。
- ・保育者と一対一での関わりを楽しみ、笑顔で反応する。



- ・紐が付いている遊具をゆっくりと引っ張り、「おいで、おいで。」などと声を掛けはいいを促し、保育者との関わりを楽しんでいる様子



- ・保育者が仰向けになり、子どもの体全体を支えながら目を合わせ、やり取りを楽しんでいる様子



- ・保育者や周りの子どもの歌う歌に合わせて、子どもを揺らしながら遊ぶ様子

曲名

「お馬はみんな」
「バスごっこ」
「バスにのって」

援助のポイント

- ・子どもの表情の変化から気持ちを汲み取り、その都度丁寧に対応する。
- ・保育者も表情豊かに、また、声に抑揚をつけながら積極的にスキンシップを図っていく。
- ・保育者から優しく語り掛けるように名前を呼んだり丁寧に関わったりし、愛着関係を育む。
- ・紐が付いている遊具を使って、ずり這いやはいはいなどを促し、保育者との関わりを深める。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・紐付の遊具、保育者の歌声

4 安全上の配慮

- 床に遊具が散乱しているとぶつかってけがをすることが予想されるため、遊具の数は子どもの人数に合わせて適切に準備する。また、興味がなくなったら速やかに片付け、安全な環境を設定する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもが声を上げたり、泣いたり、手を差し伸べたりするなどして、要求を表すことに丁寧に応じることで、情緒の安定につながり、落ち着いて過ごすことができるようになった。
- 名前を呼ばれて誘い掛けられると、じっと見たり保育者に近付こうとする姿を見ることができるようになった。
- 子どもと保育者が繰り返しスキンシップを図ることで、笑顔で過ごす姿を多く見ることができるようになった。

6 家庭との連携

- 人見知りや後追いは成長の証であり一過性であることを知らせる。子どもが不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて、子どもが安心感をもてるようにすることを保護者に伝え実践してもらう。
- 子どもが好きな関わり遊びを保育参観などで実際にやって見せることで、家庭で遊ぶ際に役立ててもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（6か月頃から9か月頃）「生活習慣」【事例11】

いろいろなものが食べられるようになってきた

1 活動のねらい

○前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜いろいろな食材の味や形態、スプーンに慣れる＞

・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。

望ましい食べさせ方

- ①離乳食は舌でつぶしやすく、飲み込みやすいように、適切な一口大にしてスプーンの先端にのせる。
- ②子どもの口の中に入れたら、唇が閉じてからスプーンを引く。
- ③食べ物を舌の中央より奥に置くと嚥下反射を誘発し丸飲みの原因になるため、舌の前の方に置く。
- ④口に入れたら、「もぐもぐ。」などと声を掛け、保育者も口を動かして見せて舌で押しつぶしているか確認しながら進める。



・スプーンの先端にのせた一口大の目安



・スプーンに慣れ、食べ物を口の中に取り込む様子

援助のポイント

- ・液体状の食材は、スプーンを横にして上下の唇の隙間にスプーンを当て、上唇が水面に触れて湿り、水分をすする動きが見られるのを待ってからスプーンを傾け少量ずつ与える。
- ・コップを近付けたときに、コップを持とうとする動きを見ることができた際は、保育者が手を添え直接コップから水分を飲むことができるように援助する。
- ・子どもの意思や意欲が高まるように、「おいしいね。」などと、優しく声を掛ける。
- ・食事に対する意欲が徐々が増えてくる時期なので、手で持つことができる食べ物は持たせるようにする。

3 環境の構成

①活動の場所

・保育室

②用具・構成

- ・離乳食、介助用のスプーン
- ・食事用の椅子やトッター（テーブルが付いた椅子）

4 安全上の配慮

○新しい食材を試す場合は、アレルギー反応が出ることが予想されるため、家庭で試した様子を情報収集し、園でも十分に子どもの反応を把握しながら進める。

5 活動を通して育まれた姿

- 「おいしそうですね。」「どれから食べようか。」などと声を掛けながら子どもの反応を見ながら進めることにより、次第に子どもから声を出したり口を開けたりして、食べたいという意思表示を見せるようになった。
- 食べ物を嚙んだり舌でつぶしたりして食べるしぐさを見ることができた。

6 家庭との連携

○調理職員・栄養士・看護師が、食事に関する相談やアレルギーなどの情報提供ができる機会を設けたり、離乳食体験を行ったりすることで、保護者が離乳食への理解を深め、食事を作ることや子どもと一緒に食べることに喜びを感じることができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（6か月頃から9か月頃）「運動」【事例12】

先生と一緒に

1 遊びのねらい

○寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜体全体を動かして遊ぶことを楽しむ＞

- ・名前を呼ばれると手を上げたり、保育者の側に行こうとして、はいはいしたりする。
- ・安定した場所で、お座りをして遊んだり、つかまり立ちをする。



援助のポイント

- ・名前を呼ぶ際に手を挙げる動作や、はいはいをして移動する動作を保育者がやって見せて子どもがまねをして動作をするように促す。
- ・名前を呼んだだけでは反応がない場合には、子どもの好きな玩具を使い、子どもの興味を引きながらはいはいを促す。
- ・お座りやつかまり立ちが安定していない頃は、転倒することが予想されるため、頭を守るためのクッションや敷物などを利用する。

・名前を呼ばれて手を上げている様子

・呼びかけに反応し、はいはいをしながら保育者に近付く様子



・転倒したときに頭を守るリュック型のクッションを背負っている様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・子どもが好きな玩具、ボールなど

4 安全上の配慮

○遊具などが散乱していると、はいはいをする際にけがをすることが予想されるため遊具を整理する。また、お座りでじっくり遊ぶ場所、はいはいする場所、つかまり立ち方が楽しめる場所などのコーナーに分ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 寝返りから、うつぶせ遊びが安定し、高這いのしぐさからお座りへと、活発に動くことができるようになった。
- 保育者が名前を呼ぶことで手を上げたり、「はいはいするよ。」などと声掛けをしながら、保育者がはいはいをして見せたりすることで、動きをまねて次第に呼びかけに反応するようになった。
- 保育者と目が合い、名前を呼ばれるとはいはいで保育者のもとへ行き、抱きしめてもらうやり取りを繰り返し楽しむことができた。
- ボールを追いかけてはいはいするなど、活発に体を動かしていた。
- 安定した場所でつかまり立ちをして、少しの間姿勢を保つことができるようになった。

6 家庭との連携

- うつ伏せの状態ですら爪先で床を蹴るという動作をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になることを保護者に知らせ、家庭でもそのような動作を伴う遊びができるようにする。
- 園が行っている、はいはいを促す誘い掛けや安全面の工夫を、おたよりや掲示などで具体的に伝え、家庭でも子どもがはいはいやお座り、つかまり立ちを楽しめるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（9か月頃から12か月頃）「学びの芽生え」【事例13】

ペタペタ ビリビリ楽しいな

1 遊びのねらい

- 自分でやってみたい気持ちが芽生える。
- 容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<手作りの壁玩具で遊ぶ>

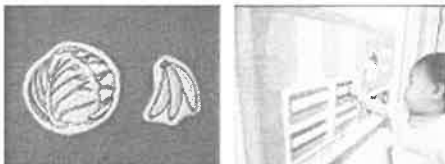
- ・玩具に興味をもって、保育者と一緒に見たり、触ったり、貼ったり、剥がしたりする。
- ・食べ物絵を手にとろうとして食べるまねをする。

壁玩具作り方

- ①食べ物絵を段ボールに貼り、その形に切り、上から透明のフィルムテープを貼る。
- ②裏に、マジックテープを付ける。
- ③壁のパネルに、食べ物絵が描かれているカードを付け、子ども



- ・人形に布団が掛けられているのを見て、自分も布を被っている様子
- ・それを、側で見ている子どもの様子



- ・マジックテープの付いている食べ物絵のカードを、壁のボードに貼っている様子



- ・積み木を重ねている様子

援助のポイント

- ・食べ物絵は、子どもたちに親しみのある野菜や果物を選んで作成する。
- ・保育者が遊び方を見せて興味をもたせる。
- ・手のひらや指先で様々な素材に触れることにより、手や指の発達を促す。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・室内
- ②用具・玩具
 - ・手作りの壁玩具
 - ・積み木、布、人形など

4 安全上の配慮

- 食べ物絵のカードは、フィルムテープで補強するが、使ううちに剥がれて、破片を口に入れてしまうことが予想されるため、遊ぶ前には必ず点検してから遊ばせるようにする。
- 積み木は投げたり振り回したりすると、他児に当たってけがをすることが予想されるため、「痛い痛いだよ。」などと言ったり、首を横に振るしぐさをして、振り回してはいけないことを知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- 手作り壁玩具は、遊び初めの頃は付け方や剥がし方が分からない様子だったが、慣れてくるとカードをよく見て、付けようとして持ち替えたり、指先で上手に剥がしたりする様子が見られた。
- 自分でやろうという気持ちが感じられ、繰り返し遊ぶ姿が見られた。
- できたときは、「上手だね。」「できたね。」などと、笑顔で手を叩いて褒めると、嬉しそうにしている姿が見られた。

6 家庭との連携

- 連絡帳で伝えるだけでなく遊んでいる写真を見せたり実際に玩具を見せたりして、自分の意思をもち自分でやりたがる時期の姿を共通理解し、家庭でも子どもとのやり取りを楽しんでもらう。
- 遊びの中で子どもができた喜びを一緒に感じ、表情や言葉やしぐさ（にっこり笑って、「できたね。」などと言って手を叩く。）で伝えることの大切さを保護者に知らせ、家庭でも実践できるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（9か月頃から12か月頃）「人との関わり」【事例14】

はいっ どうぞ！

1 遊びのねらい

- 相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。
- 他の子どもが持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者や友達との関わりを楽しむ>

- ・保育者と一緒にままごと遊びを楽しむ中で、様々なやり取りを楽しむ。



・「これは何かな？」「どれにしようかな？」などと、興味をもって手を伸ばしている様子



・「ちょうだいな。」と言うと、手に持ったボールをこちらに差し出している様子
※「ありがとう。はいどうぞ。」と言いながらボールを返すと、同じように手を伸ばして受け取り嬉しそうにする。



・保育者が子どもの口元に飲み物の玩具を近づけると、口を開けて飲もうとするので、「ごくごく。おいしいね。」と言いながら保育者が話しかけている様子



・友達が、飲み物を持って、「かんぱーい。」と言っているところを見て、自分も同じように飲み物に手を伸ばしている様子

援助のポイント

- ・おままごとなど、やり取りを楽しめる遊びを積極的に取り入れる。
- ・子どもたちが手を伸ばしたときに、「これが欲しいのね。」「ちょうだいな。」などと言葉を添えながら、思いとしくさと言葉が一体になるように働きかける。
- ・保育者は、声のトーンや話す速度を変えながら、やり取りを楽しむ遊びが広がるような援助する

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・ままごとセット、鍋、カップ、皿など

4 安全上の配慮

- 手にした玩具を口に運ぶと、誤飲につながることを予想されるため、口に入らない大きさの玩具を用意する。
- 遊具の取り合いになると、けんかや噛みつきにつながることを予想されるため、適切な数の遊具を準備したり、「ちょうだいな。」などと言いながら、保育者がやり取りを見せたりして知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- 友達や周囲への興味・関心が強くなり、「ちょうだいな。」「どうぞ。」のやり取りを楽しむことができた。
- 場に合せて言葉を添えたことで、「ちょうだいな。」という手を出したり、「どうも。」と頭を下げたり、言葉の最後を言ったり、「わんわん。」などの一語文を話す子どもの様子を見ることができた。

6 家庭との連携

- 周りの大人が、子どもが発見したことを言葉にしたり、物を媒介にしたやり取りを行ったりする中で、子どものできた喜びと一緒に感じ、表情や言葉で伝えることの大切さを、個人面談などの機会やおたよりなどで知らせ、保護者も家庭でできるようにする。
- 家庭での応答的な遊びを多く経験できるように、園での遊びの様子を保育参観などで具体的に見てもらえる機会をつくり参考にしてもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（9か月頃から12か月頃）「生活習慣」【事例15】

おててに持って食べてみよう

1 活動のねらい

- 手づかみで食べようとする。
- 大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。

2 活動・援助のポイント

活動

＜食材に興味をもち自分で食べようとする＞

- ・自分で食べようとする気持ちを持ち、手で持って口に運び食べる。

援助のポイント

- ・保育者が、食べ物の絵本に描かれている食べ物を口に運ぶまねをして、「もぐもぐ。」と口を動かして見せたりして、遊びの中でも自分で口に運んで食べることを知らせ、子どもとやり取りを楽しむ。
- ・調理員と連携し、子どもが手でつかむにはどのような食材がふさわしいか、大きさや太さや柔らかさなどを工夫してもらう。
- ・1つのものを先に食べてしまったり、皿をひっくり返してしまったりする可能性を考慮し、取り皿に少量ずつ分けて提供する。
- ・子どもが一人で手に持った食材に対し、「これは〇〇だよ。」「甘くておいしいよ。」などと、食べてみようと思えるような言葉を掛ける。
- ・上手に食べることができたときは、達成感を得られるように、「上手に食べることができたね。」などと褒めて、一人で食べる意欲につなげる。
- ・食べ方にムラが出たり、遊び食べをする姿も出てくるため、食べる意欲のある手づかみ食べなのか、食欲がなくなったための遊び食べなのかを見極め、遊び食べのときには食事を終了する。
- ・落ち着いた雰囲気の中で食事ができるよう、ゆったりとした空間づくりに努める。

ふさわしい食材の例

- ・皮なしウインナー
- ・野菜スティック
- ・棒状のチーズ
- ・パンなど



- ・取り分けられた食材の中から自分でつまんで食べようとしている様子

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・食事用テーブル、椅子
- ・各自の食事

4 安全上の配慮

- 手に持った食材を、口いっぱいに入れてしまうと、のどに詰まってしまうことが予想されるため、入れすぎないようにすぐ側で見守り、一口サイズに分けたり、「もぐもぐしてからね。」などと声を掛けたり、口を動かして見せたりする。

5 活動を通して育まれた姿

- 手づかみに適した食材を取り皿に分け、子どもの近くに置くことで触ったり握ったりと興味を示し、保育者に促されながら、口に近付けて食べようとする姿が見られた。
- 異年齢児がスプーンやフォークで食べる姿を見て、大人がスプーンを持つ手に手を添えてくる姿が見られた。

6 家庭との連携

- 自分で食べる意欲につなげるためには、手づかみ食べは必要な時期である。家庭でも保護者に見守られながら子どもが自分で食べる機会をつくってもらおう。そのためには、手に持って食べている様子を写真で掲示したり、保育参観で実際に子どもが食べる様子を見る機会をつくったりして具体的に方法を知らせる。
- 汚れやこぼしなどの対応策のアイデアをおたよりや掲示などで知らせる。（小皿に分ける、椅子の下に新聞紙を敷く、スモックタイプのエプロンを使用するなどの、すぐにできる工夫。）

「わくわくドキドキするような保育」
0歳児（9か月頃から12か月頃）「運動」【事例16】

ねえねえ何しているの？

1 遊びのねらい

- つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。
- 両手で物を持ち、手渡す。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜身近なものに興味や関心をもち、探索活動を楽しむ＞

- ・保育者と一緒に散歩に出かけ、どんぐりや落ち葉を摘んだり、握ったり、拾ったりする。
- ・保育者に「ないないしようか。」などと促され、どんぐりを袋に入れる。
- ・どんぐりを使った手作り玩具で遊ぶ。



・落ち葉の上でどんぐりに変身し、転がりながら遊ぶ様子



・年上の子どもが遊ぶ姿をじっと見ている様子

援助のポイント

- ・公園に行き、落ち葉を空に舞わせて見せたり、どんぐりを転がして見せたりして、「何だろう？触れてみたい。」という意欲を引き出す。
- ・手作りのマラカスは、子どもの目の前でカラカラと鳴らして見せて、子どもの興味を引き出す。

マラカスの作り方

- ①子どもが握りやすい大きさのプラスチックカプセルを用意する。
- ②子どもと一緒にどんぐりや適当な長さの切ったストローをプラスチックカプセルに入れる。
- ③蓋が開かないように保育者がビニールテープでとめる。
※好きな絵をプラスチックカプセルに貼ってもよい。



・どんぐりをバックに入れる様子

バックの作り方

- ①ペットボトルの側面に直径5センチメートル程度の穴をあける。（どんぐりを入れる穴）
- ②切ったふちは手を切らないようにビニールテープなどで覆う。
- ③紐をつけて持ち手にする。
- ④ペットボトルの周りに子どもがビニールテープなどで飾りを貼る。



3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・公園、保育室
- ②用具・遊具
 - ・どんぐり、カプセル、ペットボトルなど

4 安全上の配慮

- 公園で探索活動をする場合は、危険な物（ガラス、吸い殻など）を何でも触ったり口に入れてりするなどの危険が予想されるため、遊び始める前に保育者が園内を見て周り、確認する。
- 公園でもつかまり立ちや伝い歩きをする際に、しりもちや転倒してけがをすることが予想されるため、遊ぶのに適切な場所を事前に選ぶ。

5 遊びを通して育まれた姿

- つかまり立ちや伝い歩きをしながら、公園の中で少しずつ行動範囲を広げて探索活動を楽しんでいた。
- 保育者や年齢が上の子どもたちの動きを目で追って、まねをして手を伸ばしたり、指で摘んだり、両手で持って手渡したりして遊んでいた。

6 家庭との連携

- 公園で体を動かし、探索活動を楽しみながら季節感のあるもので遊んだ様子を、お迎えの際に口頭や掲示物を利用して保護者に伝える。作ったマラカスは、園で楽しんだ後に家庭に持ち帰り、親子で楽しんでもらう。
- この時期の体の動きに応じた伸縮性のある服装を実際に見本を見せたり、おたよりや掲示物などで知らせたりする。（お腹が出にくい、引っかかりにくい服装など。）

1 歳児 事例

(1) 1歳児 I期 (4月から5月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れる。 ・保育者と一緒に好きな遊びを見付ける。 ・安心して食べたり、眠ったりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春の自然に触れる。 ・身近な環境の中で探索活動を十分に楽しむ。 ・一人遊びを十分に楽しむ。【事例1】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前や友達の名前が分かるようになる。 ・片言が盛んになる。 ・要求やしぐさや簡単な言葉で表現しようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉のまねをしたりする。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりして楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に慣れて安心して過ごす。 ・お気に入りの物（持っている物と安定する物）がある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の物が分かるようになる。 ・保育者や同じ部屋で生活している友達に親しみの気持ちを感じる。 ・保育者に甘えたり、わがままを言ったりするなど、安心して思いを出す。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「バイバイ」「ありがとう」などの挨拶をしぐさや言葉で行う。 ・保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。【事例2】
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。【事例3】 ・おむつが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・着替えるときに手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 ・昼寝が1日1回となる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に歩くことを楽しむ。【事例4】 ・ゆるやかな斜面や段差を上る、下りるなどの足腰を使った運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・たたく、つまむ、転がすなどの指先を使った遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を揺すったり、手足を動かしたりする。

〈指導例〉

☆学びの芽生え「じっくり ポン！」【事例1】

☆生活習慣「もぐもぐゴックン」【事例3】

☆人との関わり「おもちゃは お家へ帰ろう」【事例2】

☆運動「歩くの大好き！」【事例4】

〈援助のポイント〉

- ・家庭との連絡を密にし、個々の状態を把握した上で新しい環境の中で安心して過ごせるように、丁寧に対応していく。特に、食事や睡眠などが重要であることを踏まえ、生活の安定を図っていく。
- ・なるべく少人数で過ごし、担当の保育者との関係を深め、安定して遊べるようにする。食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、安心できるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を聞き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。
- ・園での様子を伝え、子どもや保護者との信頼関係を深めていく。
- ・連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく。（通年）

(2) 1歳児 Ⅱ期 (6月から8月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋や保育者に慣れ、一人遊びを十分に楽しむ。 ・身近な物への興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ・探索活動を通して触れたり試したり驚いたりするなど、いろいろな体験をする。 ・砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。【事例5】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な型はめやパズルをする。 ・喃語や片言で保育者とのやり取りを楽しむ。 ・絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返して楽しむ。 ・簡単な二語文を話すことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けや指示が分かり、行動しようとする。 ・クレヨンでぐるぐる描きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて手遊びや体操をする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 ・お気に入りの物やお気に入りの場所がある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・“自分で”という気持ちが芽生え、やってみようとする。【事例6】 ・“自分の(物)”という気持ちを持ち、伝えようとする。 ・してほしいことを動作で伝えようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に「待っててね。」と言われると、少しの間、待てるようになる。 ・「おはよう。」「いただきます。」などの簡単な挨拶をする。 ・保育者の言葉掛けや表情で、危ないことなどに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・おむつが汚れていないときは便器に座ってみる。 ・ズボン、パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。【事例7】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱ごうとする。 ・保育者を追いかけたり、一緒に逃げたりして走ることを楽しむ。 ・斜面、階段の上り下り、トンネルくぐりなど足腰を使った遊びを楽しむ。 ・ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。【事例8】

〈指導例〉

☆学びの芽生え「ばしゃばしゃ ぐにゅぐにゅ」【事例5】

☆人との関わり「Let's Try」【事例6】

☆生活習慣「一人でできるもん!」【事例7】

☆運動「夢中になって遊ぶのは楽しい!」【事例8】

〈援助のポイント〉

- ・気温や湿度が上がる時期なので、個々の健康状態を十分に把握し、水分補給や衣服の調節をして気持ちよく過ごせるようにする。
- ・自分でやろうとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり、励ましたりしていく。
- ・子どもの発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく。

〈家庭との連携〉

- ・天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。
- ・汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらうようにする。

(3) 1歳児 Ⅲ期 (9月から10月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に触れ、興味をもつ。 ・保育者と楽しく関わる中で、言葉を覚える。 ・全身を使った遊びや一人遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物や小動物を見たり、触れたりして興味をもつ。 ・園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、触れる、やってみる、驚くなど、いろいろな体験をする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉粘土や砂を使った遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・自分の要求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を見る。 ・クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどを楽しむ。【事例9】 ・手遊びや歌、体操などを保育者と一緒に楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。【事例10】 ・思いや要求を指差しや身振りで伝えようとする。 ・園内のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、関わってもらうことを喜ぶ。 ・保育者の声掛けで危ないことや、やってはいけないことに気付き、やめようとする。
	信頼	
	規範	
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・器に手を添え、自分で食べようとする。 ・様々な食品を食べてみようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせ、便器に座ってみる。 ・援助されながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・援助されながら、手洗いをする。【事例11】 ・靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 ・保育者と一緒に歩く、走る、よじ登る、くぐる、跳ぶ、ぶら下がるなど全身を使った遊びをする。 ・つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。【事例12】

〈指導例〉

☆学びの芽生え「ぐるぐる お絵描き」【事例9】

☆人との関わり「かーしーて」「いーいーよ」【事例10】

☆生活習慣「あわあわ ごしごし」【事例11】

☆運動「見て見て 先生」【事例12】

〈援助のポイント〉

- ・全身運動が活発になるので活動の状態に配慮し、じっくりと遊べるよう安全な環境を整えていく。
- ・子どもが扱いやすい様々な素材に触れる機会をつくり、素材を使う楽しさを十分に感じられるようにする。
- ・子どもの思いや要求など、伝えようとしている気持ちをくみ取り、言葉に置き換えていく。
- ・自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、一人ひとりに合った援助をしていく。

〈家庭との連携〉

- ・行事や保育参観を通して子どもの姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらうようにする。
- ・季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子どもの様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。

(4) 1歳児 IV期 (11月から12月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・要求を言葉で伝えたり、言葉を使うことを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や小動物に触れ、親しむ。 ・積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。【事例13】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と簡単な挨拶を試みる。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・歌や手遊び、簡単なリズム遊びを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単なやり取りをしようとする。 ・保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。【事例14】
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人や子どもに関心をもつ。 ・大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。【事例14】
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「待っててね」「あとでね」などの言葉掛けが分かり、行動する。 ・タオルなど自分と友達の持ち物を区別する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持ってみたり、自分で食べようとしたりする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・パンツやズボン、靴などを自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で手洗いをしようとする。 ・保育者と一緒に片付けをしようとする。【事例15】 ・指先を使った遊びを繰り返し行う。 ・ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。【事例16】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「パズルであそぼ♪」【事例13】 ☆人との関わり「まねっこ遊び」【事例14】
 ☆生活習慣「おもちゃのお家を探そう」【事例15】 ☆運動「ボールは友達」【事例16】

〈援助のポイント〉

- ・物の取り合いなどで子ども同士のトラブルも多くなるが、一人ひとりの思いを受け止めたり、同じものを複数用意したりしながら、友達との関わりを育んでいく。
- ・子どもとの会話を楽しんだり、遊びの楽しさを周囲の子どもとも一緒に感じたりしていく。
- ・落ち着いて遊べるようになってきているので、じっくりと遊んでいる様子に関わり満足感や喜びを感じられるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・個人差が大きくなる時期なので、一人ひとりの発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。
- ・感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。
- ・友達への関心が芽生え、関わって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。

(5) 1歳児 V期 (1月から3月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に、興味のあることや生活経験を取り入れた簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことをしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関わりを通して言われたことの意味が分かり、その通りに行動してみる。 ・大人をまねたり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。 ・身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・したいこと、してほしいことを、しぐさや簡単な言葉で伝えようとする。 ・身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。【事例17】
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。【事例17】 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだりする。 ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて、音の出る手作り玩具などを鳴らして遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。 ・保育者や友達と簡単なごっこ遊びをする中で、友達の存在を感じる。【事例18】
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことを、何でも自分でやってみようとする。 ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもって関わろうとする。【事例18】 ・保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場所が分かる。 ・保育者の援助を受けながら、少しずつ納得して物の貸し借りをする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持とうとし、最後まで自分で食べようとする。 ・保育者や友達と同じ場で、楽しく食べる。 ・手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。【事例19】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・体操、追いかっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。【事例20】 ・ボタンはめ、ひも通し、クレヨンを扱うなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「絵本大好き」【事例17】
- ☆生活習慣「自分で!」【事例19】

- ☆人との関わり「お誕生日会ごっこ」【事例18】
- ☆運動「よーいどん」【事例20】

〈援助のポイント〉

- ・基本的な生活習慣の形成には個人差を考慮し、落ち着いた雰囲気の中で繰り返し経験させていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助し、自分でできた満足感を味わえるようにする。
- ・子どもの伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見て言葉を掛けたりしながらやり取りをし、会話の楽しさを伝えていく。

〈家庭との連携〉

- ・連絡ノートや登降園時に園での子どもの活動の様子を知らせ、子どもが様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。
- ・身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子どもの成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらるように、具体的な見本等を示して伝えていく。
- ・生活や遊びの中での言葉のやり取りをクラスだよりなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。

(6) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児I期（4月から5月）「学びの芽生え」【事例1】

じっくり ポン!

1 遊びのねらい

○一人遊びを十分に楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜様々な物（ひも・チェーン・キャップ・柔らかい棒など）をつまんだり、手で握ったりしながら、入れ物の穴に落とす＞



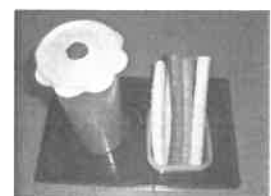
・ペットボトルのふたを落とす様子



・曲がった素材をつまんで落とす様子



・水筒形式の入れ物を活用した遊具



・柔らかい素材の棒を活用した遊具

援助のポイント

- ・保育者が遊具をさりげなく設定し、「これは何かな？」と声を掛けて子どもの興味を引く。
- ・子どもがどのような反応を示すか観察しながら、遊び方のヒントになるようにやって見せる。
- ・穴や落とす物のサイズは、大きなサイズから始め、それができるようになったら、サイズを小さくする。
- ・できたときには「おもしろいね。」「じょうずだね。」と褒め、できた喜びや達成感を味わわせる。
- ・「おもしろいね。」「△△ちゃんもやってみる？」など、側にいる子どもにも声を掛けて誘う。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・数名ずつ遊ぶコーナー

②用具・遊具

- ・穴の開いた入れ物、穴に入れる素材（ひも・チェーン・キャップ・柔らかい棒など）

4 安全上の配慮

- 穴に入れる素材は、誤飲することが予想されるため、口に入れることができないような大きさや、長さの物を用意する。

5 遊びを通して育まれた姿

- じっくり遊び込める環境の中で、集中して一人遊びを楽しむ姿を見ることができた。
- じっくりと一つの遊びをすることで気持ちが満たされ、安心して過ごすことができた。
- 初めは穴にうまく落とせず保育者に助けを求めたりすぐに飽きたりする子どもがいたが、繰り返し遊ぶことで一人でもできるようになり、楽しむ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 園で一人遊びを十分に楽しむ様子を写真などで壁や保育室の入り口に掲示したり、実際の遊具を見せたりすることで、保護者にその遊びから子どもにどのようなことが育まれているのかを伝え、成長を共感する。
- 家庭でも手作り遊具を用意することができるように、簡単な作り方をより情報提供し、子どもたちの遊びを豊かにする。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児I期（4月から5月）「人との関わり」【事例2】

おもちゃは お家へ帰ろう

1 遊びのねらい

○保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者や友達のマねをして一緒に片付けをする＞

- ・保育者に声を掛けられたり、友達のマねをしたりして片付けをしようとする。



・保育者に促されながら片付ける様子



・分かりやすい棚の表示の工夫

援助のポイント

- ・「散歩に行くから片付けよう。」「ご飯を食べるから片付けよう。」など、状況が分かるような言葉で誘い掛けながら一緒に片付ける。
- ・片付けようとしないうちの子どもには、「一つだけお片付けをしよう。」などと、遊んでいた玩具を渡し、保育者と一緒に玩具棚へ片付けに行く。
- ・片付けることができたときは、「ないないできたね。」と言葉を掛け、姿を認める。
- ・片付けの場所に迷う子どもには「おもちゃのおうちはどこかな？」などと誘いかけ、表示に気付かせる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・遊具

- ・玩具、表示をした玩具棚

4 安全上の配慮

○同じ物を片付けようとして、取り合いになることが予想されるため、保育者が「一緒に片付けようか。」「こっちにもあるよ。手伝って。」などと言葉を掛けて対応する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者や友達のマねをして、片付けることが楽しいと感じている姿を見ることができた。
- 片付けという行動を通して、できたことが嬉しい、認められて嬉しいという気持ちが芽生え、意欲につながっていた。
- 遊び終わったら片付けるという規範意識の芽生えが育まれる姿を見ることができた。

6 家庭との連携

○片付けは家庭でも悩みの一つである。保護者会などで、園で片付けている様子や保育者の言葉掛けの方法を知らせるとともに、家庭でも大人がすすんで片付けをする姿を見せたり、きれいになって気持ちがいいという体験をしたりすることの大切さを伝え、家庭での片付けの参考にしてもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児I期（4月から5月）「生活習慣」【事例3】

もぐもぐゴックン

1 活動のねらい

○スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり自分で食べようとしたりする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜保育者に援助されながら、スプーンを使って食べてみる＞

- ・保育者にスプーンで食べさせてもらう時期から、自分で手づかみ食べをする時期を経て、徐々に自分でスプーンを持って食べようとする。



・スプーンに手を添え口に運ぶ様子



・スプーンをしっかり握って食べる様子

援助のポイント

- ・食具（スプーンやフォーク）が登場する絵本を読み聞かせ、興味をもてるようにする。
- ・「スプーンを持ってみようか。」「スプーンでも食べてみようか。」など言葉を掛け、徐々にスプーンで食べることに慣れていくようにする。
- ・うまく使えない子どもには、保育者が手を添えて口へ運ぶしぐさを丁寧に知らせる。
- ・反対に、スプーンで詰め込み食べをする子どもには、「もぐもぐしようね。」「ごっくんしてからね。」などと優しく言葉をかけ、ゆっくり口に運ぶように促す。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・子どもの手に合うサイズのスプーン
- ・食べる姿勢が安定する足台

4 安全上の配慮

- お腹がいっぱいになるとスプーンで遊び出すことが予想されるため、「おしまいにしようね。」などと、言葉を掛け、「ごちそうさま。」の挨拶をする。
- 詰め込み食べをすると、のどに詰まらせることが予想されるため、口に運ぶ量とタイミングを知らせる。

5 活動を通して育まれた姿

- 異年齢児と食べる機会を作ると、年長の子どもにまねをして、スプーンで食べようとする姿を見ることができた。
- スプーンで食べようとする姿を褒めることで、徐々に自分から食べる機会が増してきた。

6 家庭との連携

- お迎えの際に、スプーンを使って食べる姿を写真などで見せたり、保護者会に動画で見せたりして、子どもの成長を共感するとともに、家庭で食事をする際の参考にしてもらう。
- 初めのうちはうまくいかずこぼす量も多い。家でもスプーンを持たせて食べさせる際は、食事の量を多めにしたり、床に紙を敷いたりする工夫を情報提供し実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児I期（4月から5月）「運動」【事例4】

歩くの大好き！

1 遊びのねらい

- 自由に歩くことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<戸外を自由に歩くことを楽しむ>

- ・子どもが自由に歩いたり、止まったり、探索することを楽しむ。
- ・保育者と一緒に探索をして、関わりながら歩く楽しさを味わう。

<保育者と一緒に用具を用いて歩くことを楽しむ>

- ・転がるボールや輪っかを追いかけて歩く。

援助のポイント

- ・子どもが自由に歩く様子を捉えて、「気持ちがいいね。」「おもしろいね。」など、歩くことが心地よくなる言葉を掛ける。
- ・歩くことに消極的な子どもには、「これは何か？」「お友達のところまでよーいドン！しようか。」など、子どもの興味や期待に繋がるような言葉を掛け、少しずつ行動範囲を広げていく。



- ・保育者と一緒に歩く様子



- ・好きな遊具を使い自由に歩く様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・戸外（公園）

②用具・遊具

- ・シャボン玉、ボール、輪っかなど

4 安全上の配慮

- 活動場所に危険物が落ちていることが予想されるため、事前に確認し排除することで安全に遊ぶことができる環境をつくる。

- 歩行が安定しない子どもは、転ぶことが予想されるため、側ですぐに対応できるようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 初めはなかなか動きだせない子どもが、友達や保育者の楽しそうに遊んでいる姿を見て誘われ、徐々に歩き出す姿を見ることができた。
- 空を見上げて飛行機を探したり、吹く風を感じていたり、一人ひとりの子どもがそれぞれに楽しんでいる姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 子どもが快適に歩くことができるように、子どもの足にあった靴の形を実際の見本で示したり、サイズの確かめ方を伝えたりして、購入する際の参考にしてもらう。
- 園で歩くことを楽しんだ様子について口頭や連絡帳で伝えるとともに、家庭で休日に過ごした様子などを聞き取りながら、共通した遊び方をすすめることで子どもが安心して過ごせるようにする。
- 園の近隣で、自由に歩いたり探索したりすることができる路地や公園の情報を、掲示物やおたよりで紹介するなどして、家庭で遊びに行く際の参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅱ期（6月から8月）「学びの芽生え」【事例5】

ばしゃばしゃ ぐにゅぐにゅ

1 遊びのねらい

○砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者や友達と、様々な感触遊びを楽しむ>

感触遊びの事例

- ①タライから水を丸型スコップですくい、バケツや器に入れたりこぼしたりして、水の感触を楽しむ。
- ②ホースの下に直接手をかざしたり、容器に水を入れようとしたりする。
- ③片栗粉や小麦粉に水を混ぜて、感触を楽しむ。



・水をポットからバケツに注いで遊んでいる様子



・ビニール袋に入った色水の感触を楽しんでいる様子



援助のポイント

- ・保育者が「冷たいね。」「気持ちがいいね。」などと言葉を掛け、子どもと一緒に楽しみながら共感する。
- ・水が苦手な子どもは、少人数で徐々に水に慣れることができるように配慮する。



・片栗粉と水を混ぜて、感触を楽しんでいる様子（この後、片栗粉粘土にして遊ぶ。）

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・ベランダ

②用具・遊具

- ・水遊び（タライ、ホース、水、バケツ、ジョーロ、カップ、丸型スコップなど）
- ・片栗粉遊び（ボール、片栗粉、水）

4 安全上の配慮

- ベランダで水遊びをする際は、足元が滑りやすく、転ぶことが予想されるため、人工芝などを敷いたり、走らないように声を掛けたりする。
- 水や片栗粉粘土は、思わず口に入れてしまうことが予想されるため、側に保育者がついて「口には入れないよ。」などと声を掛ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 水の冷たい感触に触れ、気持ちよさそうに遊ぶようになった。
- 水を体に掛けたり、すくった水をこぼしたり、子どもが自分から思い切り水に触れて遊ぶ姿を見ることができた。
- 友達の遊ぶ姿を見て、同じようにまねをして楽しそうに遊ぶ姿が多くなった。

6 家庭との連携

- 水や粘土などの感触が苦手な子どもの保護者には、送迎時に口頭で話したり写真などを見せたりすることにより、少しずつ楽しめるようになってきていることを伝え、安心感につなげる。
- 水や片栗粉・小麦粉などによる素材遊びは家庭でも簡単に体験できる遊びなので、具体的な遊び方や遊びに使う用具・遊具の例を具体的に知らせるためのおたよりを配布し、家庭で遊ぶ際の参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅱ期（6月から8月）「人との関わり」【事例6】

Let's Try

1 遊びのねらい

- “自分で” という気持ちが芽生え、やってみようとする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜ままごと遊びのエプロンやスカートを1人で履いたりつけてみようとする＞

- ・自分で、ままごとのエプロンやスカートを身に付けようとする。
- ・友達の取り組む姿や褒められる姿を見て、まねをして自分もやってみようとする。



・エプロンの
マジックテ
ープを自分
で付けよう
としている
様子



・スカートを自
分で履こう
としている
様子

援助のポイント

- ・付けやすい、履きやすいような向きにしてエプロンなどを子どもの目の前に置き、やってみようとする姿を見守る。
- ・「○○ちゃんすごいね。」「上手だね。」「できたね。」などと取り組もうとする姿を褒め、子どもの意欲や興味を引き出す。
- ・子どもは自分でやりたいと思っているが、思い通りにはいかないこともある。その気持ちを受け止めたり、さりげなく援助したりしながら「自分でできた。」という思いを積み重ねていけるようにする。
- ・「できた。」という気持ちを十分に認め、共感する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・ままごとのエプロンやスカートなど

4 安全上の配慮

- 子どもが自分でやろうとすると、ひもなどが巻き付き窒息の危険が伴うことが予想されるため、保育者はすぐ近くで見守り、援助する。

5 遊びを通して育まれた姿

- まずは、「自分でやってみたい。」と意思表示をする子どもが多くなった。その気持ちを保育者に受け止めてもらえていることが分かり、じっくりと取り組むようになった。
- すぐに「やって。」といていた子どもが、友達の取り組む姿を見て、自分でもやってみようとする姿が見られた。
- できるようになったことを、「見て。」と言って保育者に見せるようになった。子どもは保育者から褒めてもらうことで、自己肯定感の高まりを感じた。

6 家庭との連携

- 今は自分でやってみようとする気持ちが芽生える時期だということや、保育園生活の中で自分からやろうとする姿が見られることを口頭やおたよりで知らせることで、家庭でも子どもが自分でやろうとする気持ちを受け止め、見守ったり励ましたりしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅱ期（6月から8月）「生活習慣」【事例7】

一人でできるもん！

1 活動のねらい

○ズボン・パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。

2 活動・援助のポイント

活動

<自分でズボン・靴下を脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする>

- ・ズボンを脱ごうとしたり、履こうとしたりする。
- ・靴下を脱ごうとする。
- ・帽子をかぶろうとする。



・ズボンの前
を引っ張っ
て、履こう
としている
様子



・マークで自分の靴下
が分かる入れ物



・靴下を脱ぐ様子



・帽子をかぶっ
ている様子

援助のポイント

- ・子どもの「一人でやりたい。」という気持ちを十分に受け止め、見守ったり励ましたりしていく。
- ・衣類が引っかかりなかなか脱げないような場面では、さりげなく手伝い、「すごい、一人で脱げたね。」などと褒めて、子どもの一人でできたという達成感につなげる。
- ・身の回りのことを自分でやろうとしない子どもには、声は掛けるが無理強いほしくないようにして見守る。自分から片付けようとする姿が見られた場合にはすかさず褒め、さらにやってみようとする意欲につなげる。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・個人マークのついた靴下や帽子入れの箱

4 安全上の配慮

○服や帽子の着脱の際に、ひもなどが首に巻きついたり引っかかったりすることが予想されるため、保育者は側で援助できるようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- スムーズにできずにかんしゃくを起したり、保育者に手伝ってもらうことを嫌がったりしていた子どもが、少しずつ上手にできるようになったり、保育者に「やって。」と自分から意思表示をしたりするようになった。
- 前後が逆になる場合もあるが、帽子を自分でかぶることができる子どもが多くなってきた。さらに、自分で帽子をかぶった子どもは、友達を手伝おうとする姿も見られた。

6 家庭との連携

- 子どもが自分で着脱しやすい洋服のサイズやデザインのものを用意してもらうように、口頭やおたよりなどで知らせたり、洋服を実際に見せたりすることで視覚的にも分かりやすく保護者に伝え準備の参考にしてもらう。
- 連絡帳やお迎えのときに子どもの様子を細かく保護者に伝えたり、保護者会などを通じて子どもの意欲や成長した姿を伝えたりして共感し合い、園と家庭との協力体制を一層深めていく。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅱ期（6月から8月）「運動」【事例8】

夢中になって遊ぶのは楽しい！

1 遊びのねらい

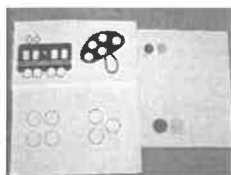
○ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

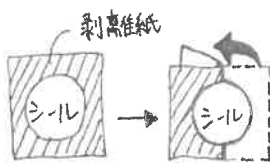
遊び方

＜手や指先を使った遊びを楽しむ＞

- ・ひも通しや、シール貼りをして遊ぶ。
- ・指先の遊びに興味あまりない子どもも、少しずつ興味をもち、やってみようとする。



・様々なシール
や台紙



・簡単にシールを
指でつまむ工夫



・手作りのひも通し
遊具



・ひも通しをしている
様子（遊具は直径4
センチメートルの
大きさ）

援助のポイント

- ・保育者が遊び方を見せることで、興味をもてるようにする。
- ・シールの大きさは、大（直径20ミリメートル）小（直径15ミリメートル）を、発達に合わせて提供する。貼る台紙に、シールを貼る目印の丸を描く。
- ・一人でシールを剥がすことが難しい子どもには、事前に剥離紙を半分にして、シールを指でつまみやすくしておく。
- ・手作りのひも通しは、子どもが好きな絵本を基に作成するなどして、一層興味を引く工夫をする。
- ・ひも通しの穴の大きさや、シール貼り遊びで使う台紙の円の大きさを発達段階に応じて小さくしていくなどの工夫をすることで、子どもたちが飽きずに遊びを続けることができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内（保育室）

②用具・遊具

- ・シール、台紙（貼る目印が記載されている）
- ・穴の開いた様々な素材とひも

4 安全上の配慮

- 夢中になっていると、手に持った材料（シールやひもや穴の開いた物など）を口に入れてしまうことが予想されるため、すぐ側で遊びを見守り口に入れないように止めたり、事前に遊び方を知らせたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 遊び方が分かると、「もっとやりたい。」などと言って集中して遊ぶようになった。
- 初めはできなかったことが少しずつできるようになり、嬉しそうに「できた。」「見て。」などと保育者に見せるようになった。
- 指先を使った遊びに興味あまりなかった子どもが、友達の様子を見てまねようとする姿が見られた。

6 家庭との連携

- お迎えの際に口頭で、またはおたよりなどを利用しながら、子どもたちがどのような遊びをしているか伝える。その中で、体全体を使い体幹を育てる遊びと、指先などの細かい感覚が育まれる遊びがあることを伝え、子どもたちがどのように成長しているかを知らせるとともに、園で体験している遊びを家庭でもできるように、具体的な遊びの紹介を掲示物やおたよりで伝え参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅲ期（9月から10月）「学びの芽生え」【事例9】

ぐるぐる お絵描き

1 遊びのねらい

○クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜クレヨンを使い自由に描いて遊ぶ＞

- ・自分で好きなクレヨンを選び、手を動かして自由に紙いっぱい描いて遊ぶ。
- ・他のクレヨンで描き、色の違いに気付く。



・自由にクレヨンを選んで絵を描いている様子



・隣で絵を描いている子どもに、「これは何？」「これは〇〇なの。」と、会話している様子



・「僕は電車の絵を描く。」と、つぶやきながら、描いた線を電車に見立てて絵を描いている様子

援助のポイント

- ・子どもが持ちやすい太さ（直径1センチメートルから1センチ2ミリメートル程度）や長さ（約7センチメートル以下）のクレヨンを準備する。
- ・保育者が紙に線を描いて見せ、子どもの興味を引き出す。
- ・「一緒に描こうか。」「何を描こうかな。」などと、子どもに言葉を掛けて関わりながら遊ぶ。
- ・子どもがなぐり描きやぐるぐる描きに夢中になっているときは、じっくりと見守る。
- ・絵を描き終わったら、「上手に描けたね。」「〇〇みたいだね。」などと、子どもが描いたことを誉め、子どもがイメージを膨らませ、表現する楽しさを味わうことができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・クレヨン、模造紙、画用紙など

4 安全上の配慮

- うっかりクレヨンを口に含むことが予想されるため、側に付いて、口に入れないように声を掛けたり、見守る。
- 好きなクレヨンを取り合っけがをすることが予想されるため、十分な数のクレヨンを揃えたり、少人数で遊ぶコーナーとして設定したりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 初めは点や線を描いた子どもが、友達がぐるぐると円を描く姿を見て、まねをしようとしていた。
- クレヨンを正しく持って手首を使って描くと、ぐるぐる描きができることが分かり、繰り返し描いていた。
- 描くことで、表現する楽しさが分かり、何回も集中して描いて遊ぶ姿を見ることができた。
- 他のクレヨンで描くと、色が違うことに気付いて、自分で何回もクレヨンを選んで描いていた。

6 家庭との連携

- 描いた作品を保護者が見ることができる場所（保育室や廊下など）に掲示し、「〇〇みたい。」「〇〇描いたの。」などと表現して言った子どもの思いや願いを付箋などに書いて作品に貼り知らせることで、子どもとの話題に役立ててもらおう。
- 子どもが遊びを通して学んだり表現力が育まれたりしていることを口頭やおたよりで保護者に伝え、子どもを褒めてもらい、自信につなげることができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅲ期（9月から10月）「人との関わり」【事例10】

「かーしーて」「いーいーよ」

1 遊びのねらい

- 保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者に仲立ちされながら、友達と言葉や動作のやり取りをする＞

- ・ 友達が使っている遊具が欲しい気持ちを言葉やしぐさで表す。
- ・ 保育者の仲立ちで「貸して。」「待っててね。」「いいよ。」「ありがとう。」などのやり取りをする。

やり取りの様子

- ① A児がB児の持っている遊具に手を伸ばす。
- ② 保育者がA児に向かい、「使いたいのね。」「貸して、だよ。」などと、A児の気持ちを受け止めて言葉を掛ける。
- ③ A児「貸して。」 B児「だめよ。」
- ④ 保育者がB児に、「今使っているもんね。」「待ってるから後で貸してね。」「待っててね、だね。」などと、B児の気持ちを受け止めて言葉を掛ける。
- ⑤ B児「待っててね。」
- ⑥ 保育者はA児に、「待っていようね。」と言葉を掛け、別の遊びに誘うことで待てるようにする。
- ⑦ 少し経つとB児が来て、遊具をA児に渡す。
- ⑧ B児「いいよ。」 A児「ありがとう。」



- ・ 保育者に仲立ちされながら、子どもたちが言葉やしぐさのやり取りをしている様子

援助のポイント

- ・ 子どもの表情や「ん～」などの声で子どもの要求が分かることもあるが、それを「○○なの？」と思いを受け止め、言葉に置き換える。
- ・ 友達との遊びの中で、まだ言葉が出ずにトラブルになることがある。子どもに代わって保育者が言葉を添えて、「○○したかったんだね。」「貸して、だね。」などと、言葉に置き換える。

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・ 保育室、園庭
- ②用具・遊具
 - ・ 特になし

4 安全上の配慮

- 遊具や場所の取り合いで、引っ掻かれたり噛まれたりしてけがにつながることを予想されるため、保育者が素早く制止しながら、言葉や動作で思いを伝えることができるようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 伝えたい思いを保育者に受け止められ、思いを言葉に置き換えてもらうことで、しぐさや発語が促された。
- 保育者が側にいない場面でも、「貸して。」と言ったり、手でしぐさをしたりするようになった。

6 家庭との連携

- 家庭では保護者と子どもがどのような関わり方をしているのかを聞いたり、園での友達とのやり取りを知らせたりして、子どもの気持ちの受け止め方や言葉やしぐさに代えていくことの大切さを知らせ、家庭での対応の参考にしよう。
- 思いが伝わらないことで、駄々をこねたり泣きやまなかったりして対応に苦慮することがある時期である。時間や気持ちの余裕をもって接することができるように保護者に伝え、実践しよう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅲ期（9月から10月）「生活習慣」【事例11】

あわあわ ごしごし

1 活動のねらい

○援助されながら、手洗いをする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜手洗いに興味をもち、保育者に援助されながら手を洗う＞

- ・手洗いに関する絵本（キンダーブックころころ絵本「にんじゃあわまるバイキンバイバイ！」）を見たり、保育者の話を聞いたりして、手洗いに興味をもつ。
- ・手洗いの習慣が少しずつ身に付き、「手を洗いに行こうね。」と保育者に声を掛けられると、すすんで手を洗おうとする。



・絵本を見ながら、手の甲を洗うまねをしている様子

援助のポイント

- ・手洗いの内容の絵本を子どもたちに読み聞かせをしたり、手洗いの大切さを話したりして興味をもたせる。
- ・「あわあわ。」（泡石鹸を手に付けて泡立てる。）「ごしごし。」（手を合わせて擦り洗いをする。）「くるくる。」（手首や指を手で包むように洗う。）など、絵本の内容に合った具体的な言葉を掛けて、手洗いの仕方を分かりやすく伝える。
- ・保育者が側で一緒に洗って見せ、目で見て分かりやすいように伝える。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室、手洗い場

②用具・構成

- ・絵本、石鹸、タオル

4 安全上の配慮

- 泡が付いた手で顔を触ろうとすることがあり、目に入ることが予想されるため、側で見守りながら正しく洗うことができるように援助する。
- 手洗い後、床が濡れて滑って転ぶことが予想されるため、濡れたらすぐに拭き取ったり、洗ったらぱっぱと滴を切ってから手を拭くことを知らせたりする。

5 活動を通して育まれた姿

- 絵や写真が入った絵本を読み聞かせすると、子どもたちはよく聞いていた。絵本の中の洗うしぐさが提示されているページを見て、手を動かしてまねる子どもがいた。
- 保育者から、「手を洗いましょう。」と声を掛けられると、すすんで手洗い場に行き、「ごしごし。」「くるくる。」などと声掛けをすることにより、手を動かして洗うことができるようになった。

6 家庭との連携

- おたよりで手洗いの大切さについての内容を記載したり、手洗いの絵本を紹介したりして保護者の関心を深め、子どもたちの手洗いの習慣が園と家庭とで身に付くように協力し合う。
- 季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので園や家庭での子どもの様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠などの生活習慣全体についても話題にし、子どもが健康に過ごすことができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅲ期（9月から10月）「運動」【事例12】

見て見て 先生

1 遊びのねらい

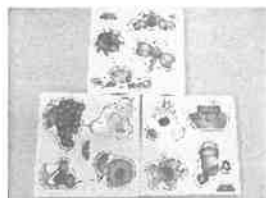
○つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜つまむ、はさむなど指先を使った遊びをする＞

- ・絵本のページをめくったり、パズルのピースを指でつまんでいろいろな方向に回しながら動かしたりして型に当てはめて遊ぶ。
- ・指先遊び用のトングで、いろいろなものを挟んだり、入れ物に移し替えたりして遊ぶ。



・パズルのピースを指でつまんで、型に当てはめて遊んでいる様子

・指先遊び用のトングで、毛糸の玉を挟んで入れ物に入れて遊んでいる様子

援助のポイント

- ・じっくりと遊ぶことができるように、少人数ずつのコーナーを設定する。
- ・設定した玩具の遊び方やトングの持ち方などを、保育者が実際にやって見せて、「できるかな。」などの子どもの興味を引く言葉を掛ける。
- ・子どもが指先を使って遊ぶ姿に共感し、「上手につまんだね。」「よく頑張ったね。」などと達成感や意欲につながる言葉を掛ける。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・玩具

- ・パズル、トング、タッパー、毛糸の玉など

4 安全上の配慮

- トングを取り合って振り回すと、周りの子どもにぶつかりけがをすることが予想されるため、トングの扱い方を丁寧に伝えたり、子どもの座る間隔を適切に設定したりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 初めのうちはうまくできずに、短時間でやめてしまう子どもがいたが、保育者が一緒に遊ぶことで徐々にできるようになり、「見て見て。」「先生できたよ。」などと喜ぶ姿を見ることができた。
- 指先を様々に使い、玩具のつまみ方や力の入れ方を工夫して、自分でやってみようとする姿が増えた。
- 数名ずつ遊ぶ環境を整えたことで、集中して遊ぶ姿を多く見ることができた。

6 家庭との連携

- この時期の子どもにふさわしい玩具は、その形や手触り・大きさや重さ・持ちやすさなど、子どもの手先の運動に相応しいかを考慮することが大切である。具体的な玩具を展示し、保護者に情報提供し家庭で購入する際の参考にしてもらう。
- 子どもたちが指先を使う遊びを何回も繰り返すことで少しずつできるようになる姿を、お迎えの際に詳しくエピソードを交えながら口頭で伝え成長する喜びを共有するとともに、子どもを褒めてもらい自信になくことができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅳ期（11月から12月）「学びの芽生え」【事例13】

パズルであそぼ♪

1 遊びのねらい

- 積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<パズルで遊ぶ>

- ・好きなパズルで保育者と一緒に選ぶ。
- ・「どこかな？」と考えながら、自分でやってみようとする。
- ・分からないときには、「あ～あ～」と声でアピールしたり、「どこ？」と保育者に聞いたりする。
- ・月齢の高い子どもたちには「いっしょに。」と声を掛け、誘い合って遊ぶ。



・自分でパズルを楽しんでいる様子



・保育者と一緒に少し難しいパズルを楽しんでいる様子



・友達と一緒にパズルを楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・子どもたちの目線に入るようなところにパズルを置き、興味をもてるようにする。
- ・子どもたちの興味を聞き入れながらも、その子どもの成長発達に合ったパズルを薦める。
- ・パズルは大きなピースのパズルから始め、できるようになったら少しずつピースの小さいパズルに移行する。
- ・子どもたちが「やって。」「できない。」と言うときには、「どこかな？」と一緒に考えて、ピースの形と穴の部分の形が同じことや、描かれている絵が繋がるところを知らせるなどの、やり方のヒントになるような言葉かけをする。
- ・できたときには「できたね。」「よかったね。」などと言葉を掛けたりして、満足感を共感し、次への意欲につなげる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室のコーナー

②用具・遊具

- ・パズル（木製の型はめパズルや、紙製の6～20ピース程度のもの）

4 安全上の配慮

- 子どもたちに人気のパズルは、友達と取り合っけんかにつながる事が予想されるため、数や種類に余裕をもって準備する。また、「お友達が使っているから、待とうね。」などと言葉を掛けて、順番に使うことが理解できるようにする。
- 一人ひとりがじっくり取り組めるスペースを確保する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 遊びを通して、パズルの形や絵柄、色などに興味を示し、形が同じということが分かるようになった。
- じっくりと遊ぶことができる環境の中で、集中して楽しんだり、指先を使いながら遊ぶ姿を見ることができた。
- スムーズにはまらなかったりできなかつたりするとバラバラにしたりすることもあったが、繰り返し取り組むことで、完成したときは、「できた。」と嬉しそうに知らせてきた。できたことが嬉しくて、「もう一回やる。」と言って、繰り返し楽しんだり、違うパズルにも興味をもち取り組んだりする姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 園で遊んでいるパズルの種類を実際に保護者に見せる機会をつくり、家庭で遊ぶ遊具の参考にしてもらう。
- 友達への関心が芽生え、関わって遊ぶようになってくる時期である。ときには、子どもたちに人気の遊具などを取り合っけんかをしたり、順番を守ることができなかつたりすることも1歳児なりの成長の表れであり、保育者や保護者が、場に合った対応をしていくことが大切であることを知らせ実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅳ期（11月から12月）「人との関わり」【事例14】

まねっこ遊び

1 遊びのねらい

- 保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。
- 大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者の手遊びをまねしたり、友達のしていることをまねたりして遊ぼうとする>



好きな手遊び

- ・「あたま、かた、ひざ、ぼん」
- ・「ぐーちょきぱー」
- ・「げんこつ山のたぬきさん」
- ・「さかながはねた」
- ・身近な動物や食べものが出てくる歌など。



- ・手遊びをしている保育者をよく見て、しぐさをまねしている様子

- ・人形を布団に寝かせて、子守歌を歌いながらトントンと手でリズムを取って、優しく寝かせている様子

援助のポイント

- ・保育者が大きな動きで手を動かしたり、はっきりとした声で歌ったりする。
- ・子どもが好きな玩具でじっくり遊ぶことができるように、コーナーを分けて玩具を設定する。
- ・ままごとの布団、抱っこひも、エプロン、人形などの設定を充実させ、ごっこ遊びを楽しむことができるようにする。
- ・友達のまねをして遊んでいるときは、「一緒に遊んで楽しいね。」などと声掛けをし、楽しい思いを保育者も共有することで、子ども同士が嬉しい気持ちを共感できるようにする。
- ・相手の子どもがまねをして欲しくないときは、「今は一人でやりたいんだって。」「後で一緒に遊ぼうね。」などと、仲立ちとなり互いの気持ちを受け止める。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室、戸外

②用具・遊具

- ・人形、ままごとの布団など

4 安全上の配慮

- 布製の遊具が床に広がっていると踏んだときに滑ってけがをすることが予想されるため、遊ぶ場所の設定は子どもの動線を意識し、計画する。また、使っていないものは片付けるようにし、安全な環境を整える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者や友達に関心をもち、まねをしたり見立て遊びを楽しんだりする姿を見ることができた。
- 言葉、身振り及び動作などで簡単なやり取りをしながら、保育者や友達と関わって楽しく遊ぶ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 友達への関心が芽生え、関わって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、ときにはぶつかり合うこともこの時期ならではの成長の表れであることを知らせる。
- 手遊びの紹介を保護者会などの場で保育者が実演して、保護者が覚えて子どもと一緒にできるようにする。
- 遊びの情報提供として、手遊びの歌詞を掲示したりおたよりで配布したりして、保護者に知らせ実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児IV期（11月から12月）「生活習慣」【事例15】

おもちゃのお家を探そう

1 活動のねらい

○保育者と一緒に片付けをしようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜遊んだ後の遊具を、保育者と一緒に片付けようとする＞



・遊んだ後の遊具を、表示を見ながら片付けている様子



・片付ける場所が分からない場合は、「これはどこ？」などと保育者に聞いて一緒に片付ける。

援助のポイント

・「次は、〇〇するから片付けようか。」とか、「お散歩に行くから片付けようね。」など、子どもが理解しやすいように具体的な言葉掛けをしながら一緒に片付けをする。

・年上のお兄さんやお姉さんと一緒に片付けをする場面を設け、お兄さんやお姉さんが片付ける様子を見て覚えることができるようにする。

・絵本を本棚に片付けている様子

・人形のマークの付いた、片付ける工夫がされた箱の様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・室内

②用具・遊具

・玩具、表示した玩具棚

4 安全上の配慮

○子どもたちが片付ける際に、大きな玩具を上に乗せようとして落とすと足に当たってけがをすることが予想されるため、大きな玩具や重さのある玩具は、あらかじめ片付け場所を下に設定して、保育者と一緒に片付けるようにする。

5 活動を通して育まれた姿

○棚の前で、写真を見ながら遊具を片付ける姿を見ることができた。

○片付けたい遊具を取り合い、けんかになりそうになった際に、保育者が仲立ちをすることで、玩具を譲りあったり一緒に片付けたりすることができた。

6 家庭との連携

○友達への関心が芽生え、関わって遊ぶ姿が増えていることを伝えると同時に、物の取り合いやけんかなどに関してもこの時期ならではの成長の表れであること知らせ、「一緒にやろう。」「順番だね。」などと仲立ちになることの大切さを伝え、保護者にも実践してもらおう。

○家庭でどのように片付けをしているのかを聞き、困っているようであれば園で保育者が行っている「一緒に片付けよう。」「片付けたらお出かけだよ。」などの言葉掛けを、家庭でも参考にしてもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児Ⅳ期（11月から12月）「運動遊び」【事例16】

ボールは友達

1 遊びのねらい

○ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<新聞紙を丸めてボールを作って遊ぶ>

- ・新聞紙を丸めてボールを作り、自由に投げたり、大きな的に当てたりして遊ぶ。



・「ぎゅっぎゅっ。」と言いながら新聞紙を丸めている様子

<広い公園で、ボールを蹴ったり投げたりして遊ぶ>

- ・ボールを使い自由に遊ぶ。（持って歩く。保育者に転がしてもらって追いかける。）
- ・保育者とボールでのやり取りを楽しむ。（投げたり転がしたり蹴ったりする。）



・的をめがけて新聞紙のボールを投げている様子

※的は、段ボールを直径30センチメートルくらいの円形に切ったもの。110センチメートルの高さで壁に貼ってある。



・立ち止まってボールを蹴ろうとしている様子



・保育者と一緒に走りながらボールを追いかけている様子

援助のポイント

- ・新聞紙のボールは、保育者が「ぎゅっぎゅっ」などと、擬音語を活用しながら丸めて見せて、子どもが分かりやすく楽しくできるようにする。
- ・投げて遊ぶ環境として、的になるものを用意し、当てる楽しさや達成感が味わえるようにする。
- ・保育者が一緒にボールを投げたり蹴ったりして、楽しんでいる姿を子どもたちに見せることで、子どもがやってみようとする意欲につなげる。
- ・1つのボールを数人で追いかけて遊ぶ際に、ボールを取ることができない子どもがいたら、「次は誰が取れるかな?」「今度は先生も負けないぞ。」などと、子どもの気持ちを受け止めながら、子どもたちの様子を見守る。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室
- ・公園、児童館等

②用具・遊具

- ・新聞紙、的、片付ける袋
- ・ボール（大・小）

4 安全上の配慮

- 新聞紙の上を踏むと転んでけがをすることが予想されるため、「新聞を踏むと滑るから、拾ってください。」などと、声掛けをする。
- 狭い場所でボールを追いかけると、ぶつかってけがをすることが予想されるため、十分なスペースの場所を確保して遊ぶ。

5 遊びを通して育まれた姿

- これまで新聞紙を破いたりちぎったりして遊ぶことが多かったが、手の平や指など手全体を使い丸めることができるようになってきた。
- 的に向かって腕を振り上げてボールを上へ投げようとする姿を見ることができた。
- 保育者がボールを蹴ったり投げている姿を子どもたちが見てまねることで、楽しみながらボールを投げようとする気持ちが芽生えたり、走りながらボールを蹴ったりすることができるようになってきた。

6 家庭との連携

- ボールは身近な遊具である。園で遊ぶ様子を写真やコメントを使い掲示したり配布したりして分かりやすくまとめ、家庭でも遊ぶ参考にしてもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児V期（1月から3月）「学びの芽生え」【事例17】

絵本大好き

1 遊びのねらい

- 身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。
- 絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<好きな絵本を保育者に読んでもらう>

- ・保育者の所に絵本を持って来て、「読んで。」と言ったり、絵本を差し出して読んでほしいことを伝えたりする。
- ・保育者に絵本を読んでもらいながら、繰り返し出てくる言葉をまねして言ったり読み終えたあとに「もう1回。」などと繰り返し読んでほしいことを伝えたりする。



- ・好きな絵本を保育者のところに持って来て、ひざに抱かれて読んでもらっている様子。
- ・周りの子どもたちも集まって来て、一緒に見ている様子。

援助のポイント

- ・子どもたちの発達に適した内容や季節を感じる絵本、身近で知っている物が描かれている絵本などを選ぶ。
- ・子どもの興味に合わせて定期的に本棚の絵本を入れ替える。
- ・絵本の言葉を大切にしながら、子どもが聞きやすい声の大きさや速さで読む。
- ・絵本を見ながら子どもが言った言葉を聞いて、「そうだね。」「〇〇だね。」などと共感し、名前が一致する嬉しさや会話の楽しさを伝える。

子どもたちが好きな絵本

- ① 「ももんちゃんシリーズ」（童心社・とよだかずひこ作/絵）
好きな理由：主人公のももんちゃんが子どもたちの年齢と同じくらいなので、子どもたちが思うことややってみたいことが同じでおもしろい。
- ② 「もこもこもこ」（文研出版・谷川俊太郎作/元永定正絵）
好きな理由：繰り返しの言葉（オノマトペ）や擬音のみが使用されていてリズム感がありおもしろい。
- ③ 乗り物が出てくる絵本「せんろはつづく」（金の星社・竹下文子作/鈴木まもる絵）
- ④ その他：昆虫、食べ物などが出てくる絵本など
好きな理由：身近で知っている物が出てくるので、「これなあに。」「〇〇だよ。」などとやり取りを楽しむことができるのでおもしろい。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・絵本

4 安全上の配慮

- 子どもたちが好きな絵本は取り合いになりけんかになることが予想されるため、「みんなで一緒に見ようか。」などと言って数名が見えるようにして読み聞かせる。好きな絵本を1人で見たいという子どもがいるときは、保育者が仲立ちをして、順番を待って貸してもらうように知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- 絵本を読んでもらうことで、絵本の中に出てくるいろいろな言葉、「入れて。いいよ。」などのやり取りの言葉や物の名前などを獲得したり、保育者のまねをして言って楽しんだりする姿を見ることができた。
- 「～みたい。」「～と同じ。」などと感じたり思ったりしたことを言葉にするようになった。
- 好きな絵本を自分1人でページをめくりながら見て覚えた言葉を言ったり、主人公のしぐさをまねして楽しんだりする姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 生活や遊びの中での言葉のやり取りをおたよりなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。
- 子どもたちが好きな絵本を実際に掲示したり、手に取って内容を見てもらったりする機会をつくり、家庭でも絵本を用意する際（購入したり図書館で借りたりするとき）の参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児V期（1月から3月）「人との関わり」【事例18】

お誕生日会ごっこ

1 遊びのねらい

- 保育者や友達と簡単なごっこ遊びをする中で、友達を感じる。
- 友達や保育者の名前を呼び、親しみをもって関わろうとする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜お誕生日会ごっこをする＞

実際の保育の様子

- ① 1歳児クラスは、子ども一人ひとりの誕生日にお祝いをしている。この日も1人お誕生日の子どもがいたので、みんなで歌を歌ってお祝いをした。
- ② その後、一人ひとりが好きな遊びをしていたときに、ままごとコーナーでお誕生日会ごっこが始まった。
- ③ ままごとの食べ物をお皿に載せてケーキに見立て、「ハッピーバースデートゥーユー。」と歌ったり、「おめでとう。」と拍手したりすると、お誕生日の子どもが「ありがとう。」と言って答えていた。
- ④ そのうちに歌が聞こえて集まってきた子どもが加わり、別の子どもの名前でお誕生日の歌を歌うなどして、お誕生日会ごっこを繰り返し楽しむ姿が見られた。



- ・歌「ハッピーバースデートゥーユー。」を歌い、「おめでとう。」と友達をお祝いしている様子。



- ・他の子どもたちも集まって来てもう一度歌を歌って拍手をしている様子。
- ・「次は〇〇ちゃんの誕生日ね。」「楽しみだね。」などと言葉を掛け期待を膨らませている様子

援助のポイント

- ・楽しいことがあった日（この日は誕生会）は、「楽しかったね。」「嬉しかったね。」などと、できごとを思い出して余韻を楽しむ言葉掛けをして共感する。
- ・子どもたちがごっこ遊びを始める様子に気付いたら、一緒に歌ったりイメージを広げる会話を言ったりして、遊びを広げる。
- ・同じものを欲しがったり取り合ったりすることがあるので、遊具の数や種類は適切な数を用意する。また、「貸してだよ。」「待っていてね。」「ありがとう。」などと、順番に使うために交わされる具体的な言葉でのやり取りを少しずつ知らせる。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・ままごと（皿・コップなど）

4 安全上の配慮

- まねっこをして一緒に遊ぶことが楽しい反面、玩具の取り合いで急にけんかになることが予想されるので、保育者は側で一緒に遊びながらも、すぐに制止できるような心づもりで遊びを見守る。

5 遊びを通して育まれた姿

- 誕生会ごっこという身近で嬉しい体験を園で行うことにより、友達に親しみをもって関わろうとする姿や、友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じる姿を見ることができた。
- 友達や保育者の名前で、順番にお誕生日会ごっこをしようとする様子が見られた。自分の名前を歌って歌ってもらったり、「おめでとう。」と言ってもらえたりするやりとりを、子どもたちみんなで楽しむことができた。

6 家庭との連携

- クラスのおたより、連絡ノートや登降園時に、子どもたちが友達に親しみをもって関わろうとしている姿を知らせ、様々な姿を見せながら成長していることの喜びを共感するとともに、家庭でも保護者と子どもが関わって遊ぶ時間を大切にしよう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児V期（1月から3月）「生活習慣」【事例19】

自分で！

1 活動のねらい

○手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

<ズボンや上着を一人で着ようとする>

- ・自分で上着に頭や腕を通そうとする。
- ・上手く頭や手が通せないときには、「できないから手伝って。」などと、保育者に助けを求める。



上着を着ている様子①

- ・肌着を着るために、目でよく見て確認しながらどこが袖の部分なのかを探している様子。



上着を着ている様子②

- ・上着の裾の部分から頭を入れて、首回りから頭を出している様子。



上着を着ている様子③

- ・目でよく見て確認しながら右手を上手に使って上着を動かし、どこが袖の部分なのかを探し、腕を入れようとしている様子。

援助のポイント

- ・子どもが自分でしようとする気持ちを大切にしながら、できないところはさりげなく援助し、「上手に顔が出せたね。」などと声を掛けながら、自分でできたという満足感を味わうことができるようにする。
- ・手を入れる袖の部分が見つからなくて困っていたら、「ここですよ。」などと言って袖を持ち上げて、手を通しやすいように援助する。
- ・上着の前と後が逆になっていたなら、「一人で着ることができたね。」と認めつつ、「あれ、前と後ろが反対だったね。あと少しだから一緒に直そうか。」などと言って、次の意欲につなげる。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室の着替えスペース

②用具・構成

- ・特に無し

4 安全上の配慮

- 着替える際は子ども同士がぶつかってけがをすることが予想されるため、十分なスペースを確保する。ズボンなどは座ったり、どこかに寄りかかったりすれば履きやすいことを知らせる。

5 活動を通して育まれた姿

- 上着の前と後が逆になることがあるが、一人で着ることができた満足感で、「できたよ。」などと保育者に嬉しそうに見せにくる姿が見られた。
- どうしてもできないところは保育者に手助けされながら、上着やズボンの着脱の他にも自分の身の回りのこと（靴を履く、靴を脱ぐ、靴下を脱ぐなど）を自分でしようとする姿が見られるようになった。

6 家庭との連携

- 子どもが身の回りのことを自分でしようとする様子を知らせ、2歳児クラスにつながる大切な成長の姿であることを伝える。家庭でもその姿を受け止め励ましてもらうことで、できたときの達成感を自信につなげる。
- 服や靴などは、自分で着脱しやすいようなものを準備してもらえるように実際に見本などを示す。服は前後が分かるように内側に名前を書いたり糸で印を付けたりするなどの具体的な工夫を知らせ参考にしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
1歳児V期（1月から3月）「運動」【事例20】

よーいどん！

1 遊びのねらい

○体操、追いかっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者の掛け声で、目的の場所まで走る＞

・「〇〇先生の所まで行くよ。」「よーいどん。」などの合図を聞いて目的の場所まで走る。



・保育者の立つ場所をゴールにすると、保育者からぎゅっと抱きしめてもらうことができるため、嬉しくて何回も楽しんでいる様子。



＜紙テープを追いかける＞

・保育者が複数の紙テープを付けて走り、子どもたちは紙テープを取るために保育者を追いかける。
・慣れてきたら子どもの腰にも紙テープを付けて、子ども同士で追いかけて遊ぶ。

・走ると紙テープがひらひらと動くのが楽しくて、自分から何回も走っている様子。
・保育者が紙テープを付けると、それを取ろうとして追いかけている様子。

援助のポイント

・ゴールの場所を伝えてから走り始めることで、目的の場所まで走りたいという意欲を高める。
・保育者の立つ位置をゴールにして、走ってきた子どもをぎゅっと抱きしめてあげたり、「ゴール。」などと声を掛けてあげたりすることで、達成感や満足感を味わうことができるようにする。
・友達が走る姿を見ているだけの子どもがいたら、「走ると紙テープがひらひらしておもしろいよ。やってみない？」などと声を掛けたり保育者がやって見せたりして、体を動かして遊ぶことが楽しいと感ぜられるようにする。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・広い公園、園庭
- ②用具・遊具
 - ・紙テープ

4 安全上の配慮

○一度に多数の子どもが保育者を目指して走ると、ゴールのときに友達とぶつかることが予想されるため、少人数ずつ行う。ゴールの目印になった保育者は、子どもが自分を目指して走ってきたときに、一人ずつぎゅっと抱きしめながらも、次の子どもを受け止める体制を整える。

5 遊びを通して育まれた姿

○これまで体を動かして遊ぶことに消極的だった子どもが、友達が楽しそうに走る様子を見て遊びに加わるようになり、みんなで一緒に遊ぶことができるようになった。
○目的の場所や紙テープを取るまで、最後まで頑張っている姿を見ることができた。

6 家庭との連携

○寒くなると室内で過ごすことが多くなりがちだが、天気の良い日はすすんで戸外に出て体を動かして遊ぶことが大切だということを伝え、家庭でも実践してもらおう。
○ただ「走る」のではなく、目的の場所を決めて走ることや目印の紙テープを使った工夫などをおたよりや掲示物などで伝え、家庭で遊ぶときの参考にしてもらおう。

2歳児 事例

(1) 2歳児 I期 (4月から5月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や草花に興味をもって、見たり触れたり集めたりなどする。 ・積木を並べたり、積んだりすることを楽しむ。【事例1】 ・水、砂、泥など様々な素材に触れる。 ・「同じ」「大きいね」「黄色だね」など遊びの中で色や形、大きさなどに気付く。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で簡単な挨拶や返事をしたり、生活に必要な簡単な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達の名前を覚えて呼んでみる。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かるようになる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、知っている歌や手遊びを一緒にしたりする。 ・音楽に合わせて体を動かして遊ぶ。 ・積木やお手玉などを乗り物や食べ物に見立てて遊んだり、人形やままごと道具を使ったごっこ遊びをしたりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場や人に慣れ、好きな玩具や遊具で遊ぶ。 ・友達のしている遊びをまねて、同じことをしようとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを楽しみながら、保育者の仲立ちで、近くにいる友達に関心をもつ。 ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。【事例2】 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をし、食事の区切りを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のロッカーや靴箱、自分の物の置き場所が分かる。 ・「待っててね」と言われ、少しの間、待とうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱、昼寝などをしようとする。【事例3】 ・自分の物と人の物との違いが分かる。 ・スプーンを使って一人で食べようとする。 ・同じテーブルの友達と一緒に食べることを喜ぶ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり、三輪車や滑り台などを使ったりして戸外で体を動かして遊ぶ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。(体操、巧技台での遊びなど) ・近場への散歩を通して階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。【事例4】 ・粘土、のり、クレヨン、ボタン、パズル、手遊びなど、指先を使った遊びを楽しむ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「積んで壊して また積んで」【事例1】 ☆人との関わり「海に行こう!」【事例2】
 ☆生活習慣「できたね!」【事例3】 ☆運動「楽しいね」【事例4】

〈援助のポイント〉

- ・一人ひとりの気持ちを大切に受け止めながら丁寧に対応し、信頼関係を築いていく。
- ・食事、排せつ、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりを心掛ける。
- ・「きれいになったね」「靴が履けたね」など、子どものしたことやしようとしていることを言葉に表して伝え、うれしさや満足感を味わえるようにする。そこから、自らやってみようとする意欲につなげていく。

〈家庭との連携〉

- ・新しい環境での子どもの様子を細やかに知らせ、安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。
- ・保育室など生活環境が変わるため、子どもは心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。子どもの様子を互いに伝え合うなど、連携を密に取るようにする。

(2) 2歳児 Ⅱ期 (6月から8月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・砂、水（プール、水遊び）、泥などの感触を全身で味わいながら、思い切り遊ぶ。 ・友達に関心をもち、同じ場で過ごしたりまねしたりすることを喜ぶ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や植物に興味をもち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・水、砂、土、泥などに触れて感触を味わい、伸び伸びと遊ぶ。 ・嬉しかったことや困ったこと、印象に残ったことなどを話そうとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味をもち、「これなあに」「どうして」と盛んに質問をする。 ・絵本や紙芝居の中の簡単な言葉を繰り返し言うことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、丸めるなど、自由に楽しむ。【事例5】 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・身近な物を見立てたり、好きなものになって遊んだりすることを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のしていることに興味をもち、同じ場で遊んだりまねたりすることを喜ぶ。 ・保育者を仲立ちとして友達と関わって遊ぶ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことや、してほしいことを言葉やしぐさで伝える。 ・保育者や友達との関わりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者に対し、「～したよ」「～だから」など出来事を思い出して話すことを喜ぶ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で」と自己主張をし、何でも自分でしようとする。 ・遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。【事例6】 ・自分の物、人の物の区別がつく。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の誘いで、トイレで排せつしようとする。 ・保育者のそばで、安心して眠る。 ・スプーンやフォークを使って食べたり、友達と一緒に食事をするを楽しんだりする。 ・できないところは保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。【事例7】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く、走る、登る、降りるなどの行動や、段差のある場所での遊びを通して、十分に身体を動かして遊ぶ。 ・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。【事例8】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「私の僕の 魔法の手」【事例5】
- ☆生活習慣「見て！ できたよ！」【事例7】
- ☆人との関わり「魔法の片付け」【事例6】
- ☆運動「楽しいな！！」【事例8】

〈援助のポイント〉

- ・一人ひとりの不安、欲求、甘えなどを丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。
- ・一人ひとりがじっくりと遊べるような環境を準備し、その子なりの遊び方を一緒に楽しみ、認めていく。
- ・自分でやろうとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをしていく。
- ・基本的な生活習慣については、個々の実態に合わせてきめ細やかな援助をし、自分でできた喜びや満足感をもち、気持ちよく過ごせるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・子どもが何でも自分でやりたがり、盛んに自己主張をするため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。保護者会などで保護者同士が率直な思いを出して話せるようにしたり、この年齢の発達の道筋を伝えたりして、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に子どもの育ちを見守っていく。
- ・子どもが自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうように伝える。
- ・感染症（とびひ、結膜炎、溶連菌感染症など）について知らせ、健康状態について連絡を密にする。

(3) 2歳児 Ⅲ期 (9月から10月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人の言葉や行動をまねたり、面白いと感じたことを繰り返して遊んだりする。 ・保育者や友達との関わりの中で、自分の思いや要求を伝えようとする。 ・戸外で身体を十分に動かして遊んだり散歩に行ったりする中で、伸び伸びと遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な用具の名前や使い方に興味をもち、保育者と一緒に使ってみる。 ・木の葉や木の実を喜んで集め、それを使って遊ぶことを楽しむ。 ・様々な容器や袋、布、ひも、箱などを使い、一人でじっくりと繰り返し遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。 ・気の合う友達とおしゃべりを楽しむ。 ・好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作をまねて遊ぶことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。 【事例9】 ・保育者と一緒に紙をのりで貼ったり、はさみで切ることを楽しんだりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。【事例10】 ・経験したことの中で同じようなイメージをもって、見立てて遊ぶことやごっこ遊びを保育者と一緒に楽しむ。【事例10】
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、保育者を仲立ちとして、相手の思いを知る。 ・簡単な手伝いを喜んでする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 ・保育者の言葉掛けで危険なことに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行こうとする。 ・こぼしたり汚したりしないで食べられることを喜ぶ。 ・保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。【事例11】 ・自分の物の簡単な支度や始末をする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いや「ブクブクうがい」を保育者と一緒にする。 ・様々な遊具や用具に触れながら、戸外で十分に身体を動かすことを楽しむ。 ・かけっこや追いかけて遊ぶことを楽しむ。 ・遊びを楽しむ中で、走る、両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々な身体を動かす。 【事例12】 ・低めの固定遊具、低めに調整した巧技台などですすんで身体を動かして遊ぶ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「ホップ ステップ ダンス」**【事例9】** ☆人との関わり「痛い所は無いですか？」**【事例10】**
 ☆生活習慣「一人でできたね」**【事例11】** ☆運動「おとっと！バランスをとって渡ろう」**【事例12】**

〈援助のポイント〉

- ・自分の気持ちや要求を自分なりに相手に伝えようとすることを大切にする。その際、具体的に言葉を知らせたり伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わったうれしさを感じられるようにする。
- ・個々の発達の様子を把握し、それぞれの子どもが楽しめる運動遊びを工夫していく。

〈家庭との連携〉

- ・自我の芽生えや自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子どもが変容してきていることを具体的に伝えて成長を確認し、保護者を支えていく。
- ・運動会や遠足など、行事が多くなることを伝え、子どもが動きやすい靴や着替えを用意してもらうようにする。

(4) 2歳児 IV期 (11月から12月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しんだり、自分の思いを自分なりの言葉で表そうとしたりする。 ・保育者や友達と一緒に、見立てたり、なりきったりして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・音、色、匂い、量などに気付き、興味をもつ。【事例13】 ・保育者や友達に自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しのあるやり取りや面白い言い回しのある絵本や紙芝居を見ることを喜び、自分で言ったり好きな場面を再現したりして遊ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。【事例13】 ・音楽に合わせて身体を動かすことや自分なりの表現遊びを楽しむ。 ・簡単な楽器（カスタネット、鈴、タンバリンなど）に触れ、鳴らして遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊びをする。【事例14】 ・自分の要求を自分なりに相手に伝えようとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこやかくれんぼなどで友達と同じ役になって遊ぶことを喜ぶ。 ・保育者に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。 ・自他や善悪の区別が少しずつ分かるようになる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「入れて」「貸して」など、遊びや生活に必要なことが分かり、やってみる。 ・保育者の援助を受けながら、遊びの中で順番や交代をする。 ・保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。【事例14】
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なものを少しずつ食べてみようとする。 ・フォークやスプーンを正しく持とうとし、食器に手を添えてこぼさずに食べようとする。【事例15】 ・手や口など体が汚れたことに気付き、自分できれいにしようとする。 ・保育者と一緒に食前や排せつ後の手洗いをする。 ・保育者の援助を受けながら、「ブクブクうがい」や「ガラガラうがい」を場面に応じて行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて、自分からトイレに行こうとする。 ・トイレットペーパーの使い方など排せつ後の始末の仕方を知る。 ・保育者と一緒に脱いだ衣服をたたんだり、片付けたりしようとする。 ・登る、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びをする。【事例16】 ・ボールを蹴る、投げる、転がす、受けるなどして遊ぶ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「言葉は トリック・オア・トリート!」【事例13】 ☆人との関わり「電車でGO!」【事例14】
 ☆生活習慣「食べるのって楽しいな♪」【事例15】 ☆運動「できたよ すごいでしょ」【事例16】

〈援助のポイント〉

- ・部屋の喚起や湿度設定をこまめに行う、手洗い、うがいを促すなど、風邪の予防に努める。
- ・前開きやかぶりの服の着脱やたたむことなど、子どもと一緒に身の回りのことを行いながら、できたことを保育者も共に喜び、認めていく。
- ・友達との関わり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲介役になっていく。

〈家庭との連携〉

- ・保護者の育児の悩みや子育ての参考になる情報を、クラスだよりなどを介して紙面上で交流し合い、安心して楽しく子育てができる環境づくりをしていく。
- ・子どもがやりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声の掛け方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらうように伝えていく。

(5) 2歳児 V期 (1月から3月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に自分なりに好きなように表現する。 ・保育者や気の合う友達と関わることを喜び、ごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でし、進級を楽しみにする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・年上の子どもがやっていることに興味を示し、まねてやろうとする。 ・雪、氷、霜柱など冬の自然に接し、見たり触れたりして遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。【事例17】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとしている。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの言葉や楽しいやり取りの出てるお話の面白さを感じ、喜んで聞く。 ・指先を使い、合わせ折りや好きな折り方をして楽しむ。【事例17】 ・保育者と一緒に、のり、はさみ、絵の具、粘土などの材料や用具を使い、作って遊ぶことを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達2～3人で、ごっこ遊びを楽しむ。【事例18】 ・クラスの友達と一緒に、話を聞いたり手遊びや体操をしたりすることを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。【事例18】 ・友達に話し掛けたり、自分の知っていることを伝えたりして関わることを喜ぶ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に自分のしてほしいことを言葉で伝える。 ・できるようになったことや大きくなったことを認められ、進級することに期待をもつ。 ・みんなの物に気付き、自分なりに、順番に使ったり分け合ったりするなど、貸し借りをしながら使おうとする。 ・生活の中でできまりがあることを知り、簡単なできまりを守ろうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・食前、排せつ後の手洗いを自分でしようとする。【事例19】 ・様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・フォークやスプーンを使い、こぼさないように食べようとする。 ・外から帰ったときや食後は、うがいをする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排せつの後始末を自分でしようとする。 ・手を拭く、鼻汁をかむなど身の回りのことを自分からしようとする。 ・自分で衣服を着脱し、たたむなど始末をしようとする。 ・冬の自然に触れながら戸外で遊ぶ。 ・散歩に出掛けることを喜び、身体を十分に動かして遊ぶ。【事例20】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「折ります♪折ります♪」【事例17】 ☆人との関わり「一緒に逃げよう！」【事例18】
 ☆生活習慣「きれいって気持ちがいいね」【事例19】 ☆運動「みんなでお散歩！身体を動かして遊ぼう」【事例20】

〈援助のポイント〉

- ・気の合う友達が出てくるが一緒に遊ぶことばかりを優先せず、一人ひとりが思いや自分のやり方を十分に出しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられる場面を大切に作る。
- ・ルールのある遊びでは、ルールは分かっているが受け入れられない子どももいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いがもてることを大事にする。
- ・身体を動かすことや遊具を使うことを好むようになり、力やスピードも付いてくる。安全には十分に気を付けながら様々な経験ができるようにする。
- ・身の回りのことを自分でできるようになった喜びに共感し、進級への期待につなげる。

〈家庭との連携〉

- ・日常の具体的な姿から一人ひとりの子どもの成長を伝え、喜び合うことで、子どもも保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子どもたちの成長や、子ども同士の関わり方など、3歳児での成長につながっていくことを伝える。
- ・進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合にはあらかじめ説明をし、保護者も安心して移行できるようにする。

(6) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児I期（4月から5月）「学びの芽生え」【事例1】

積んで壊して また積んで

1 遊びのねらい

○積み木を並べたり、積んだりすることを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<積み木を使って遊ぶ>

- ・積み木を横に並べて遊ぶ。
- ・積み木を高く積んで遊ぶ。
- ・積みながら、何かに見立てて遊ぶ。



・積み木を高く重ねて遊ぶ様子



・種類の違う積み木を横に並べたり、上に重ねたりして何かに見立てて遊ぶ様子

援助のポイント

- ・コーナーを設定し、遊びに集中できるような環境を整える。（平らなマットなどの上で行うと積み木が倒れた際にクッションになる）
- ・必要に応じて他の素材や玩具（布やブロックなど）を準備して、積み木と組み合わせて遊ぶことができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・遊具

- ・積み木、マット、その他の遊具など

4 安全上の配慮

○積み木を振り回したり投げたりすると、けがをすることが予想されるため、保育者がすぐに止めることができる場所に付いて「危ないよ。」「投げないよ。」などと声を掛けて、危険なことを知らせる。

○高く積み上げると倒れることが予想されるため、周りの子どもにも注意を促す。

5 遊びを通して育まれた姿

○積み木を、一人で並べたり積んだりしてじっくり楽しむだけでなく、仲のよい友達と一緒に積み上げたり、できたものを様々に見立てたりして、想像力を膨らませて楽しむ姿を見ることができた。

○保育者が、ごっこ遊びに誘い掛けるために、大きな積み木を温泉に見立てる遊びを提案すると、子どもたちが喜んで参加し楽しむことができた。

6 家庭との連携

○積み木はとてもシンプルな遊具だが、手で握る・指でつかむ・積むときにそっと乗せるといった、細かい指先の感覚を育み、創造力を膨らませて楽しめるものである。保護者にも、積み木の種類やこの遊びがどのような成長を育むことにつながるのかということを園だよりやクラスだよりに記載したり、保護者会の場で紹介したりすることで、家庭でもすすんで遊びに取り入れてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児I期（4月から5月）「人との関わり」【事例2】

海に行こう！

1 遊びのねらい

○保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<新聞紙遊びを通して一人ひとりが安心感や開放感を味わい楽しんで遊ぶ>

- ・保育者と一緒に子どもが自由に新聞紙を破く、ちぎる、ひっぱる、丸める、広げる。
- ・新聞の上を歩いて感触、音を楽しむ。



・新聞紙を広げたり丸めたりしながら自由に遊ぶ様子

<新聞紙を色々な物に見立てて遊ぶ>

- ・海に見立てて、ごっこ遊びを楽しむ。
- ・ビニール袋を魚に見立てて「ご飯をあげよう。」と、新聞紙を袋に入れながら片付ける。



・ごっこ遊びの最後にビニール袋を魚の口に見立てて新聞紙を片付けている様子

援助のポイント

- ・初めは、新聞紙という素材の感触や、丸める、破く、ちぎるなど、手や指を十分に使って遊ぶ。
- ・「広いなあ。」「冷たくて気持ちいいね。」など、子どもがイメージしやすい言葉を掛け、子どもからも発想が膨らむようにする。片付けるまでを遊びの一環として、楽しめるように工夫する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内（保育室・ホールなど）

②用具・遊具

- ・新聞紙・ビニール袋(大)・フラフープなど

4 安全上の配慮

- 床に新聞が広がり、踏むと滑って転んでしまうことが予想されるため、不要なものは片付ける。
- 楽しくなり興奮すると、他児とぶつかることが予想されるため、その都度「周りをよく見ようね。」「ぶつかるとうげがをするよ。」などと言葉を掛けて対処する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者や友達と一緒に、楽しい気持ちを共有している姿を見ることができた。
- 保育者と一緒に海に関する子どもなりの発想（海の水は深い、波が来たなど。）を遊びに取り入れて楽しむことができた。
- 新聞紙は、力任せにひっぱってもちぎれないことに気付いた子どもがいた。

6 家庭との連携

- 子どもの遊んでいる様子を、写真で掲示して紹介したり、保護者会で動画を見せたりすることで、子どもが好きな遊びを十分楽しんでいる様子を知らせ、園生活への安心感につなげ、保護者との信頼関係を構築する。
- この時期は保育室などの環境が変わるため、子どもたちは心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。家庭で、「今日は何をして遊んだの?」「好きな遊びをたくさんしたね。楽しかったね。」などと、子どもとの会話を交わしながらゆったりと過ごす時間をもつ大切さをおたよりなどで伝え実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児I期（4月から5月）「生活習慣」【事例3】

できたね！

1 活動のねらい

○保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱、昼寝などしようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱をする＞

- ・トイレに行き、ズボンやパンツを脱ぎ、便器に座り排せつをする。
- ・排せつ後や食事前には、手を洗う。
- ・自分の帽子を、所定の位置に片付ける。
- ・パンツやズボンの着脱や靴の脱ぎ履きは、自分でできるところはしようとする。



・手洗いを丁寧に行っている様子



・着替えを、自分でできるところはしようとしている様子

援助のポイント

- ・「ズボンを下げるよ。」など具体的な言葉を掛け、一人ひとりの発達を踏まえて見守ったり援助したりする。
- ・排せつや着替えの際は、つい立やカーテンなどを上手に利用し目隠しをする。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・トイレ、手洗い場、廊下など

②用具・構成

- ・洗濯リング、石鹸、つい立、カーテンなど

4 安全上の配慮

- 着替えの際は、前かがみになったり片足になったりすることでバランスを崩すことが予想されるため、側で見守り必要に応じて体を支える。また、座って履く、壁などに少しだけ寄りかかって履くなどの方法を知らせる。

5 活動を通して育まれた姿

- 着脱のコツを少しずつ身に付けてきた。
- やろうとする気持ち、できたという気持ちを認めることで、徐々に「やって～。」から「見ていてね。」という言葉に変化した。褒められている友達を見て、自分も頑張ろうとする気持ちにつながってきた。

6 家庭との連携

- 自分でやりたい時期であり、繰り返し経験することで習得していくので、保護者会などで少し大きめの衣類がよいことや、衣類の素材やデザインについても実物やイラストで説明し、着脱しやすいものを選んでもらうよう伝える。また、園ではできても、家では甘えてできないことがある。そのような場合は、「今日は手伝ってあげようね。」という気持ちで対応し、やろうとしたときは子どもを励ますよう保護者に伝え、成長を見守る。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児I期（4月から5月）「運動」【事例4】

楽しいね

1 遊びのねらい

○近場への散歩を通して階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜園庭や散歩で、様々な形態の場所を歩くことを楽しむ＞

・園庭の斜面やタイヤの上、公園の階段や細い道や段差の上などを歩く。



・タイヤの遊具の上を歩く様子



・公園内の段差を歩く様子



・公園内の石の上を歩く様子

＜室内で、様々な形態の場所を歩くことを楽しむ＞

・様々な物を使って設定された細い道や斜面の上を歩く。



・大型積み木で作った橋を渡る様子



・マットの斜面を歩く様子

援助のポイント

・一人ひとりの発達に応じて、少人数に分かれて遊ぶ場所を選定する。

・室内で行う場合は、マットや平均台、廃材などを活用し、でこぼこ道や階段に見立てて設定する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・公園、園庭、室内

②用具・遊具

・マット、平均台、巧技台、廃材など

4 安全上の配慮

○戸外で遊ぶ場合は、思いがけない危険物や破損している遊具があることが予想されるため、子どもが遊ぶ前に保育者が点検し排除して、安全な遊びの環境をつくる。

5 遊びを通して育まれた姿

○小山に見立てたところを、バランスをとりながら歩くことを、喜んでいる姿を見ることができた。

○すぐにできなくても、転びそうになっても、繰り返し上り下りをしていた。

○室内でも、設定を工夫することによって十分に体を動かし遊ぶことができ、満足そうに遊ぶ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

○園で経験している遊びの様子を、具体的に写真で掲示したり、保護者会で動画を見せたりすることによって、家庭でも休日に家庭の中で遊ぶ際の参考にしてもらう。

○子どもたちが様々な形態の場所を歩く経験ができるように、近隣の公園や路地の紹介を掲示物やおたよりなどで紹介して、家庭でも散歩に出かける際の参考にってもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅱ期（6月から8月）「学びの芽生え」【事例5】

私の僕の 魔法の手

1 遊びのねらい

○粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、丸めるなど、自由に楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<粘土に触れて感触を味わい、伸び伸びと遊ぶ>

・粘土を使って、ちぎる、伸ばす、丸める、粘土板の型押しなど、自由に楽しむ。



・粘土を手のひらで転がしてお団子を作っている様子



・粘土ベラを包丁に見立て、粘土を切っている様子

援助のポイント

- ・保育者が粘土を丸める様子を見せ、「パーとパーの手のひらで回すようにコロコロすると、丸くなるよ。」「粘土板の上で、まっすぐにコロコロすると長くなるよ。」などと、手のひらや指先の使い方を知らせる。
- ・保育者も一緒になって、子どもたちの関心があるものを作ったり、「何ができたの？」などと声を掛けたりして、意欲を高める。
- ・夢中になっている様子ときは、声を掛けずに集中できる環境をつくる。
- ・子どもの気持ちや発見した様子に気付いたら、「そうだね。」「○○みたいだね。」などと共感し、子どもの発想をさらに助長し遊びを広げていく。
- ・慣れてきたら粘土ベラなども用意し、遊びを広げる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・保育室

②用具・遊具

・粘土、粘土板、粘土ベラ、シート

4 安全上の配慮

- 粘土ベラは、振り回すとけがをすることが予想されるため、保育者が側について使い方を知らせる。
- 小麦粉粘土は、小麦粉アレルギー児が触ったり口に入れるとアレルギー反応が出たりすることが予想されるため、遊びの場所を限定して行ったり、遊びの後の片付けや遊んだ子どもの手洗や着替えなどを徹底したりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 指先だけでなく手全体を使うことにより、粘土の形が様々に変化することに気付き、自由に想像を膨らませて楽しむことができていた。
- 粘土で作った作品を、ごっこ遊びに取り入れるなど、遊びが発展するようになった。
- 集中して遊ぶ時間に個人差はあるが、一人ひとり満足感を得ている姿を見ることができた。
- 保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わい、別の場面でも進んで一緒にやろうとするようになった。

6 家庭との連携

- 保護者がお迎えの際に見ることができる場所（玄関や保育室の入り口など）に、子どもが粘土で遊んでいる様子を写真などで掲示したり、できた作品を実際に保護者に見せたりして、子どもの工夫していた点や発見したことなどを伝え子どもの成長を共感する。さらに、一人ひとりの創意工夫を褒めてもらい、子どもたちの自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅱ期（6月から8月）「人との関わり」【事例6】

魔法の片付け

1 遊びのねらい

○遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜遊んだ遊具を保育者と一緒に片付ける＞

- ・用具や遊具の収納場所の掲示を見ながら、遊具を片付けることを楽しむ。
- ・指先や手を動かしながら布をたたんだり、収納場所に戻したりすることを楽しむ。



・片付ける場所がすぐ分かるような、絵や写真の掲示



・布を上手にたたむ様子



・ままごとのエプロンを収納ポケットに入れる様子



・散歩の帽子を洗濯バサミで止める場所

援助のポイント

- ・「車は車庫に入れてあげようね。」「片付け競争しようか。」「片付けができたなら、紙芝居を観ようね。」などと、次の活動に期待をもてるような言葉を掛け、意欲につなげる。
- ・片付けができたなら、「上手に片付けができたね。」「きれいになって気持ちがいいね。」「次に使うときにすぐに遊ぶことができるね。」などと、達成感や規範の意識を育む言葉を掛ける。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・収納場所の掲示、収納ポケット

4 安全上の配慮

- 友達と同じ玩具を片付けようとして、取り合いになりけがをしたりすることが予想されるので、自分の使った物を片付けるように、一緒に使った物は、仲よく分担して片付けるように知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- 使い終わったら片付けるという習慣が少しずつ身に付いてきた。
- みんなで使う遊具や玩具を大切にするという規範意識が、少しずつ育まれてきた。
- 保育者と一緒に片付けることで、片付け方や布のたたみ方、物の扱い方などを子どもが安心して覚え、自分でもすすんでやろうとする姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 連絡帳や口頭で、園での片付けの様子を伝えることで、家庭でも、楽しく遊んだら楽しく片付けることを意識して、保護者も一緒に実践してもらおう。
- 園では、片付けるときにどのような声を掛けているのか、どのような方法なら子どもが片付けやすいのか具体的に伝え、家庭で行う際の参考にしてもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅱ期（6月から8月）「生活習慣」【事例7】

見て！ できたよ！

1 活動のねらい

○できないところは保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜衣服やパンツ・紙オムツの着脱を自分でしようとする＞

- ・保育者に援助されながら、衣服を脱ぐ。
- ・パンツや紙オムツは、できるだけ立って履こうとする。（壁に手を付いたりし、片足立ちでバランスが崩れないようにする。）

＜靴や靴下を自分で脱いだり履いたりしようとする＞

- ・靴下は、両手で同時に引っ張り上げながら履くようにする。
- ・靴下が途中で足の指に引っ掛かり履けないときは、靴下の先を引っ張り、足の指の引っ掛かりをはずしてから履くようにする。



・靴下を履いている様子



・足の指の引っ掛かりをはずしてから靴下を履いている様子

援助のポイント

- ・衣服は、袖をひっぱりながら脱ぐことができるようになってきたが、汗をかいていると脱ぎにくい場合があるので、保育者が途中まで介助しながら、できるところは自分でできるように促す。
- ・ズボンは後ろ前にならないよう、「このズボンはポケットが後ろだよ。」「このズボンはボタンが付いている方が前だよ。」などと、今後自分でも分かるように声掛けを行う。
- ・子どもが靴の左右を間違えないように、「○○の絵がこっちね。」などと分かりやすく知らせる。
- ・保育者は、子どもが靴の左右を間違わずに履けたか、マジックテープが付いている靴はしっかり止めてあるかなどの確認を行い、正しい靴の履き方や履き心地が分かるようにする。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室、靴を着脱する場所（ベランダや玄関）

②用具・構成

- ・着替えが落ちて着いてできる空間

4 安全上の配慮

- 衣類などの着脱では、バランスを崩すことが予想されるため、寄りかかることができる壁側や、周りに危険な物がない場所で行うようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 衣服などの着脱では、まず自分でやってみてできないときに、「手伝って。」と言うようになった。
- ズボンやパンツなどは、寄りかかることができる壁側や、周りに危険な物がない場所で行うように伝えたことで徐々にできるようになり、自分でバランスを取りながら立って履けるようになった。
- 靴は、子どもが履いた後に保育者が確認をすることで、靴が途中で脱げる事が無くなった。

6 家庭との連携

- 衣服はゆとりのあるサイズや着やすいデザインを用意してもらうよう、保護者会などで具体物などを準備して見てわかるようにしたり、口頭やおたよりなどで伝えたりして準備の参考にしてもらう。
- 靴は、発育時期の子どもにとってとても大切なものであるため、どのような靴が望ましいか、クラスだよりや保護者会などで実際の靴を見せながら知らせ、準備してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅱ期（6月から8月）「運動」【事例8】

楽しいな！！

1 遊びのねらい

○リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜好きな曲に合わせて踊る＞

- ・友達や保育者の動きをまねして、自分なりに体を動かして楽しむ。
- ・具体的な、動物や物のまねをして動いて遊ぶ。（ウサギ、ゾウ、ヘビ、車、飛行機など）
- ・踊りの振り付け（四肢の動かし方）を覚えみんなで楽しむ。
- ・保育者の弾くピアノの音楽や、タンバリンなどのリズムの音に合わせて体を動かして遊ぶ。
- ・子ども同士で手をつなぎ、友達との関わりを楽しむ。



・曲に合わせて自分なりの動かし方を楽しむ様子

・保育者の掛け声に合わせて、声を出したり、ジャンプしたりして楽しむ様子

援助のポイント

- ・保育者は、子どもたちに声を掛けるときは、元気な声や表情豊かに楽しい雰囲気づくりを心掛け、子どもと一緒に楽しむ。
- ・保育者が一緒に踊り、動きを大きくし見本になる。
- ・体操の振り付けを覚える際には、次の動きが分かりやすいように、「次はジャンプするよ。」などと先に言葉で伝え、子どもが曲に合わせて動くことができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室（園庭でも可）

②用具・遊具

- ・子どもの好きな曲（CD）、保育者の歌声、リズム楽器（タンバリン・ピアノ）など

4 安全上の配慮

○テンポの速い曲の場合、他の子どもとぶつかったり転んだりすることも予想されるため、広い場所で行うようにしたり、広がって動くように声を掛けたりする。

（遊ぶ場所は、正方形や円形で確保するとぶつかることが少ない）



5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたちが大好きな曲を準備して遊ぶことで、喜びながら自然に体を動かす子どもが増えた。
- 楽しく体を動かす経験をしたことにより、「もう1回やりたい。」などと催促する子どもが増えた。
- 輪になり手をつなぎ振り付けのときは、保育者が仲立ちとなり、全員で楽しむことができた。

6 家庭との連携

- リズムに合わせて楽しみながら体を動かしている姿を、写真で掲示したり、保護者会で動画を見せたりすることで、子どもの興味や成長について知ってもらい保護者の安心感につなげる。
- 子どもたちの好きな体操や曲の動きやポーズを、図で掲示したり、おたよりで知らせたりするなどして、家庭でも親子で一緒に楽しんでもらえるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅲ期（9月から10月）「学びの芽生え」【事例9】

ホップ ステップ ダンス♪

1 遊びのねらい

○保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者と一緒に好きな歌を歌ったり音楽に合わせて体を動かしたりして遊ぶ＞

- ・保育者や友達と一緒に、いろいろな歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。
- ・リズムダンスの曲に合わせて、自分なりの動きをしたり、保育者や友達の動きを見て楽しんだりする。



援助のポイント

- ・保育者は、子どもと一緒に体を動かして楽しむ。
- ・曲の基本的な振り付けは、次の動きの前に「しゃがむよ。」「ジャンプするよ。」などと、言葉で知らせる。
- ・子どもたちが伸び伸びと動くことができるように、空間を広く準備する。
- ・伸び伸びと表現している子どもの様子を、「○○ちゃん上手だね。」「楽しそうだね。」などと、具体的に誉め、意欲につなげる。

・子どもたちの好きな曲（「ブンバボン」「ペンギン体操」「忍者なんじゃもんじゃ」など。）に合わせて、しゃがんだりジャンプしたりしている様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室、ホール、園庭など

②用具・遊具

- ・CDデッキ、音楽や体操のCDなど

4 安全上の配慮

○残暑で気温や湿度の高い日もある。体を動かして遊ぶと、子どもの体温が上がったり、熱中症になったりすることが予想されるため、室内の温度を調節したり、動いた後は休息の時間をつくったり、水分を補給したりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたちが大好きな曲が流れると、歌詞に出てくる動物の動きを自分なりの表現で楽しむ姿を見ることができた。
- 友達の動きを見て、「面白いね。」と笑い合ったり、「こうだよ。」と教え合ったりしていた。
- 音楽に合わせて体を動かすなどの遊びを通して、保育者や友達の動きをよく見たり、歌や音楽をよく聞いたり考えたりして表現するようになった。
- 友達と2人組で動く振り付けでは、手を握り合ったり、ギューっとなでたりと体をくっつけたりすることで、楽しさを一層感じていた。

6 家庭との連携

- 子どもと一緒に歌ったり踊ったりしている曲について楽譜や歌詞をおたよりに載せて、子どもが口ずさんだときには、「○○の歌だね。聴かせて。」「どうやって踊るの？見せて。」などと声を掛けてもらうなど、子どもが喜んで表現する姿を見てもらうことで子どもの自信につなげる。
- 子どもが曲に合わせて表現を工夫していた点を連絡帳や口頭で伝え、成長を認め褒めてもらう。
- 運動会や保育参観などの場面で音楽に合わせて動く姿を実際に見てもらい、伸び伸びと表現する楽しさを味わっている様子を伝え、認めてもらうことで自己肯定感につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅲ期（9月から10月）「人との関わり」【事例10】

痛い所は無いですか？

1 遊びのねらい

- 保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。
- 経験したことの中で同じようなイメージをもって、見立てて遊ぶことやごっこ遊びを保育者と一緒に楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者と一緒にお医者さんごっこをする＞

- ・保育者が読む、「ノントンがんばるもん」（偕成社）の絵本を見て、お医者さんごっこに興味をもつ。
- ・子どもは自分が患者の役になったり、人形のお母さん役になったりして、お医者さん（保育者）のところに来て手当を受ける。
- ・保育者が、「痛い所は無いですか？」「お腹が痛いのですね。朝何を食べましたか？」「けがをしたのですね。転んだのですか？薬を付けて包帯を巻きますね。」などと、具体的な言葉掛けをすることに子どもが様々な答え、やり取りを楽しむ。
- ・子どもと保育者が、お医者さんと患者さんの役割を交替して、やり取りを楽しむ。
- ・慣れてきたら子ども同士でも、やり取りを楽しむ。



・ぬいぐるみの人形に薬を塗っている様子

お医者さんごっこに必要なもの

聴診器	リボンの先に洗濯バサミ
薬	お手玉
注射器	棒状の玩具
包帯	ハンカチ

援助のポイント

- ・絵本を読んでお医者さんごっこの導入をしながら、子どもたちが病院に行ったときのことを聞いて、イメージを膨らませる。
- ・椅子、テーブル、パーテーションなどを使用して、診察室をつくる。
- ・順番を待つ間も楽しむことができるように、待合室を作る。（やり取りが見えるようにすると、イメージが膨らむ。）
- ・身近なものを使用して、お医者さんごっこに必要なものを用意する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・椅子、テーブル、パーテーション
- ・リボン、洗濯バサミ、お手玉、ハンカチなど

4 安全上の配慮

- 楽しくなってくると、はしゃいで走り回ったり、様々な玩具（お医者さんごっこに必要なもの）を独り占めしたくなり取り合ったりして、けがをすることが予想される。遊ぶ前に順番に静かに待つことや、玩具を譲り合って使うように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたちは、自分の経験をもとに、どうすればけがや病気が治るかを考えてやり取りを楽しんでいた。
- 保育者や子ども同士で、言葉の掛け合いや肌の触れ合いを心地よく感じる事ができた。（特に、いたわりの言葉の掛け合いが心地よかった。「痛かったですね。」「もう治りますよ。」など。）
- 子どもたちがイメージを膨らませて、お医者さんごっこを楽しむ様子が見られた。
- 初めは見ていただけだった子どもが、一緒に遊ぶようになった。

6 家庭との連携

- 下記のようなやり取りのエピソードや写真をおたよりに載せ、ごっこ遊びを通して子どもたちが人と関わり成長している様子を伝えることで、子どもの成長を喜び子育てが楽しくなるようにする。

保育者：「痛い所は無いですか？」

子ども：「お腹が痛いです。」

保育者：「何か食べましたか？」

子ども：「バナナの皮を食べました。」

保育者：「バナナの皮は食べないでくださいね。」

子ども：「はい。」

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅲ期（9月から10月）「生活習慣」【事例11】

一人でできたね

1 活動のねらい

○保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜戸外に出掛ける準備や始末を自分でしようとする＞

- ・帽子を被ろうとする。
- ・靴下や靴を履いたり脱いだりしようとする。
- ・トイレに行きパンツやズボンを着脱しようとする。
- ・衣服の向きなどを確認しながら、着替えをしようとする。



援助のポイント

- ・これまで保育者に援助されながらできていたことを、自分だけでやってみたい気持ちが出てきている。その思いを受け止めて、「頑張っているね。」「ここまでできたね。嬉しいね。」などと、具体的な言葉で姿を認めて、次の意欲へつなげる。
- ・準備や片付けの時間を十分に設定し、子どもたちが慌てることなく取り組むことができるようにする。
- ・指先の遊びを楽しむことが、手先の巧みさを育むことにつながるため、日々の保育に取り入れる。

・1人で靴下を履いたり、靴を履いたりしている様子



・指先の巧みさにつながる折り紙遊びなどを楽しむ様子

3 環境の構成

①活動の場所

- ・トイレ、玄関、ロッカー前など

②用具・構成

- ・靴、帽子、着替えの衣類など

4 安全上の配慮

- 着脱の際や靴を履く際に、バランスを崩して転倒することが予想されるため、寄りかかることができる壁側や、周りに危険なものがない場所で行うようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 衣服の向きを確かめてから着ようしたり、衣服を脱ぐときに手や体の動かし方が巧みになったりした。
- 友達が着脱をしているのを見て、自分もやってみようとする子どもが多くなった。
- 保護者が準備してくれた、自分の気に入った衣類に思い入れをもち、「〇〇のパンツを履いてみる。」などと、着脱の意欲につながった。

6 家庭との連携

- 子どもの着脱しやすいデザインや、好きな色や柄の衣類を用意してもらえるように、具体物などを準備して情報提供する。
- 子どもが、衣服や靴の着脱を自分でやってみようとする意欲を認め見守りながらも、ときには「ここはお手伝いするね。」などと、さりげなく援助してあげることも必要であるということを保護者に知らせ、家庭でも実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅲ期（9月から10月）「運動」【事例12】

おとっと！バランスをとって渡ろう

1 遊びのねらい

○遊びを楽しむ中で、走る、両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々に身体を動かす。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々に身体を動かして遊ぶ>

サーキットコース

- ①10センチメートルの高さの一本橋を渡る。
- ②両足でゴムの上を跳ぶ。
- ③腹ばいでゴムをくぐる。
- ④牛乳パックで作った箱積み木を島に見立てて渡る。



・腕を広げてバランスを取りながら一本橋を渡っている様子

・両足でゴムを跳ぶ様子
・友達が跳ぶ姿を見て自分も跳ぶ準備をしている様子

・牛乳パックの島を床に落ちないようにバランスをとりながら渡っている様子

援助のポイント

- ・サーキット形式に設定して、様々な遊びを経験できるようにする。
- ・スタートの位置を2か所にし、待つ時間の短縮を図る。
- ・難しさのレベルを変えて2通りの楽しみ方ができるように設定する。
- ・運動遊びが苦手な子どもには、友達のやっている様子を見せてから、「やってみる？」などと誘い掛けて、コースの中で、できそうな部分を体験するよう促す。
- ・太鼓橋をよじ登ったり、トンネルをくぐったり、経験できる遊びを変化させてコースを設定する。
- ・できたという満足感、達成感を味わえるように「できたね。」「頑張ったね。」などと言葉を掛ける。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・遊具

- ・巧技台、ゴム、牛乳パックで作った箱積み木

4 安全上の配慮

- 急いで進んだり、前の友達を押ししたりしてけがをすることが予想されるため、事前に急がないことや、友達を推さないことを伝える。
- 一人ひとりの子どもの力量に合わせて、要所に保育者が付き見守る。

5 遊びを通して育まれた姿

- ゴム跳びは、日々楽しめる環境にしたところ経験が増して、両足をそろえて跳ぶことができるようになった。「見て、見て。」と嬉しそうな表情で跳ぶことができた。
- 新しいことに対して、すぐに遊びだせない子どももいるが、同じ設定で繰り返し遊ぶことで環境に慣れ、自分から取り組むことができるようになった。
- 設定の内容を変化させたり、難しさを変えたりすることで、様々に身体を動かして楽しむ姿が見られた。

6 家庭との連携

- この時期は徐々に基本的な運動機能が発達し、自分の体を思うように動かすことができるようになってくる。子どもに、体を動かすことが楽しいという思いを育むことが大切だということを保護者と共有し、家庭でも進んで実践してもらおう。
- 連絡帳や日々の掲示・おたよりなどで、それぞれの子どもがどのような様子で取り組んでいるかを保護者に伝え子どもの成長を共感するとともに、子どもを褒めてもらうことで次への意欲につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅳ期（11月から12月）「学びの芽生え」【事例13】

合言葉は トリック・オア・トリート！

1 遊びのねらい

- 音、色、匂い、量などに気付き、興味をもつ。
- 保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<みんなでハロウィンごっこを楽しむ>

- ・ハロウィンに関する絵本や紙芝居を見て興味をもつ。
- ・みんなで、ハロウィンごっこに使うバッグやつくり物の飴を作る。



- ・セロファン（紙）の端をねじって、飴を作っている様子



- ・合言葉を言い、他の保育室の保育者からつくり物の飴をもらっている様子

飴の作り方

- ①8センチメートル×16センチメートル大のセロファンから、好きな色を選ぶ。
- ②ティッシュ1枚を、手のひらでお団子状に丸める。
- ③セロファンの真ん中に、丸めたティッシュを包んで、両側をねじる。

- ・自分の保育室の中に隠されているつくり物の飴を探す。
- ・いろいろなクラスに出掛け、保育者と一緒に合言葉「トリック・オア・トリート。」を言うとつくり物の飴がもらえる。



- ・たくさん集まったつくり物の飴を見て、「いっぱいもらったよ。」と、嬉しそうに見せている様子

援助のポイント

- ・ハロウィンに関する絵本や紙芝居を読んで、子どもたちに興味をもたせる。
- ・飴やバッグを作るときは、自分たちが好きな色を選ばせて、「赤いバッグを作るのね。」「青い飴ができたね。」などと、色の名前が一致するように言葉を掛ける。
- ・他のクラスの保育者には、子どもと簡単な言葉のやり取りを交わしてもらうように事前に伝えておく。
- ・「飴がたくさん集まったね。」「重たいね。」などと、量を表現する言葉掛けをする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園内

②用具・遊具

- ・手作りバッグ、手作りの飴

4 安全上の配慮

- 園内を探索するとき子どもがあちこちに移動し保育者が子どもを見失ってしまうことが予想されるため、保育者は声を掛け合い、5人～6人くらいの小グループに対して一人の保育者が付いて、一緒に行動する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 飴を作るときから、赤、青、黄色などと色の名前を言ったり、1つ、2つ、たくさん、重いなどの量に関する言葉を使ったりする様子が見られた。
- 担任以外の様々な保育者と関わりながら、合言葉を言ったり、「くださいな。」「ありがとう。」などのやり取りの言葉を交わしてつくり物の飴をもらったりすることを楽しんでた。
- やり取りが楽しい気持ちを、「おもしろいね。」などと、一緒に体験した他の子どもと共感する姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 実際に遊んでいる様子の写真や合言葉を、掲示したりおたよりに載せたりして遊び方を知らせ、自分が見つけたりもらったりしたつくり物の飴を家に持ち帰り、家庭でも保護者とやり取りを交わしながら遊ぶことができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅳ期（11月から12月）「人との関わり」【事例14】

電車でGO！

1 遊びのねらい

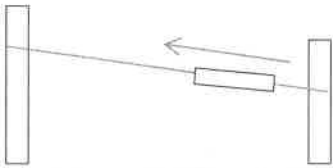
- 保育者や友達と言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊びをする。
- 保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜電車に見立てた筒を走らせて楽しむ＞

- ・電車に見立てた筒をできるだけ遠くまで走らせる（滑らせる）。
- ・どこまで進んだか競争する。



場の構成

- ①動かない物（棚や柱などに紐をやや斜めに結び付ける。
- ②子どもの身長よりも少し高い1メートルくらいの高さ。

・電車に見立てた筒を手を持って構え、勢いを付けて腕を前に伸ばして走らせている様子

・順番を待っている友達が、遠くまで電車が走るように、「頑張れ。」などと応援をしている様子

援助のポイント

- ・筒が止まった場所を、その距離に合わせて子どもが聞き覚えのある駅の名前（中野駅、新宿駅など）にして、電車ごっこのイメージを高め楽しめるようにする。
- ・より遠くまで電車が進むように、子どもの背の高さによってスタート地点の高さを調節する。
- ・「どこまで電車が進むかな。」「最初は先生が運転します。発車オーライ。」などと、保育者が雰囲気盛り上げながらやって見せる。
- ・初めのうちは好きなように電車を持ち、次第に手のひら全体で筒を握ったり勢いをつけたりと、工夫すると進む距離が変わることを知らせ、実際に保育者がやって見せる。
- ・友達がやる時は、「頑張れ。」などと応援したり、「発車。」の掛け声をみんなで言ったりして、保育者や友達と言葉をやり取りしながら遊ぶ楽しさを知らせる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・筒（ラップなどの芯）
- ・ロープ約5m（滑りやすいポリエチレン素材のもの）



4. 安全上の配慮

- 子どもの身長の高さにロープを張ることで子どもがロープに首を引っ掛けることが予想されるため、ごっこ遊びをする場所や順番を待つ場所を分けて設定する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 電車や駅に見立てて遊ぶ楽しさを味わいながら、順番を待つという簡単なルールが身に付いた。
- 「僕もやりたい。」「頑張れ。」「すごい。ここまで走ったよ。」などと、友達と言葉を交わしながらやり取りすることで親しみを感じ、他の遊びでも一緒に遊ぶ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 友達や周りの大人との関わり方を身に付ける時期である。一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように、家庭でも保護者と一緒に、様々な場面（公園や人が集まる場所など）で、同じくらいの子供と関わって遊ぶことができるように仲立ちとなり、遊んだり言葉のやり取りを経験できたりするように伝える。

食べるのって楽しいな♪

1 活動のねらい

○フォークやスプーンを正しく持とうとし、食器に手を添えてこぼさずに食べようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

<フォークやスプーンを正しく持つ>

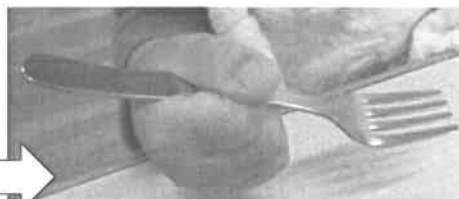
鉛筆持ちのやり方



・利き手をグーにした後、人差し指と親指を広げる



・指の真ん中に保育者がフォークを乗せる



・人差し指と親指を丸くして、フォークを押さえる

<食器に手を添えて食べようとする>



・スプーンを持たない方の手を食器に添えている様子



・左手で食器を支えて、右手でスプーンを使い、食べ物を乗せようとしている様子

保育者の言葉掛け

「集まれ、集まれ。」など。

援助のポイント

- ・食器を自分の近くに置くと食べやすくなることを知らせる。食器を動かすときは、スプーンやフォークを置いてから行うよう知らせる。
- ・1テーブルに5～6人の子どもが座る設定にし、保育者の援助が適切に行えるようにする。
- ・こぼさないように食べている姿を認め、「食器に上手に手を添えているね。」などと声を掛ける。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・遊具の構成

- ・フォーク、スプーン、食事、食器

4 安全上の配慮

- スプーンやフォークを人に向けると思わぬけがにつながる事が予想されるため、すぐ側で見守り、危険な場合は適宜止めて正しい扱い方を知らせる。

5 活動を通して育まれた姿

- 食べているときに、スプーンやフォークの持ち方や食べ方を意識して食べる様子が見られた。
- こぼさないように自分で気付くことができるようになり、徐々にこぼさず食べるよう気を付けることができるようになった。

6 家庭との連携

- 子どもがスプーンやフォークを鉛筆持ちで食べていることや、正しい姿勢で食べていることを、クラスだよりや口頭で伝えたり、話をしたりすることで、家でも同様に正しい使い方を実践してもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児Ⅳ期(11月から12月)「運動」【事例16】

できたよ すごいでしょ

1 遊びのねらい

○登る、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びをする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<様々な場所で、全身を使って遊ぶ>



・タイヤに紐をつけて体全体で紐を引っ張って遊ぶ様子



・跳び箱に体全体を使ってよじ登っている様子



・公園のアスレチックで棒状の部位をつかんでぶら下がって遊ぶ様子



・手作り遊具「パタパタトンネル」によじ登って遊んでいる様子

手作り玩具の作り方

材料

- ・牛乳パック
- ・段ボール
- ・粘着テープ
- ・紙
- ・糊
- ・布
- ・ボンド



①牛乳パックの中に段ボールを同じ大きさに切って詰める。(新聞紙や紙を丸めたものは柔らかいので不可。)



②①でできた牛乳パック2個を粘着テープで張り付ける。



③②でできた牛乳パックを8個つなぎ合わせ粘着テープで貼り合わせる。
④糊づけをした紙で下張りする。
⑤水で薄めたボンドで布を張り乾かす。

パタパタトンネルの遊び方

- ・トンネルに見立ててくぐる、よじ登る。
- ・平らにして柵の上を落ちないようにバランスをとりながら歩く。
- ・1列にした柵に座り、「電車ごっこ」「おうちごっこ」。
- ・全部重ねて中に入る「お風呂ごっこ」など。

援助のポイント

・力を入れる登り方や動きの動作は、保育者が実際にやって見せて体の使い方を知らせる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・保育室、ベランダ、公園

②用具・遊具

・タイヤ、跳び箱、ひも、マット、パタパタトンネル、公園の固定遊具

4 安全上の配慮

○用具や遊具は適切に設定しないとけがをすることが予想されるため、使用する前に保育者が必ず安全点検を行う。

○年齢に合わない遊具を使用するとけがをすることが予想されるので、子どもがやりたいからやらせるのというのではなく、子どもの発達にふさわしい遊びかどうか確認・検討する。(公園の遊具には使用適正年齢のラベルが貼ってあるので使用前に見て確認する。)

5 遊びを通して育まれた姿

○引っ張るといった体の使い方は遊びの中ではあまりない動きなので、意識的に取り入れることで、背筋を使ったり足を踏んばったりする動きを経験することができた。

○四肢や体の使い方を工夫して遊具の上に登りきれたときは、嬉しそうに達成感を味わっている姿を見ることができた。

○パタパタトンネルを使った遊びでは、設定を変化させて設定することで、子どもたちが体のいろいろな部分を使って楽しむことができた。

6 家庭との連携

○しっかり歩くことで体幹が育ち姿勢がよくなったり転びにくくなることを伝え、家庭でも散歩で歩いたり、公園の遊具をよじ登ったりするなど、すすんで体を動かして遊ぶことができるように伝える。

○日常的に運動遊びをすることを伝え、一人ひとりの足のサイズに合った運動靴や、動きやすい衣服を実際の見本を用意し購入の参考にしてもらう。

折ります♪折ります♪

1 遊びのねらい

- 少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。
- 指先を使い、合わせ折りや好きな折り方をして楽しむ。

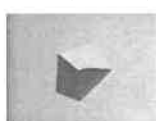
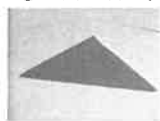
2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<折り紙でコップを作って遊ぶ>

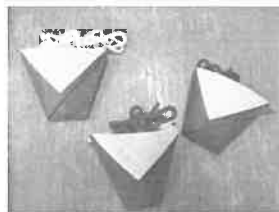
コップの折り方

①三角に折る。②左の角を右上に折る。③右の角を左上に折る。④上の三角を下へ折る。⑤反対側も下に折る。



・折り紙を三角に折っている様子

- ・好きな色の折り紙を選んでコップを折る。
- ・できあがったコップでごっこ遊びをしたり、飾ったりして遊ぶ。



・いろいろな色のチェーンを中に入れてジュースに見立てている様子



・子どもたちがジュースの入ったコップに見立てて「かんぱーい。」と言いながら飲むまねを楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・少人数（2人～3人位）で取り組める環境をつくる。
- ・少し大きめの紙で見本の折り紙を見せながら、「初めに三角のお山を作ります。」「この角とこの角をぴったりと重ねるよ。」「ここを押さえて、アイロンするみたいに上から押さえて折り目を付けますよ。」などと、子どもが理解しやすい言葉で折り方の説明をしながら進める。
- ・折る速さが一人ひとり違うので、同じペースで進めることができるように全員ができたことを確認してから次の折り方に進む。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②道具・遊具
 - ・折り紙

4 安全上の配慮

- 折る際に紙のふちの部分で手を切ったり、折るとできる角や尖った先は硬いので目などに入ってけがをしたりすることが予想されたため、実際に折る前に折り紙の扱い方について「ここは触らないよ。」「尖ったところは顔の周りには近付けると危ないよ。」などと具体的に知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- 四角い折り紙を三角に折ることから、形を認識したり意識する姿が見られた。
- 角と角を重ねたりずれないように押さえたり折り目を付けたりするなど、指先を使う遊びをたくさん経験することができた。
- 自分で作ったもので遊ぶ楽しさを味わう姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 折り紙は家庭でも遊ぶことができる身近な素材である。コップ以外にも簡単に折ることができるものを選び、作り方をとおりに記載して配布することで親子で楽しむことができるようにする。
- 形について興味をもつことができたことを保護者に伝え、家の中や親子で散歩する際などに、「これは四角い形だね。」「サンドイッチは何の形だろう？」などと具体的な会話を交わしてもらい興味を一層深める。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児V期(1月から3月)「人との関わり」【事例18】

一緒に逃げよう！

1 遊びのねらい

- 気の合う友達2～3人で、ごっこ遊びを楽しむ。
- 保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。

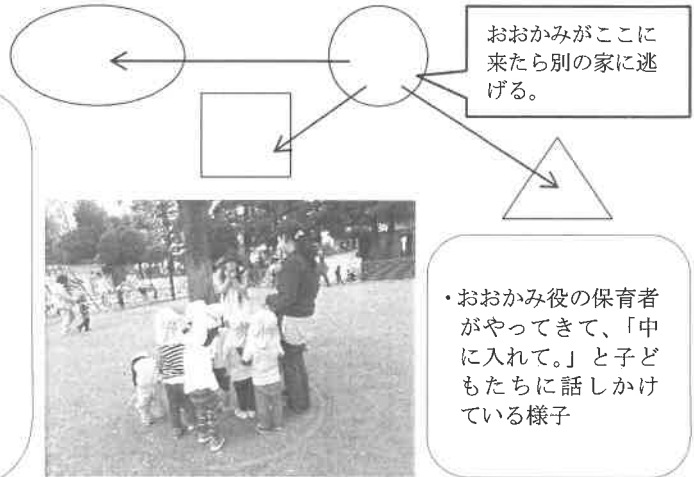
2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<簡単なルールのあるゲームを楽しむ>

ゲームのやり方

- ①地面に四角や丸の形を描き家に見立てる。
- ②好きな家に入って待つ。
- ③おおかみ役(保育者)と子ぶた役(子どもたちと他の保育者)に分かれる。
- ④おおかみと子ぶたがやり取りを交わす。
「トントントン、中に入れておくれ。」
「いやだよ。入れないよ。」
「それなら吹き飛ばしてやる。」「フーフーのフー。」
- ⑤「フーフーのフー。」の合図で、子ぶたはおおかみに捕まらないように別の家に移動する。



・おおかみ役の保育者がやってきて、「中に入れて。」と子どもたちに話しかけている様子

援助のポイント

- ・子どもたちが大好きな「3匹の子ぶた」の絵本の内容をゲームに取り入れる。
- ・子ぶた役にも保育者が入り、おおかみとのやり取りや一緒に別の家に逃げる楽しさを共有する。
- ・おおかみ役の保育者は単純に逃げる子どもを捕まえるというのではなく、「待て待て。」「食べちゃうぞー。」などとやり取りの中にユーモアを盛り込みながらみんなで遊ぶ楽しさを演出する。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・公園の広場
- ②用具・遊具
 - ・特になし

4 安全上の配慮

- 別の場所に移動する際に友達とぶつかりけがをすることが予想されるため、人数に合った広さを確保したり、「周りをよく見て走るのよ。」などと、具体的に子どもたちに伝えたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたちから、「このおうちレンガだよ。」という言葉が聞かれ、絵本の内容をイメージしながら楽しんでいった。
- 慣れてきたころに逃げる場所を増やすと、新しいルールを受け入れて守って遊ぼうとする意欲や変化を楽しむ子どもの様子を見ることができた。
- 気の合う友達が逃げ遅れていると、「おおかみが来ちゃうよ。」「こっちに逃げよう。」などと言ったり、手をつないで逃げたりするなど、仲間意識が育まれている様子を見ることができた。

6 家庭との連携

- 遊びを通して子どもの工夫していた点や発見したことなどを連絡帳やおたよりで伝え、成長を共感するとともに、「よく考えたね。」「お友達と一緒に遊んで楽しかったね。」などと子どもに言葉を掛けてもらうことで、子どもたちに自信や満足感が育まれるようにする。
- 様々な遊びを通して集団としての子どもたちの成長や子ども同士の関わり方などが、3歳児での成長につながることを伝え、進級してからも自信をもって生活し、のびのびと遊ぶ力となることに安心感をもてるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児V期（1月から3月）「生活習慣」【事例19】

きれいって気持ちがいいね

1 活動のねらい

○食前、排せつ後の手洗いを自分でしようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

・手洗いの大切さを知り、保育者の動作や手洗いについての掲示物を見て、丁寧に手を洗う。

手洗いの手順

- ①石鹸を付ける前に、水で手を濡らし予洗いする。
- ②ハンドソープを一回手のひらに押しつけて石鹸を出す。
- ③手のひらで石鹸を泡立てながら順番に擦って洗う。
(手のひら、指、指の間、爪、手の甲、手首)
- ④水で泡を洗い流す。(石鹸で洗った順番と同じように手を動かすとよい。)
- ⑤両手を合わせて、水滴を静かに振り落とす。
- ⑥タオル又はペーパータオルで水分を拭き取る。



・手洗いの手順が記してある掲示物（絵）を見ながら手洗いができる工夫の様子



・指の先や爪の部分
を洗う様子



・指を交差させて左右に
動かし指の間を洗う様子



・最後に手首の周りをく
るくると擦って洗う様子

援助のポイント

- ・手洗いの手順が記してある掲示物（絵）を見ながら、保育者が洗う様子を見せる。
- ・子どもたちが理解しやすいように、「ごしごし。」「ぐりぐり。」「ぎゅっぎゅっ。」などと簡単な言葉を添えながら、洗う仕草をやって見せる。
- ・手首の泡を流しきれない子どもがいるので、「洗うときの順番と同じように水を掛けながら擦るよ。」「最後の手首のところも忘れずに擦ろうね。」などと具体的に言葉を掛けて知らせる。

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・手洗い場
- ②用具・構成
 - ・ハンドソープ、タオル、ペーパータオル

4 安全上の配慮

○手洗い場の床が濡れていると子どもが転倒することが予想されるため、雑巾などでこまめに拭き取る。また、水が床にはねないように、水の出し方や手の滴をしっかりと振り落とすように、実際に保育者がやって見せる。

5 活動を通して育まれた姿

○手を洗うための水や石鹸の適量を意識して、「これくらいだよ。」と保育者に確認する姿が見られた。
○掲示物を見たり、「ごしごし。」などと言いながら自分から丁寧に手洗いをする子どもが増えた。

6 家庭との連携

- 保健だよりなどで感染予防対策として手洗いの大切さを知らせ、手洗いの絵をおたよりに載せて配布し、家庭でも丁寧な手洗いを実施してもらう。
- 子どもたちが身の回りのことを自分でできるようになってきたことをおたよりや口頭などで保護者に伝え、成長を共感し3歳児クラスになっても自信をもって生活できるという期待につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
2歳児V期（1月から3月）「運動」【事例20】

みんなでお散歩！身体を動かして遊ぼう

1 遊びのねらい

○散歩に出掛けることを喜び、身体を十分に動かして遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<散歩で公園に出掛け、広い場所で身体を十分に動かして遊ぶ>

- ・広い公園などで身体を動かして遊ぶという目的をもって散歩に出掛ける。
- ・公園で思い切り走ったり、ごっこ遊びをしたりして楽しむ。



・公園の草の斜面はでこぼこしているの、バランスをとりながら慎重に走っている様子



・広い場所を思い切り走って楽しむ様子



・戸外に散歩に出かけることを喜んでい様子
・公園でたくさん身体を動かそうと楽しみにしている様子



・ごっこ遊びで、保育者がおおかみやおにになって子どもたちを追いかけている様子
・子どもたちは、捕まらないようにベンチの後ろに逃げ込んでいる様子

援助のポイント

- ・散歩に出かける前に、「今日は広い場所でたくさん身体を動かして遊ぼう。」などと散歩の目的を伝え、楽しみに歩くことができるようにする。
- ・子どもたちが好きなお話をごっこ遊びにして、公園にあるもの（固定遊具や大きな木やベンチなど）を陣地にして子どもと簡単なルールを確認し合ってから始める。
- ・どのようなごっこあそびでも、陣地を作ることで子どもたちが走り続けるのではなく、休憩できる時間を確保する。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・公園
- ②用具・遊具
 - ・特に無し

4 安全上の配慮

○戸外に出るときには気温に合わせて重ね着をしているので、上着類を着たまま走って遊ぶと身体の動きが鈍くなり思わぬけがにつながる事が予想される。公園に着いたら適度に衣類の調節をして準備運動をしてから遊ぶようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者から逃げるために、広い公園の中で次の陣地まで一生懸命走る姿が見られた。
- 「またお散歩に行って、おおかみごっこしようね。」などと、戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しみにしている様子を見ることができた。

6 家庭との連絡

○寒い季節になると室内で過ごすことが多くなる。そんな中でも暖かい時間帯を選んで保育者や友達と一緒に身体を動かして遊ぶ様子を、おたよりや掲示物などで知らせ、家庭でも進んで散歩に出掛けたり戸外で遊ぶ機会をつくってもらったりする。

3歳児 事例

(1) 3歳児 I期 (4月から5月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関わりを基盤にして新しい環境に慣れ、気に入った場や遊具で遊ぼうとする。 ・保育者の愛情を感じ取り、安心して生活する。 ・身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら園での生活の仕方を知る。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育室での遊びや遊具に興味をもち、自分の気に入った場や遊具で繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で経験したことがある遊具で好きな遊びを楽しむ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や「入れて」「貸して」などの遊びに必要な簡単な言葉が分かり、使ってみる。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や入園前から知っている友達と挨拶をする。 ・保育者にやりたいことを伝えようとする。 ・保育者の声掛けに答えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に歌ったり、手遊びやリズム遊びをしたりすることを楽しむ。 ・身の回りにある物や遊具に関わり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。【事例1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が行う手遊びや歌、リズム遊びを喜び、まねをして一緒にしようとする。 ・身近にある遊具を使って見立てたりままごとをしたりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児からの気の合う友達と一緒に遊ぶ。 ・誕生会や子どもの日の集いなどの集会に参加して、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に過ごす。 ・誕生会や子どもの日の集いなどの集会があることを知り、保育者と一緒に参加する。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。【事例2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでごくごすために必要な知っている約束を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでごくごすために必要な約束を知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の1日の生活の流れを知る。【事例3】 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。【事例3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方や1日の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度を保育者と一緒に行ったり、保育者の声掛けでトイレに行ったりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児のときに経験した追いかっこや固定遊具で、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に戸外で遊ぶことを楽しむ。【事例4】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「びりびり ぐしゃぐしゃ ねじねじ」【事例1】
- ☆人との関わり「まで！まで！ねずみ」【事例2】
- ☆生活習慣「僕たち 私たちの1日」【事例3】
- ☆運動「いろいろな物に 変身！」【事例4】

〈援助のポイント〉

- ・進級児は徐々に新しい環境に慣れて2歳児までの生活を引き継いでいけるように、新入児は自分の居場所を見付けて安定できるように、経験や生活の流れの違いを考慮して接していく。
- ・保育者は、温かい態度で一人ひとりに接しながら、子どもが生活に慣れていけるように、手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行うようにする。
- ・生活の流れを具体的に知らせて、安心して過ごせるようにする。
- ・進級児の不安や甘えを受け止め、一人ひとりが安心して過ごせるようにする。並行して、進級児が新入児に持ち物の場所を教える機会をつくるなど、できることを生かしながら遊びや生活の中で力を出すことで、進級した喜びにつなげていく。

〈家庭との連携〉

- ・進級、入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、幼児も保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。
- ・幼児が自分で身の回りのことができるように、扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。

(2) 3歳児 Ⅱ期 (6月から9月上旬)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境や様々な活動に興味や関心をもち、関わって遊ぼうとする。 ・同じ場にいる友達と一緒にいたい友達に親しみを感じ、関わることを楽しむ。 ・身の回りのことや自分でできることを行おうとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や園庭の虫や草花など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を使ったり、友達の言葉を聞いたりする。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるいろいろな素材に関わり、感触を味わう、見立てる、作るなどして遊ぶ。 ・ままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 ・歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。【事例5】
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして、楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で、保育者や友達に伝えようとする。 ・友達と関わって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。 ・砂や水などで遊び、開放感を味わう。【事例6】
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や友達との関わりの中で、よいことと悪いことに気付く。 ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・汚れたりぬれたりしたら気持ちが悪く感じ、自分で着替えようとする。 ・食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることを自分でやってみる。【事例7】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけてっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。【事例8】 ・みんなと一緒に体を動かす楽しさや、戸外で遊ぶ心地よさを感じる。

〈指導例〉

☆学びの芽生え「こんなことできる？」【事例5】

☆人との関わり「泥んこ遊びを楽しもう！」【事例6】

☆生活習慣「ドキドキ 一人で準備！」【事例7】

☆運動「誰が最初に取れるかな〜？」【事例8】

〈援助のポイント〉

- ・友達への関心が出てくる時期なので、友達と一緒に動く楽しさが感じられるような活動を取り入れていく。
- ・砂や泥、水などと関わり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを十分に出せるようにしていく。
- ・9月は、長期休業明けで生活のリズムが年度初めの頃に戻ることが予想される。保育者との関わりの中で個人差に配慮した援助を行い、園生活のリズムが取り戻せるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・保護者が保育に参加する機会をつくり、体験を通して子どもの姿を知ったり、保護者同士の関わりを深めたりして、園の保育・教育に関心をもてるようにする。
- ・排便後の始末（トイレトペーパーの使い方や拭き方など）について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。

(3) 3歳児 Ⅲ期 (9月中旬から10月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする。 ・友達と一緒に遊ぶ中で約束やきまりがあることを知る。 ・伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを繰り返す。 ・砂や水を使って遊び、感触を楽しむ。 ・自然物(木の葉や木の実など)に興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したこと、感じたこと、思ったことなどを保育者に話そうとする。 ・生活の中で必要な言葉が分かり、使ってみる。 ・リズムのある言葉を喜んだり、一緒に言ったりする。 ・絵本や紙芝居を楽しみにする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を使って描いたり作ったりして、表現する楽しさを感じる。【事例9】 ・自分で作った物を使って遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場にいる友達や保育者に関わって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったり一緒に動いたりして楽しむ。 ・園のいろいろな行事に参加して楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことをしながら、安心して遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分から関わっていく。 ・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとしたり、相手の思いを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。【事例10】 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなどの手順が分かり、自分でしようとする。 ・保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。【事例11】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具を使う、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。【事例12】 ・保育者や友達と曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねたりする。【事例12】

〈指導例〉

☆学びの芽生え「紙皿が大変身」【事例9】

☆人との関わり「果物持ってお引越し」【事例10】

☆生活習慣「お片付け選手権スタート!」【事例11】 ☆運動「一緒に踊ると楽しいね」【事例12】

〈援助のポイント〉

- ・身の回りのことを自分からしようとする姿を見守り、認めたり誉めたりすることで自信をもたせていく。
- ・運動遊びやリズム遊びを通して、保育者も子どもと一緒に体を動かしながら、その楽しさを伝えていく。また、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、活動内容を一人ひとりの子どもの状態を見ながら工夫していく。

〈家庭との連携〉

- ・運動会などの取組や参加の仕方は個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。また、他学年の子どもの様子も見てもらい、成長への期待や見通しをもって、3歳児の成長の様子を理解してもらおうようにする。

(4) 3歳児 IV期 (11月から12月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びをしたり、面白そうなことをしている友達と関わったりしながら、遊ぶ楽しさを感じる。 みんなと一緒に活動する中で、保育者や周りの友達の動きを見ながら、自分なりに動く楽しさを感じる。 園生活に必要なことを感じ取りながら、自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。 身近なものの色、形、多い、少ないなどの違いに気付く。 好きなものになりきったり見立てたりして遊ぶ中で、感じたり考えたりしながら自分のイメージを表現して、楽しむ。 落ち葉や木の実、球根など自然物への関心をもち、気付いたり見立てて遊んだりする。 <p style="text-align: right;">【事例13】</p>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びやおしゃべりの中でやり取りを楽しみながら、生活に必要な言葉を増やしていく。 好きな絵本や紙芝居ができ、何度も読んでもらったり、見たりして楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。 自分なりのイメージをもって、描くことや作ることを楽しむ。 絵本や紙芝居を見て、好きな言葉を言ったりなりきって表現したりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しんでいます。 友達と同じことがしたい、という気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 行事を通して異年齢の子どもと触れ合い、楽しさを感じたり、年長児に対する憧れを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。【事例14】 遊びの中で遊具の安全な使い方や動きに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする。【事例15】 箸の持ち方を知り、箸を使って食事をしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 走る、踊る、鬼ごっこをするなどみんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。【事例16】 音楽に合わせてリズム遊びやボールを蹴る、ブランコに乗るなど、遊具を使った運動遊びを楽しむ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「手のひらにどんぐりを♪」【事例13】 ☆人との関わり「氷おにする人この指とまれ♪」【事例14】
 ☆生活習慣「見て、きれいになったよ」【事例15】 ☆運動「思いっきり走るぞ!!」【事例16】

〈援助のポイント〉

- 自分のイメージや見立て、言葉や動き、造形遊びなどで伸び伸びと表現する喜びを大切にします。
- 一緒にいたい友達と関わられるようにコーナーや遊び場の配置に留意し、自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにします。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにします。

〈家庭との連携〉

- 園で楽しんでいる秋の自然に関わる遊びや、散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや写真の掲示などで知らせ、家庭でも自然に親しむとともに、親子の関わりを大切にします。

(5) 3歳児 V期 (1月から3月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを出しながら好きな遊びを十分に楽しむ。 ・保育者やクラスの友達と一緒にリズム遊びや表現遊びを楽しむ。 ・園生活に必要なことが分かり、できることを自分からしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・風の冷たさや息の白さなど、冬の自然の変化を見たり、触れたりして体で感じる。 ・花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な言葉が分かり、自分なりに使おうとする。 ・思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。 ・保育者や友達と、簡単ななぞなぞや反対言葉などを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある素材や材料（広告紙、小さく切った紙、小箱、カップなど）を自分なりに選び、作ることを楽しむ。 ・リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。 ・絵本やお話のイメージを楽しみ、なりたいたいものになったり動いたりするなど、自分なりの表現を楽しむ。【事例17】
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分も関わりながら遊ぶ。【事例18】 ・一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。【事例18】 ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や安全に必要な簡単なきまりが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物の整理や遊びの片付けなど自分のことは自分でしようとする。 ・身の回りで必要なことを自分からしたり、できるようになったことを喜んだりする。【事例19】 ・やけどに気を付ける、戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。【事例19】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒くても戸外に出て、保育者やみんなと一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。【事例20】 ・散歩を通して、坂道や歩きにくい所もしっかりと最後まで歩く。 ・戸外で遊んだり固定遊具や巧技台を使って遊んだりすることを通して、いろいろな体の動きを楽しむ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「ねえ先生 お話ししよ！」【事例17】 ☆人との関わり「ようこそ、私達のお家へ」【事例18】
 ☆生活習慣「できるようになったよ！」【事例19】 ☆運動「体を動かすと温かいね」【事例20】

〈援助のポイント〉

- ・友達との遊びを楽しんでいることを十分に受け止め、共感する。
- ・子どもが自分から気付いてやってみようとする姿やできるようになったことを認めて、進級する気持ちへつなげていく。

〈家庭との連携〉

- ・子どもの1年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。
- ・個人差が大きく進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらおうようにする。

(6) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児I期（4月から5月）「学びの芽生え」【事例1】

びりびり ぐしゃぐしゃ ねじねじ

1 遊びのねらい

○身の回りにある物や遊具に関わり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<手先の遊びを楽しむ>

- ・新聞紙を、ちぎる、ねじる、丸めるなどして素材そのものを使って遊ぶ。
- ・新聞紙を何かに見立てて遊ぶ。
- ・遊んだ新聞紙を片付けるために、丸めてできたボールでさらに遊ぶ。（玉入れ、サッカーなど）



・何を作ろうか考えている様子



・雨や傘に見立てて遊んでいる様子



・全員で長くつなげて遊んでいる様子



・大きなボールにしてサッカーを楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・作る場所と作った物で遊ぶことができる場所をそれぞれ設定する。
- ・保育者から「○○を作ろう。」などとは言わず、子どもからの発想を待つ。作り始めたら「これは何を作っているの?」「○○を作っているのね。」などと子どもの思いを受け止め、さらにイメージを膨らませるために一緒に考える。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室、ホール、園庭

②用具・遊具

- ・新聞紙、セロハンテープ、ゴミ袋など

4 安全上の配慮

- 新聞紙の上は滑りやすく、転ぶことが予想されるため、遊びを始める前に新聞紙を踏まないように足元に注意をするように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 新聞紙を、いろいろな形に変化させたり見立てたりして楽しむ姿を見ることができた。
- 指先を使ってちぎる・引っ張るなど、微細な運動を十分に行っていた。
- 友達と思いを共有したり、自分の考えや思いを伝えたりしている姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 進級や入園による喜びや不安を受け止め、子どもたちの遊んでいる様子を保育室の入り口や壁に写真を用いて具体的に掲示し、遊びの中で子ども一人ひとりがどのような姿だったのかを具体的に口頭で知らせ、保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。
- 保護者会やおたよりなどで、遊びを通して子どもがいろいろなものを見立てたり工夫して遊んだりした様子について、子どもから話を聞いて褒めてもらうことで自信となり自己肯定感が育まれることを伝え実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅰ期（4月から5月）「人との関わり」【事例2】

まて！まて！ねずみ

1 遊びのねらい

○保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者と一緒に、安心して遊ぶ＞

- ・保育者が腰の後ろ側に、しっぽになるような物（ひも、ポリエチレンテープなど）を付けて逃げ、そのしっぽを子どもが走りながら取る。
- ・保育者と触れ合って、楽しく走る。
- ・慣れてきたら、子どもがしっぽを付けてネズミになって逃げる。



・保育者のしっぽを狙って追いかけている様子

援助のポイント

- ・「先生のおしりにしっぽが生えてきた。チューチュー。」などと、ネズミのまねをして子どもたちの興味をひく。
- ・「みんなはネコになって、先生のネズミのしっぽを取ってね。」などと、子どもたちが分かるように、ルールを知らせる。
- ・しっぽを付ける位置は、腰の後ろだけでなく、子どもたちが取りやすいように体の横に付けたり、複数本付けたりなどの、様々な工夫をする。
- ・しっぽを取ることができた子どもには、「しっぽを取ることができてよかったね。」などと、頑張った姿を認める。また、しっぽを取られた子どもには、「悔しいね 次は取られないように頑張ろう。」などの声を掛け、悔しい気持ちに共感し、次への意欲につなげる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭（公園やホールでも可）

②用具・遊具

- ・しっぽになるもの（編み紐、ポリエチレンテープなど）

4 安全上の配慮

○靴を正しく履いていないと転ぶことが予想されるため、始める前に子どもと一緒に確認する。

○保育者を目指して、子ども同士が衝突することが予想されるため、大勢の時は、複数の保育者がネズミ役になり、分散して遊ぶ。

5 遊びを通して育まれた姿

○普段、追いかっこに参加しない子どもが、しっぽを付けることで興味をもち、主体的に参加し、楽しむ様子が見られた。

○保育者と一緒に遊ぶ楽しさが、子どもたちの安心感につながった。

○しっぽがなくても、保育者が走り出すと追いかけて遊ぶ姿を見ることができるようになった。

6 家庭との連携

○進級児は徐々に慣れて新しい環境に慣れて楽しく過ごすことができるように、新入児は自分の居場所を見つけて安定できるように、保育者や友達と一緒に触れ合いながら安心して遊んでいる様子を伝え、保護者も安心できるようにする。

○たくさん走るようになるため、足のサイズに合った靴を用意してもらえるように口頭や連絡帳で伝える。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅰ期（4月から5月）「生活習慣」【事例3】

僕たち 私たちの1日

1 活動のねらい

- 3歳児の1日の生活の流れを知る。
- 所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。

2 活動・援助のポイント

活動

<一日の生活の流れを知る>

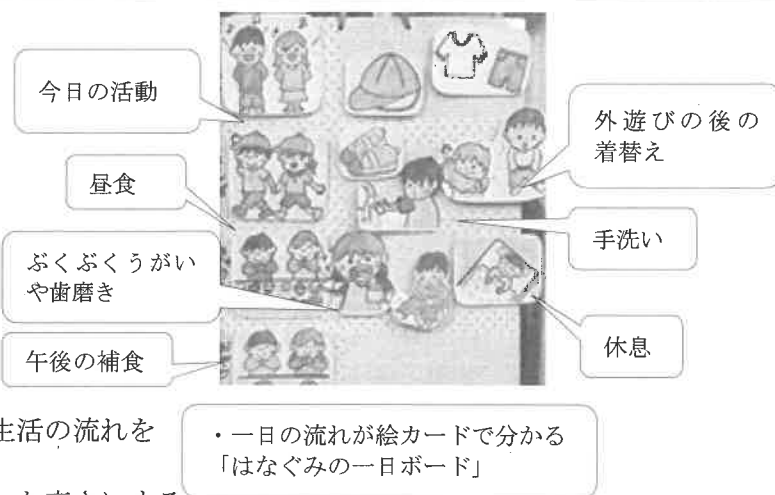
- ・「はなぐみの一日」ボードを見て、一日の流れを知る。

<できることは自分なりにやってみる>

- ・外遊びから帰ってきた際に、身の回りの支度をどうすればよいか確認し、自分でできることをやってみる。

援助のポイント

- ・期待感をもって過ごすことができるよう、生活の流れを事前に知らせる。
- ・ボードを設置する場所は子どもの目線に合った高さにする。
- ・活動の流れを絵カードにして表の中に入れ、子どもたちと確認する。
- ・「上履きを履いた後は、何をやるのかな？」などの、具体的な言葉掛けによって、子どもたちが考えながら、すすんで楽しく取り組めるように工夫する。
- ・自分で身支度をしようとする姿を褒め、できた満足感が自己肯定感につながるようにする。



3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・所持品の始末がしやすい保育室の構成

4 安全上の配慮

- ロッカー前が混雑すると、思いがけないけんかや、けがにつながる可能性があるため、全員が一斉に着替えるのではなく、少人数で行うことができるようにグループごとに声を掛けるようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 時々ボードを確認して、安心する姿を見ることができた。
- 楽しみながら一日の流れを知り、生活している様子を見ることができた。
- これまで、身支度がなかなか進まない子どもが、「上履きが履けたよ。」「ズボンが履けないから手伝って。」「次は何？」などと、保育者に伝えてくるようになり、自分で身の回りのことを行おうとする気持ちが増えてきた。

6 家庭との連携

- 自分で身の回りのことができるように、子どもの体格に合ったサイズや着脱しやすいデザインの衣類、足のサイズに合った靴などを用意してもらうように、口頭や連絡帳で伝え用意してもらう。
- 取り組む姿やできるようになったことを口頭や連絡帳、おたよりなどで保護者に伝え、成長している姿を共感するとともに、子どもの頑張りを認め褒めてもらい自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅰ期（4月から5月）「運動」【事例4】

いろいろな物に 変身！

1 遊びのねらい

○保育者と一緒に戸外に出て遊ぶことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者と一緒に身体を動かして遊ぶことを楽しむ＞

- ・円の周りを歩く。（円は活動のエリアの目印にする。）
- ・保育者が提案する様々なもの（ウサギ、カエル、クマ、怪獣、飛行機）になって歩く。
- ・丸の中を家に見立てて、ごっこ遊びを楽しむ。



・動物になって歩いている様子

援助のポイント

- ・変身するものは、子どもが想像しやすいよう、身近に感じる物絵本の中に出てくる物などから提案する。
- ・初めのうちは保育者が動いて見せ、徐々に子どもから出た自由な表現を認め、「みんなでやってみよう。」と誘い掛けて遊びを展開する。
- ・上手に表現している子どもには、「上手だね。ウサギみたいだね。」などとみんなの前で褒めて自信につなげるとともに、表現が苦手な子どもにとって表現の参考になるようにする。
- ・さらにごっこ遊びに発展させるときは、「クマになってお散歩に行こう。」などと、イメージが膨らむような具体的な言葉で誘い掛ける。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭（芝生）

②用具・遊具

- ・円のエリアを示すチェーンなど

4 安全上の配慮

- 子どもたち同士がぶつかったり、転んだりすることが予想されるため、友達と少し離れて動くよう伝える。また、遊ぶ人数に合わせて、適当な円の大きさを設定する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 開放的な戸外で、保育者と一緒に遊ぶことを楽しむ姿を見ることができた。
- 子どもから「次は怪獣。」「次はクマね。」などと表現したいものを催促し、体を動かして遊ぶことを楽しんでいた。
- 動物や乗り物などの鳴き声や動きについては、子どもの自由な発想をたくさん見ることができた。
- ごっこ遊びでは、自分の思いや感じたことを言葉で表し、保育者や友達に伝えようとする姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 保育室の入り口や廊下の壁などの保護者が見やすい場所に、子どもたちが遊んでいる様子を写真や掲示物で見せたり、保育者が温かい態度で子ども一人ひとりに接していることを伝えたりして、保護者が安心して子どもを預けることができるようにし、信頼関係を深める。
- 子どもがイメージして表現した動きを家庭でも保護者に見てもらおうようにお迎えの際などに口頭で伝え、褒めてもらうことで子どもの自己肯定感につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「学びの芽生え」【事例5】

こんなことできる？

1 遊びのねらい

○歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<リズム遊び、表現遊びを楽しむ>

- ・保育者と一緒に「こんなこと、こんなこと、できるかな？」と手拍子して、保育者のしぐさをまねる。
- ・子どもの中からリーダーを指名し、その子どものしぐさをまねる。
- ・難しいまねに成功できた子どもは、皆の前でやってもらいみんなに見てもらおう。



・保育者のしぐさをまねる様子
(おじょうさんこんにちは)



・子どものしぐさを
まねる様子



・みんなの前でしぐさ
を見せている様子

援助のポイント

- ・最初は、簡単なしぐさ（両手を上げる、手を叩くなど）から行う。
- ・狭い場所で実施する場合は、手拍子の数やリズムの変化で行うしぐさで遊ぶ。
- ・「○○ちゃんかっこいいね。」「これができるの？すごいね。」などと、子どもが認められて表現することが喜びにつながるような言葉を掛ける。
- ・慣れてきたら、わらべうた遊びやお手玉を使う遊びなどを行い、内容を変化させながら表現遊びを楽しむ。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内、屋外

②用具・遊具

- ・特になし
- ・応用編はお手玉、けん玉、フラフープなど

4 安全上の配慮

○狭いスペースで動くしぐさをまねるようにすると、手や足などがまわりとぶつかってけがをすることが予想されるため、スペースとまねるしぐさが適当か判断して行う。

5 遊びを通して育まれた姿

- 人のしぐさのまねをする遊びを通して、リズム感や表現力を育み、やってみようという意欲や見てほしいという思いが育まれた。
- 保育者及びリーダーの動きや音を、しっかり見て聴いてまねることを通して、集中力が身に付いた。

6 家庭との連携

○具体的な表現遊びのやり方を、お迎えの際に口頭で伝えたり実際にやって見せたりすることで、この遊びを通して、動きや音をしっかり聴いてまねるという集中力が育まれることを伝え、家庭でも親子で楽しく遊んでもらう。また、難しいまねをすることに成功できたら保護者にも褒めてもらうことで、子どもの自信となりいろいろな遊びへの意欲につながることを知らせ実践してもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「人との関わり」【事例6】

泥んこ遊びを楽しもう！

1 遊びのねらい

○砂や水などで遊び、開放感を味わう。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜砂や水などで遊び、開放感を味わう＞

- ・裸足になって園庭に出て、砂や水や泥の感触を足の裏で楽しむ。
- ・用意された水場から、自分の選んだ遊具を使って、自由に水を汲んで遊ぶ。
- ・水や泥を使って、川作り、泥団子作り、ままごと遊びなどを楽しむ。
- ・遊びの最後に、保育者と一緒にバケツや桶の中の水で、使った玩具を洗う。



・好きな入れ物に、自由に水を汲んでいる様子



・川を作って遊ぶ様子



・足にも泥を塗って感触を味わっている様子



・保育者と一緒に玩具を洗っている様子

援助のポイント

- ・泥遊びをする範囲をタイヤで囲み、他の遊びとは分けて集中できる環境を設定する。
- ・泥遊びが苦手な子どもは、保育者と一緒に少しずつ経験して、徐々に楽しさを味わうようにする。
- ・子どもならではの水や泥の感触に気付いた様子が見られたときは、「そうだね、〇〇みたいだね」などと共感したり、「こんなこともできるかな？」などと様々な遊びが経験できるよう声を掛けたりする。
- ・遊んだ後は全身が汚れることが予想されるため、事前にシャワーの準備をしてから遊ぶようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭

②用具・遊具

- ・たらい、バケツ、砂場玩具、タイヤ、板

4 安全上の配慮

- 園庭に石や尖ったものが落ちていたり踏んでけがをすることが予想されるため、事前に拾い、安全な環境を整える。
- 泥で滑って転倒することが予測されるため、走らないように事前に絵などを準備して子どもに見せながら伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 裸足で水や泥の感触を楽しみ、開放感を味わっていた。
- 保育者が「お掃除ごっこみたいだね。」などと声を掛けたことで、子どもたちは泥だらけになった玩具を綺麗に洗い片付ける気持ちよさを経験した。子どもたちからは、「見て、ピカピカになったよ。」などの言葉が聞かれた。

6 家庭との連携

- 泥んこ遊びをすることをあらかじめ保護者に伝え、汚れてもよい服を用意してもらう。
- この時期ならではの水や泥んこの遊びによって、子どもたちに開放感や満足感が育まれたことを伝え、成長を共感するとともに、家庭でも開放感を味わえるような遊びを一緒に楽しむ機会をつくってもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「生活習慣」【事例7】

ドキドキ 一人で準備！

1 活動のねらい

○食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることを自分でやってみる。

2 活動・援助のポイント

活動

＜自分でできることをやってみる＞

- ・自分が食べる机を拭いたり、口を拭くタオルを用意したり、ご飯やおかずなど(汁物以外)の配膳をやってみる。



・皿の並べ方を確認できる配膳表



・配膳表を見ながらお皿を置いている様子

援助のポイント

- ・配膳表は、皿の並べ方を確認しながら行うことができるように、配膳台の側に、子どもの目線に合った高さで掲示する。
- ・配膳している途中で、ご飯やおかずなどをこぼしてしまった場合は、「片手で持つとグラグラして難しかったね。」と共感した後で、「両方の手で持ってみたらどうかな？」と、子どもたちが考えながら取り組めるような言葉を掛けて、食器の持ち方を再度確認する。
- ・準備をする楽しさや喜び、できたという達成感を味わい自信につなげていくことができるように、「自分でできるかな。」「できたら嬉しいね。」などと適切な言葉を掛けながら見守り、できたときには褒めて認める。

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・保育室
- ②用具・構成
 - ・配膳や食事の準備がしやすい保育室の構成

4 安全上の配慮

- 大勢が一度に配膳すると、ぶつかってこぼしたり、けがをしたりすることが予想されるため、少人数(当番制)で配膳を行うようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 食事前の準備の流れを理解して自分からすすんで行う子どもや、子ども同士で声を掛け合う姿が増えた。
- 保育者の手伝いをすることや、当番が回ってくるのを楽しみにしている子どもが多く、「テーブル拭けたよ。」「これやっていい？」などと、食事の準備や配膳に興味をもち、意欲的に取り組む姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 保護者会などで、お手伝いをすることを通して子どもが成長していく姿を話題にし、家庭でも自分でできることを少しずつ増やしていくことができるように提案し実施してもらおう。
- 生活の流れを理解し取り組むことができていることを保護者に伝え、持ち物の準備の協力を求める。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「運動」【事例8】

誰が最初に取れるかな～？

1 遊びのねらい

○戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけて遊ぶをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者と一緒に体を動かし、戸外で遊ぶことを喜び>

しっぽ取り遊びの方法

- ①保育者のズボンに付けた新聞紙のしっぽを、子どもが追いかけて取る。
- ②子どもも新聞紙のしっぽを付け、逃げる側になる。（追いかけるのは、保育者や他の子ども。）
- ③新聞紙のしっぽを取ることに慣れてきたら、他の素材のしっぽ（タオルやリボンなど）に変えて遊んでみる。



新聞紙しっぽの作り方

- ・新聞紙を広げ、短い辺の方から丸め、最後に何回かねじって、形を整える。



- ・新聞紙で作ったしっぽを付けて追いかけて遊ぶを楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・追いかける子どもがしっぽを取る経験をたくさんできるように、多くの人数で行う。
- ・「どうしたらしっぽを取ることができるかな？」
「どうしたら取られないように逃げるができるかな？」などを考える場面を作り、子どもたちの考えを聞きながら、出た意見を試してみる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭（芝生）

②用具・遊具

- ・新聞紙（丸めてねじったもの）30本ほど
- ・タオル3枚（子どもの人数に応じて増やす）

4 安全上の配慮

- 一人の保育者に向けて、子どもたちが一斉に走り寄って来ると、子ども同士がぶつかることも予想されるため、事前に友達を押さないこと、ぶつからないようにすることを伝える。
- しっぽの奪い合いが予想されるため、取ったしっぽは保育者に戻すよう確認してから始める。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者だけが、タオルを付けている際は、「僕が最初に取り。」「私だよ。」と競争心が芽生えていた。
- しっぽとりの楽しい経験を通して、毎日「しっぽとりやろう！」と催促するようになった。
- けがをしないように、周りの物や他の子どもにぶつからないように注意して走る姿が見られた。
- 遊びながら自然と長い距離を走ることで、持久力が身に付いてきた。体を動かすことを楽しんでいる様子を見ることができた。

6 家庭との連携

- 保育参観で親子と一緒にしっぽ取りで遊び、体験を通して子どもの姿を知ったり、保護者同士の関わりを深めたりして、園での教育・保育に関心をもてるようにする。
- 毎月の子どもたちの中で流行している遊びなどをおたよりで発行したり、模造紙で壁新聞のように掲示したりして、保護者にどのような遊びをしているか具体的に分かるように知らせ、成長の喜びを共感したり、遊びの話題から親子のコミュニケーションを深めてもらったりする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「学びの芽生え」【事例9】

紙皿が大変身

1 遊びのねらい

- 身近な素材を使って描いたり作ったりして、表現する楽しさを感じる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜紙皿を使って好きなものを作る＞

- ・自分がやってみたくらいを自由に表現して、作品を作る。

作り方

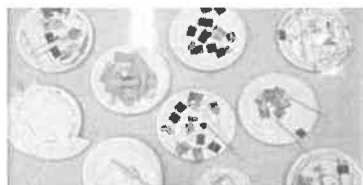
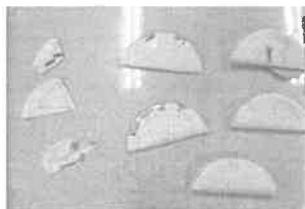
- ①紙皿に、様々な素材（色画用紙、ストロー、シールなど）をハサミで切って、セロハンテープやのりで貼る。
- ②サインペンやクレヨンなどで色を付ける。
- ③みんなでできた作品を見合う。



・色画用紙や紙皿を切っている様子



・のりやセロハンテープで切ったものを紙皿に貼っている様子



- ・「丸めると餃子の形みたい。」「カレーを作った。」「信号機だよ。」などと、様々な子どもたちがイメージを広げて作成した様々な作品

援助のポイント

- ・子どもの自由な発想や言葉を聞き、イメージを膨らませることができるように、「○○を作りたいのね。何色かな。」「どんな形をしているの？」などと、言葉を掛けて一緒に考えていく。
- ・子どもの作った作品を、「よく考えていたね。」「丁寧にのりを付けたね。」「思っていたものができたね。」などと、具体的に言葉を掛けて認め、表現することが楽しいと感じることができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・遊具

- ・紙皿、セロハンテープ、のり、シール、はさみ、ストローなど

4 安全上の配慮

- はさみは、間違った使い方をするとけがをすることが予想されるため、はさみで切るコーナーを単独で設定して、必ず保育者が側に付き、正しい持ち方や、使い方を知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者が材料を豊富に用意し、子どもが自由に使うことができるようにしたことで、次々と子どもたちのアイデアがあふれ、意欲的に制作を進めることができた。
- 多くの子どもが、30分ほど集中して自分の作品を作りあげていた。
- できた作品を飾ると、子ども同士で「これは○○だよ。」などと、表現したことを教え合ったり、「どうやって作ったの？」などと、表現の仕方について聞いたりする姿が見られた。

6 家庭との連携

- 身の回りにある様々な素材で、子どもたちが夢中になって表現することを楽しんだことを、作品掲示に説明書きをする。このことにより、作品の出来栄だけでなく、一人ひとりの子どもたちがイメージを形にしようとして取り組んだ過程を、保護者に肯定的に認めて受け止めて褒めてもらうことができ、子どもの自信につながり、自己肯定感が育まれることを知らせる。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「人との関わり」【事例10】

果物持って お引越し

1 遊びのねらい

○簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。

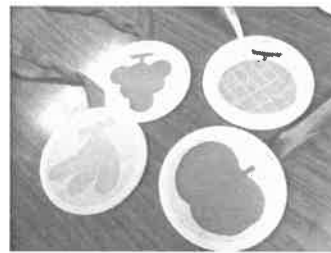
2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜フルーツバスケットを楽しむ＞

フルーツバスケットの遊び方

- ①子どもの人数分の椅子を丸く並べる。
- ②果物が描かれたカードを首に下げる。
- ③保育者が真ん中に立ち、カードの中の果物の名前を言う。（慣れてきたら子どもたちが言う。）
- ④言われた果物のカードを身に付けている子どもは、座っている椅子とは違う椅子へ移動する。
- ⑤「フルーツバスケット」と言ったときは、全員が違う椅子へと移動する。



・子どもが身近に感じる果物が描かれているカード



・ルールを理解して、急いで自分が座る椅子を探して座ろうとしている様子

援助のポイント

- ・子どもが身近に感じる果物を使って、カードを作成する。
- ・ルールが分かりやすいように、違う椅子に座ることを、「お引越しするよ。」と表現する。
- ・みんなで遊ぶことが楽しいと思えるように、遊びの中に保育者も加わり一緒に楽しむ。
- ・全員がルールを理解したと感じたら、ルールを少し変更して、遊びをより楽しくする。
 - ①椅子を1つ減らして、急いで座る。
 - ②座れなかった子どもが、次の果物の名前を言う。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・椅子、果物のカード

4 安全上の配慮

○狭いと、子どもが移動するときにぶつかってけがをすることが予想されるため、広い場所で、椅子を隣と近付けすぎず、空いている場所が分かるように配置する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 「ここの椅子が空いているよ。」などと、友達に教えてあげたり、「○○ちゃん、座れなくて残念。」「今度は早く座って。」などと、一緒に遊んでいる友達に声を掛けたりして、一緒に遊ぶ楽しさを感じている姿を見ることができた。
- 初めは、全員が座ることができるので安心していましたが、椅子が1つ減ることで、自分は座りたいという思いが増し、遊びの楽しさが広がった。

6 家庭との連携

- おたよりや掲示などで、子どもたちが簡単なルールのある遊びをみんなで楽しめるようになってきたことを保護者に伝え、様々な遊びの場面を通して約束やきまりがあることを知り守ろうとする姿が育まれていることを共感する。家庭でも簡単なルールを守って一緒に遊ぶ機会を作ってもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「生活習慣」【事例11】

お片付け選手権スタート！

1 活動のねらい

○保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜自分が使った遊具、用具をきれいに片付ける。＞

・使った遊具や用具を戻す場所や、片付けの仕方を知り、自ら片付ける。

片付けの仕方

- ①制作のときに出たごみは、各机の大きなごみ箱に入れる。
- ②セロハンテープやガムテープなどを使って、片付けるときは、同じ表示の場所にしまう。
- ③園庭の砂場で遊んだ遊具は、水とたわしで洗い、元の場所に片付ける。



・何を入れるのか分かるように表示を工夫している様子

援助のポイント

- ・身の回りのことを自分からしようとする姿を認めて、できたときには褒めて認め、自信をもたせる。
- ・自分が使った遊具や用具を、元の位置に片付けることで、次に使うとき、すぐに使えることや、整頓されていることが気持ちが良いことを知らせる。
- ・子どもたちが、自分で遊具や用具を片付けることができるように、写真や絵や平仮名などで表示をする。



・使った遊具を、水とたわしを使って泥を落とし、きれいにしてしている様子

3 環境の構成

①活動の場所

- ・室内、園庭

②用具・構成

- ・遊具や用具を入れるかごや箱
- ・遊具の表示

4 安全上の配慮

○片付けを早く終わらせることに夢中になり、乱暴に片付けたり、遊具を取り合ったりしてけがをすることが予想される。入れ物に優しく入れるように言葉で伝えたり、入れるところを実際にやって見せたりして、丁寧に片付けることが大切だということを知らせる。

5 活動を通して育まれた姿

- みんなで一緒に片付けようと選手権形式にしたことで競争心が生まれ、意欲的に片付けに参加する姿が見られた。
- 片付けが習慣化すると、子どもたちから「ごみを捨てるね。」「ここを洗うよ。」「お片付けの時間だよ。」などと声を掛け合う姿が見られた。

6 家庭との連携

- 園で行っている片付けの姿を、口頭やおたよりなどで知らせ、家庭でも片付けやお手伝いなどを率先してできるようにすることの大切さを伝える。
- 身の回りのことを自分でできるようになった成長の喜びや、片付けて整頓されることが気持ちよいくと感じることの大切さを伝え、率先して片付けができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「運動」【事例12】

一緒に踊ると楽しいね

1 遊びのねらい

- いろいろな遊具を使う、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 保育者や友達と曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねしたりする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<保育者や友達と体を動かすことを楽しむ>

- ・曲に合わせて体を動かす。
- ・保育者の動きをまねながら、伸び伸びと表現する。
- ・曲に合わせて、円や直線などの隊形に移動する。

子どもたちが好きな体操の曲

- ・「元気いちばんばん」「ディズニー体操」「エビカニックス」「地球をどンドン」などのテンポが速い曲や、動き（隊形）が途中で変わる曲



- ・保育者や友達と一緒に体操の曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねしている様子



- ・曲に合わせて、友達と手をつないで、円の形に隊形移動している様子

援助のポイント

- ・全身を使って体を動かすことができるように、様々な曲を用意する。
- ・初めて踊る曲は一緒に歌いながら体を動かし、少しずつ興味をもてるようにする。
- ・踊ってみたいという意欲につながるように、保育者も子どもたちと一緒に楽しく体を動かす。
- ・他のクラスの子どもたちに、踊っているところを見てもらう機会を作り、表現する喜びを味わったり、発表する楽しさを味わう事ができるようにする。
- ・「上手だね。」「楽しいね。」など体を動かす楽しさを言葉にして伝えていくことで、自信につながり、さらに伸び伸びと表現することができるようにする。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・CDデッキ、体操などのCD

4 安全上の配慮

- 踊っているときや隊形を移動した際に、他の子どもとぶつかり、けがにつながる事が予想されるため、一人ひとりのスペースを十分に確保できる場所で行う。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたち同士で自然と歌を歌ったり、一緒に体を動かしたりして、楽しむ姿を見ることができた。
- 運動会で保護者に表現する姿を披露し、保育者や保護者に褒められて満足している姿を見ることができた。
- 体操を通して身に付いた体の動かし方が、ゲーム遊びをする際にも活かされた。

6 家庭との連携

- 運動会で披露する取組として、子どもたちが少しずつ上達していく過程や、保護者に見てもらいたいという期待感が高まっている姿を、お迎えの際に口頭で保護者に伝えたり、連絡帳に記載したりして丁寧に伝え、子どもたちを励ましてもらう。
- 運動会などでの取組や参加の仕方には個人差があることを保護者に伝えて、その子どもなりの成長を感じて褒めてもらうことで、子どもが自信につなげ自己肯定感が育まれ、次の活動への意欲につながることを知らせる。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅳ期（11月から12月）「学びの芽生え」【事例13】

手のひらにどんぐりを♪

1 遊びのねらい

○落ち葉や木の実、球根など自然物への関心をもち、気付いたり見立てて遊んだりする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜散歩で落ち葉や木の実を拾い、作品作りを楽しむ＞

作品の作り方

- ①散歩で、落ち葉や木の実を拾い集める。
- ②紙粘土で手形を取る。
- ③落ち葉、木の実、種などを手形の上にボンドでつける。



・散歩で、落ち葉や木の実を集めている様子



・紙粘土に手形を付けている様子



・手形に落ち葉や木の実を付けている様子



・作品展に展示された作品の様子

援助のポイント

- ・散歩に行く前に、木の葉や木の実を拾いに行く目的を子どもたちに話し、秋の散歩を楽しむ。
- ・「こっちにいろいろな葉っぱが落ちているよ。」「木の実はどこかな?」「気が付いたら教えてね。」などの言葉を掛けて、子どもたちが様々な自然物に気付くようにする。
- ・子どもたちが拾い集めた自然物の名前を伝えたり、分からないものは子どもと一緒に調べたりする。
- ・「この実、〇〇ちゃんが拾っていたね。」「どれを付けようか?」「ケーキみたいだね。」などの作品作りが楽しくなるような言葉を掛け、作品のできあがり期待をもたせる。
- ・制作したものをみんなで見て、どんな思いで作ったかなどについて話す機会をもち共感する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・公園（散歩）、室内（制作）

②用具・遊具

- ・落ち葉や木の実、紙粘土

4 安全上の配慮

○落ち葉や木の実を集めるときに、夢中になって保育者の見えない場所に行ってしまうことが予想されるため、事前に探す範囲をみんなで確認し、保育者の位置は子どもの動きを見渡せる場所にして、範囲以上に行こうとする子どもに、「行き過ぎだよ。」などと声を掛けて注意喚起する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 自然物に興味をもち、名前を覚えたり種類の違いに気付いて図鑑などで調べたりする姿を見ることができた。
- 作品を作った後でも、自然物を集めたもので、見立てて遊ぶ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 作品展などを通じて、子どもたちがどのように自然物を見立てて作品を作成させたのか、作品とともにメッセージを掲示する。保護者は子どもから話を聞き、作品を褒めたり家で飾ってもらったりすることで、子どもは自信につながり自己肯定感が育まれることを伝える。
- 家庭でも自然に触れて遊ぶ機会をつくり、自然への関心を深めてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅳ期保育（11月から12月）「人との関わり」【事例14】

氷おにする人この指とまれ♪

1 遊びのねらい

○保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜氷おにを楽しむ＞

氷おにのルール

- ①氷おにをやりたい人を集めて、おにを決める。
- ②おににタッチされたら、腕を体に巻きつけて動かない。(氷になったポーズ)
- ③友達にタッチしてもらえばまた動くことができる。

- ・子ども同士で声をかけて、氷おにをやりたい人を集める。
- ・子ども同士でおにを決める。
- ・氷おにを楽しむ。



・「氷おにをやろう。」と、仲間を集めている様子



・おにを決めている様子

♪氷おにする人 この指とまれ
は～やくしないと きっちゃうぞ
まだまだきれない まだきれない
ろうそく1本 き～れた!

- ・誰かが歌と一緒に1本指を立てる
- ・一緒に遊びたい子は、歌の終わりまでにその指に集まる。

♪おに決め おに決め どの子がおにかな

- ・集まった子どもたちが片足を出して歌の言葉に合わせて足先を指差していく。
- ・最後に指の止まった子どもがおにになる。



- ・氷おにをみんなで楽しんでいる様子
- ・捕まった子どもは、氷になったポーズをして動かない様子

援助のポイント

- ・初めは保育者がおにになり、全員が参加してルールを覚えることができるようにする。
- ・集まった人数により、おにの人数や遊ぶ場所の広さの範囲を設定する。
- ・捕まって氷のポーズをしている子どもがいたら、「○○ちゃん氷になっているよ。」などと気付かせる。また、捕まった子どもにも、「助けてって言うと、みんなが気付いてくれるよ。」などと、知らせる。
- ・ルールに関してもめごとが起きた場合には、その都度遊びを止めてみんなで考える時間を設ける。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・公園、園庭
- ②用具・遊具
 - ・特になし

4 安全上の配慮

○おにから逃げるのに夢中になり、他の子どもにもぶつかってけがをすることが予想されるため、広いスペースを確保したり、周りの状況をよく見て走ることを伝えたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 逃げるだけのおにごっこではなく捕まった子どもを助けるというルールが面白くなり、意欲的に遊ぶ姿が見られた。
- 氷おにをやりたい友達を集めることやおにを決めるときに、友達との関わりややり取りを楽しむ姿が見られた。
- 集団で遊ぶ楽しさや、ルールを守って遊ぶことが大切だということを理解することができた。

6 家庭との連携

- 保育参観で保護者と一緒に氷おに遊び、子どもたちのやり取りなどを実際に見てもらい、子どもたちの主体的な遊びの様子を知らせ、成長を共感する。
- 家庭でも簡単なルールのある遊びを実践してもらい、人との関わりの中で子どもたちに規範意識が育まれるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児IV期（11月から12月）「生活習慣」【事例15】

見て、きれいになったよ

1 活動のねらい

- 手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

<手洗いの大切さを知る>

- ・ 紙芝居や絵カード、手洗い歌の絵の掲示などを見て、手の見えない汚れや正しい手の洗い方を知る。

<手をきれいに洗う>

- ・ 手洗い石鹸を付けて実際に手を洗ってみる。



- ・ 実際に手に泡石鹸を付けて、手洗い歌に合わせて正しい洗い方を行っている様子



- ・ 看護師から紙芝居や絵本を見て手の見えない汚れについて話を聞いている様子



- ・ 手洗い歌に合わせて、手の洗い方を分かりやすいように絵にした掲示の様子

援助のポイント

- ・ 目で見て分かるように、紙芝居や絵カード、掲示などを使って話すことで、手の見えない汚れについて具体的に伝え、子どもたちが手を洗うことの大切さが理解できるようにする。
- ・ 自分ですすんで手洗いをを行う姿を認め、きれいになった心地よさを共感し、継続した取組になるようにする。

3 環境の構成

①活動場所

- ・ 保育室、手洗い場

②用具・構成

- ・ 紙芝居、絵カード、手洗いハンドソープ、ビニールシート

4 安全上の配慮

- 水道が混雑すると思いがけないけんかが起こったり、押し合っけがをしったりすることが予想されるため、順番を守ることができるようにするために足元に並ぶための足型を貼って目印にしたり、「丁寧に洗っているから少し待ちましょう。」などと、声を掛けたりする。

5 活動を通して育まれた姿

- 手洗いを丁寧にを行うことの大切さを知ることによって自ら進んで手洗いに取り組み、「きれいになったよ。」などと保育者に伝えてくる姿が見られた。
- 子どもたち同士で手洗い歌を歌いながら、楽しんでいる姿を見ることができた。
- 健康な体について考える機会になり、手洗いでなくうがいなどを丁寧にを行う姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 園で取り組んだ手洗い指導の様子や手洗い歌を伝えて、家庭でも丁寧な手洗いに取り組んでもらい、風邪や感染症の予防に努めるよう伝える。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児Ⅳ期（11月から12月）「運動」【事例16】

思いっきり走るぞ！！

1 遊びのねらい

- 走る、踊る、鬼ごっこをするなど、みんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者と一緒に、思いっきり走る＞

- ・バナナ鬼のルールを知り、みんなと一緒に体を動かして遊ぶ。

バナナおにのルール

- ①保育者がおに役をやり、子どもたちが逃げる。
- ②おににタッチをされた子どもは、手を頭の上に上げ、手をくっつけてバナナに変身する。
- ③逃げている子どもは、バナナになっている子どもの手を下へ下げる。（バナナの皮むき）
- ④下げてもらった子どもは、また逃げるができる。



・思い切り走ってバナナ鬼を楽しんでいる様子



・バナナに変身した子どもの手を下げて助けようとしている様子

援助のポイント

- ・どの範囲が逃げてよい場所なのかをはっきりと伝えてから遊ぶ。
- ・慣れてきたら子どもたちと話し合いをしてルールのアレンジをする。

アレンジの例

- ①おにの役を複数にする。その際は、おに役の子どもの分かりやすいように帽子の色を変える。
- ②バナナの皮むきを片方ずつにして、2回タッチしないと逃げられない（1回のタッチで1つの皮がむける）。
- ③別の果物に変身する。（ミカン、リンゴなど）

- ・おにに捕まったときは、「動かないよ。カチコチバナナに変身よ。」などと、分かりやすい合言葉を使ってみる。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・園庭
- ②用具・遊具
 - ・なし

4 安全上の配慮

- 園庭を走る際には、他の子どもとぶつかることが予想されるため、前をよく見るように声を掛ける。
- ルールのものでけんかになることが予想されるため、その都度一旦止まって、どうすればいいのか確認する。

5 活動を通して育まれた姿

- 体操で行った活動（バナナの形になること）を遊びに取り入れたことにより、ルールも分かりやすくすぐに覚えて楽しむことができた。
- ルールのある遊びを覚えたことで、子どもたちが自分から「私は、おにね。」「僕は、逃げるね。」などと役割を決めて、意欲的に遊びをすすめる姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 園だよりやクラスのおたよりで、子どもたちがみんなと一緒に体を動かすことを楽しんでいる様子を紹介し、家庭でもすすんで体を動かして遊ぶことができるように共通理解する。
- 子どもたちがなぜその遊びが好きなのか、基本的なルール及び慣れてきたらルールを変えて工夫している様子なども知らせ、子どもたちが主体的に遊びを進める力を身に付けていることを伝え成長を共感し、その姿を褒めてもらうことで、子どもが自信をもち自己肯定感が育まれることを伝える。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児V期保育（1月から3月）「学びの芽生え」【事例17】

ねえ先生 お話ししよ！

1 遊びのねらい

○絵本やお話のイメージを楽しみ、なりたいものになったり動いたりするなど、自分なりの表現を楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜絵本から色々想像やなりきり遊びを楽しむ＞

・本を読んでもらいながら会話を楽しむ。

やり取りの例

保育者 「ゾウにお風呂のお湯を飲まれちゃう、ワシにご飯を食べられちゃう、ブタに服を着られちゃう、カバにベッドを取られちゃうとしたらどれがいい？」

子ども① 「ワシ。だってご飯を残したときに食べてもらうの。」

子ども② 「ブタ。小さくなった服をあげるの。」

事例の絵本「ねえ、どれがいい？」

出版：評論社 作者：ジョン・バーニンガム



やり取りの例

文字の無い絵だけの本。トンボを男の子が追いかけるが、なかなか捕まらない。最後は帽子などにたくさんのトンボが止まっている。

子ども（男の子役）「待て待て。」

保育者（トンボ役）「ここまでおいで。捕まるもんか。」

子ども 「は一疲れちゃった。」

保育者 「あれどうしたの。もっと遊ぼうよ。」

事例の絵本「おはなししよ！」

出版：小学館 作者：村上康成

援助のポイント

・落ち着いたコーナーを設定して少人数で読み、保育者とのやり取りを十分に楽しむことができるようにする。

・自分でストーリーを考えることが難しい子どもには、安心して自分のイメージを言葉で伝えることができるように、絵本の内容をその子どもが理解できる言葉に言い換えたり、子どもが発した言葉を受け止めたりしながら「○○するってことかな。」などと言葉掛けして援助し、想像したことを表現できるようにする。

・子どもに選んだ理由を聞き、「そうしたら△△になっちゃうかもね。」などと言葉を掛け、子どもが一層想像を膨らませて楽しむことができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・保育室

②用具・遊具

・絵本（イメージを膨らませやすい内容の本）

4 安全上の配慮

○他児に会話を遮られたり否定されたりすると子ども同士がけんかになることが予想されるため、少人数で落ち着いた環境の中でやり取りを楽しむとともに、友達が話をしているときは少し待つことや、自分が言われたら嫌なことは言わないことを事前に知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

○「もしも○○だったらどうする？」などと子どもたちがいろいろな場面で会話をし、友達と自由にイメージを広げて楽しむ姿を見ることができた。

○保育者や友達と話すことが楽しくなり、表現する言葉の数が増した。

6 家庭との連携

○おたよりや掲示物などで子どもたちが楽しんでいる絵本の紹介をして、園の貸出し絵本や図書館や本屋で選ぶときの参考にしてもらう。

○保護者と子どもとの会話の中で楽しい想像をしながらやり取りを楽しんでもらうことで、親子のコミュニケーションが深まり、保護者が子どもの成長を実感できるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児V期（1月から3月）「人との関わり」【事例18】

ようこそ、私達のお家へ

1 遊びのねらい

- 保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分も関わりながら遊ぶ。
- 自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜友達と一緒に家を作り、お家ごっこを楽しむ＞

- ・家をどのように作りたいのか、保育者や友達と会話をしながら作る。
- ・好きな場所に段ボールを置いて、囲ったり区切ったりつなげたりしながら家を作る。



・段ボールを養生テープでつなげている様子

実際に交わされたやり取りの様子

保育者「この部屋は何の部屋なの？」
子どもA「トイレだよ。でもトイレが無い。」
保育者「探しに行こうか。」
子どもB「(椅子を見つける)これにしよう。」
保育者「いいトイレを見つけたね。」



・家の中にいくつかの部屋を作っている様子

援助のポイント

- ・家を作るための段ボールを自由に取り出せるように準備する。
- ・保育者が主導するのではなく、子どものアイデアや言葉を待ち見守る。時々進捗具合を聞きながら、子どもが想像した形にできるように少しだけヒントを出したり一緒に材料を探したりして、子どもの思いが形になるように手助けをする。
- ・子どもたちの思いがぶつかり合った場合には、保育者が仲立ちとなりお互いの意見を聞いてどうすればいいのか考える場をつくる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・遊具

- ・段ボール、養生テープ、ままごと用具など

4 安全上の配慮

- 段ボールを持って移動する際に他児にぶつかったり、転んだりすることが予想されるため、広いスペースで行うとともに、慌てずに周りを見ながら移動するように伝える。
- 段ボールでできた家に寄り掛かると、倒れて中にいる子どもにぶつかることが予想されるため、寄り掛からないように伝えるとともに、倒れないように組み立てる方法を一緒に考える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 一緒に作っていた友達が自分のイメージと異なる家の作り方をしたときに、「どうしてそうするの。」と不満の声を挙げる子どももいたが、保育者が仲立ちし相手がどうしたいかを聞く場をつくったところ、「それならこうしよう。」などと新たなアイデアを考えて気持ちの折り合いを付け一緒に楽しむ姿が見られた。
- 家が完成すると、お父さん、お母さん、子ども、ネコ役など自分のやりたい役割を子ども同士で決めてままごと遊びを楽しんでいた。
- 「また一緒にお家作ろうよ。」などと、友達を誘って遊びだす子どもの姿を見ることができた。
- 家を作っていなかった子どもも、お客さん役として一緒に楽しむ姿が見られた。

6 家庭との連携

- 年度最後の保護者会などで、子どもたちが友達と関わって遊ぶ様子を保護者会などの場面で具体的な写真や映像を基に説明し、1年間の成長として伝え安心感につなげるとともに、もうすぐ4歳児クラスに進級し一層成長していくことを楽しみにできるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児V期（1月から3月）「生活習慣」【事例19】

できるようになったよ！

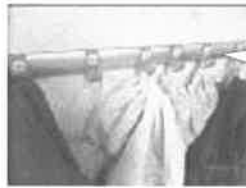
1 活動のねらい

- 身の回りで必要なことを自分からしたり、できるようになったことを喜んだりする。
- やけどに気を付ける、戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

- ＜身の回りのことを自分から進んで行う＞
- ・戸外遊びの準備や帰園後の片付けをする。



・上着や帽子がかかっているフックに各自のマークを付けて分かりやすく工夫している様子

戸外遊びをする前の準備

- ①トイレに行く。
- ②着替えを準備する。
- ③上着を着て帽子を被る。

戸外遊びから帰園後の片付け

- ①上着や帽子の片付けをする。
- ②トイレに行く。
- ③着替えをする。
- ④手洗いやうがいをする。



・戸外遊びの準備や帰ってきてから片付けをしている様子

援助のポイント

- ・複数のことを行う際は、①上着を掛ける②帽子をしまうなどと、端的に分かりやすい言葉で伝える。
- ・身の回りの準備するために必要なものは、子どもの目線の高さや手が届く場所に置く。
- ・自分からすすんで行う姿を十分に褒めて認めることで子どもたちの自信につなげる。

3 環境の構成

- ①活動場所
 - ・保育室
- ②用具・構成
 - ・各自のフックの印（マーク）

4 安全上の配慮

- 同じ場所で着替えを一斉に行うと子ども同士がぶつかってけがをしたり、トラブルにつながったりすることが予想されるため、保育者が順番にグループごとに声を掛けて混雑しないように配慮する。

5 活動を通して育まれた姿

- 友達が準備している様子を見て気付いたり、準備や片付けの順番を思い出しながらすすんで行ったりする姿を見ることができた。
- 「上着を掛けたよ。」「次は帽子だよね。」などと言いながら、身の回りの始末や生活の流れを理解して自分でできたことを喜ぶ姿や友達に教えてあげようとする姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 送迎時やおたよりで、一人ひとりの子どもがどのような姿で取り組んでいるのかを具体的に知らせ、家庭でも子どもたちが自分でできることに取り組む姿を励ましてもらう。
- 子どもたちが自分でやろうとする気持ちと実際にできることには個人差が大きく、進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、子どもの成長を見守ってもらうようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児V期（1月から3月）「運動」【事例20】

体を動かすと温かいね

1 遊びのねらい

○寒くても戸外に出て、保育者やみんなと一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。

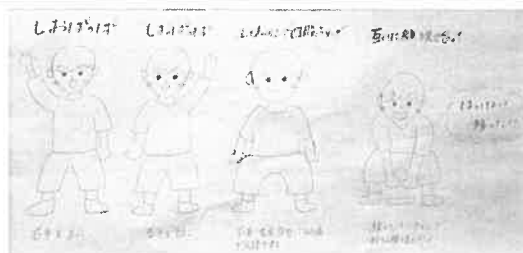
2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<お相撲ごっこで体を動かすことを楽しむ>

お相撲ごっこのルール

- ①「はっけよいのこった。」の合図で押し合う。
 - ②手を付いたり、倒れたりしたら負け。
 - ③マットから出たら負け。
 - ④顔は押さない。
- ※初めは、保育者と子どもが対戦する。
※慣れてきたら、子ども同士で対戦する。
※どちらの子どもが先に出たか、どちらの子どもが先に倒れたかなど、判定が難しいときは取直しをする。



お相撲の歌

しおぱっぱ しおぱっぱ 土俵の上四股踏んで
互い顔を見合わせて はっけよい のこった



- ・全員が子ども同士で相撲をすることに慣れたら、トーナメント戦をして楽しむ。

援助のポイント

- ・保育者同士が、実際に子どもの前でやって見せて分かりやすくルールを伝える。
- ・体のどの部分に力を入れるとよいのか、遊びを通して体の使い方を子どもと一緒に考える。
- ・ルール違反などでもめるような場面があれば、遊びを止めてみんなでどうすればよいのか考える時間を作る。

・保育者や友達と相撲を楽しんでいる様子

3 環境の構成

- ① 遊ぶ場所
 - ・保育室、園庭
- ② 用具・遊具
 - ・マット

4 安全上の配慮

- 取り組みの際には、引っ張る、叩くなどしてトラブルにつながる事が予想されるため、保育者は行司役になりすぐ側で見守りながら危険な行為は止める。

5 遊びを通して育まれた姿

- 相撲をする中で、押したり踏ん張ったりするときの手や足の使い方を工夫して勝負する姿を見ることができた。
- 寒い季節でも思い切り体を動かし遊ぶことで、「温かいね。」「汗かいた。」などと、体の変化に気付くことができた。
- 園庭の固定遊具や公園の遊具によじ登ったり踏ん張ったりして、力を入れる動作をするときに「よしよ。」と相撲ごっこを意識した掛け声をかけて取り組む子どもの様子を見ることができた。

6 家庭との連携

- 寒い時期は身支度を整えた後は、すすんで戸外に出て体を動かして遊び、体が温まるとともに適度に衣類を調節しながら過ごしていることをおたよりなどで知らせ、家庭でも実践してもらおう。
- 友達と簡単なルールを守って遊ぶことができるようになった成長を伝え共感するとともに、子どもを褒めてもらい自信につなげる。

4歳児 事例

(1) 4歳児 I期 (4月から5月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、保育者との関わりを基盤に、自分の思いを表しながら遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達や保育者と自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や周囲の子どもの動きに興味をもちやってみようとする。 ・自分から新しい環境に関わり、気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然の遊びの中に取り入れて遊ぶ。【事例1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が安定できる場や遊具で遊ぶことを楽しむ。 ・気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 ・保育者や仲のよい友達と挨拶をする。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な言葉があることに気付き、使ってみる。 ・自分の思ったことを言葉で表す。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、自分と同じような動きに関心をもったりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。 ・クラスのみんなと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。【事例2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみんなといることを楽しいと感じ、安心して過ごす。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ・困ったときなどに自分から保育者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に親しみをもち、安心して関わられる存在であることを感じる。 ・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に必要なきまりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達との関わりに必要な言葉があることを知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスでの生活の仕方を知る。 ・危険な物や場所を知り、安全に気を付ける。【事例3】 ・できることは自分なりにやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での過ごし方を知る。 ・危険な物や場所を知る。 ・できることは自分なりにやってみる。 ・園での食事の仕方を知り、楽しく食べる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳時に経験した遊びで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・友達や保育者の動きを見て、同じように体を動かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする。【事例4】 ・戸外に出て歩いたり走ったりしながら体を動かして遊ぶことを楽しいと感じる。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「自分だけの図鑑を作ろう!」【事例1】
- ☆生活習慣「よく見てごらん 考えてごらん」【事例3】
- ☆人との関わり「この歌なあ〜に?」【事例2】
- ☆運動「忍者になって遊ぼう」【事例4】

〈援助のポイント〉

- ・進級児はできるだけ自分で行動できるような分かりやすい環境を構成し、進級した喜びが味わえるようにする。新入児は、みんなで一緒に生活することを楽しめるようにする。
- ・それぞれの子どものペースを大切に、新しい環境に慣れていくようにする。
- ・新しい保育者や友達に親しみを感じられるような言葉を掛け、安心して過ごせるようにする。
- ・友達と同じ場で過ごしたり関わりをもったりできるように、遊びの場を設定したり遊具の数を十分に用意したりする。

〈家庭との連携〉

- ・進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子どもを支えていけるようにする。
- ・4歳児は友達との関わりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに努める。
- ・園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。

(2) 4歳児 Ⅱ期 (6月から9月上旬)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 ・気の合う友達と互いの思いを出して遊ぶことを楽しむ。 ・クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物に興味をもって、生長を楽しみにしたり収穫することを喜んだりする。 ・砂や泥、水などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・<新>保育者の仲立ちによって、思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。 ・自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。 ・絵本の読み聞かせを楽しんで聞く。 ・歌や絵本、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・<新>身近な素材を使って作ることや、作ったものを使って遊ぶことの楽しさを感じる。 ・身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。【事例5】 ・新しい素材や材料に興味をもって関わり、必要なものを使ったり作ったりして遊ぶ。【事例5】
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。【事例6】 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・<新>思い通りにならないことがあるときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。 ・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 ・友達の言葉の動きに気付き、自分なりに応じていく。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 ・集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 ・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・<新>園生活の流れが分かり、自分から動く。 ・天候に合った生活の仕方を知り、自分で行おうとする。 ・<新>園外に出たときの行動の仕方を知る。 ・夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられた嬉しさを感じる。【事例7】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。【事例8】 ・プール遊びを通して、水の中での動きを楽しみ、開放感を味わう。

※<新>は、新入児に特に配慮する内容を表す

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「これでつ〜くろう!」【事例5】 ☆人との関わり「ダンゴムシに変身!」【事例6】
 ☆生活習慣「ピーマンとナスっておいしいよ」【事例7】 ☆運動「私はここよ!みんなも踊ろう!」【事例8】

〈援助のポイント〉

- ・友達とのつながりができてくるので、思いを表したり伝えたりすることを楽しめるように、いろいろな友達の姿を伝えたり、思いが伝わり合うように言葉を補ったりしていく。
- ・いろいろな素材や用具に触れられる機会を設け、扱い方を知ったり遊びに取り入れたりしていく楽しさを味わえるようにする。
- ・プール遊びの約束、着替えや水着の始末の仕方などを分かりやすいように工夫して伝え、プール遊びに期待をもち、楽しく

〈家庭との連携〉

- ・遊びや友達同士の関わり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手への関わり方に気付いていけるように保育者が援助していることをクラスだよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携を図る。
- ・大人が先に指示をしたりせず、子どもが自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていきることが自信や意欲につながっていくことを知らせる。

(3) 4歳児 Ⅲ期 (9月中旬から10月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事に関わり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 友達との関わりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の変化に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりして楽しむ。 繰り返し遊ぶ中で自分なりのやり方を試したり工夫したりする。【事例9】 身の回りの物に触れたり使ったりして遊ぶ中で、物の性質(重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど)に気付く。【事例9】 運動会などの行事を通して、様々な国などの旗があることを知り、関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや友達との関わりの中で、自分の思いを動きや言葉で表していく。 保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、会話を楽しんだりしながらつながりを感じる。 気に入った絵本を保育者に読んでもらったり、自分で見たりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に伸び伸びと体を動かして踊ったり、自分なりの表現を楽しんだりする。 遊びや行事の中で、身に付ける物や使う物を作り、それを使って遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達との関わりを楽しむ。【事例10】 クラスのみなどと一緒にルールのある遊びをして、遊ぶ楽しさを味わう。【事例10】 友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。【事例10】
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。(かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など) 行事を通して様々な人(職員、他の保護者、地域の人など)と関わり、親しみをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 集団遊びやゲームを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 約束やルールを守ることでみんなが気持ちよく過ごせることを感じる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの物の始末や、使った物の片付けを自分でしようとする。 生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。【事例11】 安全に過ごすための約束やきまりが分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。【事例12】 用具や遊具の使い方に慣れ、組み合わせて場をつくって遊ぶ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「のびのび・くにゆくにゆ」【事例9】 ☆人との関わり「みんなで遊ぶから楽しい」【事例10】
 ☆生活習慣「歯磨き指導で歯をピカピカに!」【事例11】 ☆運動「よく見て進もう!」【事例12】

〈援助のポイント〉

- 子ども同士で思いがぶつかるときは、保育者が双方の思いをくみ取りながら相手の思いに気付けるように仲介していく。その後の手だてを一緒に考え、心を落ち着けたり気持ちを切り替えたりして遊べるようにする。
- 遊びの中で、いろいろな動きを試せるような用具を使ったり、子どもが興味をもっているイメージを取り入れたりして、自然に体を動かして遊ぶ気持ちが高まっていくようにする。

〈家庭との連携〉

- 日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子どもの姿に生きることを、懇談会やクラスだよりで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。
- 運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。

(4) 4歳児 IV期 (11月から12月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 季節による自然の変化に気付き、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達との会話を楽しむ。 絵本やお話などを喜んで見たり聞いたりして、イメージを広げる。 絵本や歌の中にある面白い言葉に気付き、喜んだり繰り返したりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 お話の中の人や動物などになりきって遊ぶ。 自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。【事例13】 思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。【事例13】
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。【事例14】 友達の動きに関心をもち、その動きに合わせてたり応じたりして動く楽しさを感じる。 簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きが関わり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。【事例14】
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。【事例14】 保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 友達と生活する中できまりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。 共同の遊具や用具を大切にし、貸し借りをして使ったり一緒に片付けたりする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがいの大切さが分かり、自分からすすんで行う。【事例15】 自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、すすんで取り組む。 必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に、鬼遊びやしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。【事例16】 いろいろな遊具や用具を使って、様々な動きを組み合わせる遊ぶ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「マイフォトフレーム」【事例13】 ☆人との関わり「おむすびころりん すっとなーん」【事例14】
 ☆生活習慣「バイバイ！ ばいばい！ あっちいけ〜！」【事例15】 ☆運動「しっぽを取られないように逃げよう」【事例16】

〈援助のポイント〉

- 友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなっていくので、友達との関わりの中で、相手の気持ちに気付くように、個々の思いを保育者が受け止めながら、言葉で相手に伝えていく。
- 遊びの中で「こうしたい」という子どもの思いを受け止め、イメージや目的に合うような素材や材料と一緒に見付けたり提示したりするなど保育者が積極的に支え、自分たちで遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。子どもが思い付いたことを自分で実現できたと思えるような援助の工夫をする。

〈家庭との連携〉

- 個人面談を設定し、日常生活での子どもの取組や友達との関わりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。

(5) 4歳児 V期 (1月から3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。
学びの芽生え	<p style="text-align: right;">思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然事象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 【事例17】 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字などに興味や関心をもつ。
	<p style="text-align: right;">言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 【事例17】 ・日常生活に必要な言葉が分かり、すすんで使ったり、自分から挨拶をしたりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。
	<p style="text-align: right;">創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と気持ちを合わせて歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 ・遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。
人との関わり	<p style="text-align: right;">協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 (1日入園での新入園児との関わり、お別れ会の計画、当番活動など) ・クラスのみんと一緒に活動する中で、満足感を感じたりクラスとしてのつながりを感じたりする。
	<p style="text-align: right;">信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児と交流したり、当番の引継ぎなどをしたりして、年長児の生活に期待をもつ。 【事例18】
	<p style="text-align: right;">規範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいことと悪いことに自分で気付き、自分なりに考えて行動する。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	<p style="text-align: right;">基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは、自分でする。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物をすすんで食べようとする。 【事例19】 ・気持ちよく食事をするために、挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の食文化を知る。
	<p style="text-align: right;">運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。 【事例20】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「寒い日を楽しもう！」【事例17】 ☆人との関わり「あこがれの当番活動」【事例18】
- ☆生活習慣「自分の体の中ってどうなっているの？」【事例19】 ☆運動「1、2のジャンプ！」【事例20】

〈援助のポイント〉

- ・自分でできたという自信がもてるように、個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて相談に乗ったり、方向性を示したりする。
- ・年長児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引継ぎをしたりする機会を設け、年長児になることへの期待をもたせていく。

〈家庭との連携〉

- ・1年間の子どもの成長を振り返り、保護者と共に喜び合う。
- ・子どもたちの進級に向けての活動の様子（お別れ会、新入園児との関わり、修了式への取組など）を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

(6) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児I期（4月から5月）「学びの芽生え」【事例1】

自分だけの図鑑を作ろう！

1 遊びのねらい

○花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

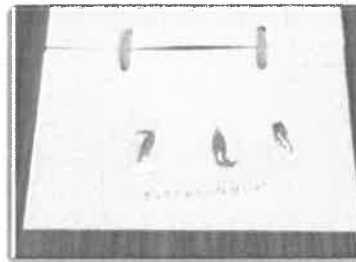
遊び方

＜散歩先や園庭で自然物に触れて遊ぶ＞

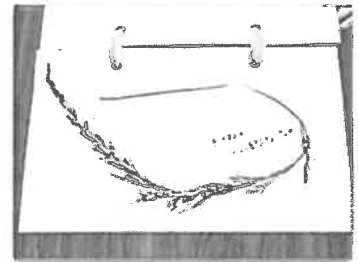
- ・散歩先や園庭で様々なものを見つけて、集める。
- ・集めたものをみんなで見せ合ったり、自分で感じたことを話し合ったりする。

＜集めた自然物を使って遊ぶ＞

- ・集めたものを保育者と一緒に紙に貼る。
- ・集めたものにどのようなイメージをもったのか、自由に表現する。
- ・紙の空いている部分に、絵や色を自由に加える。



・「餃子みたいな葉っぱ」
と表現したページ



・「狐のしっぽみたいな葉っぱ」と表現したページ

援助のポイント

- ・遊びの初めに、「おもしろい形の葉っぱや、見たこともない虫を探してみよう。」などと、具体的な言葉を掛け意欲につなげる。（虫などの生き物は、よく観察して元いた場所に戻すことを伝える。）
- ・集めたものを子どもたちと一緒に紙に貼りながら、子どもの抱いたイメージを聞きとりながら書き留めてきたものを、自分だけの図鑑と名前を付ける。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・散歩先、園庭

②用具・遊具

- ・ビニール袋、紙、のり、セロハンテープ、えんぴつ、ひも、消しゴムなど

4 安全上の配慮

- 先のとがった葉っぱや枝などで、けがをすることが予想されるため、触る時は慎重にすることや、振り回さないように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 身近な自然物を遊びに取り入れたことにより、自然物の様々な感触・香りなどの新たな発見につながり、自然物に対して興味が広がる姿を見ることができた。
- 集めた場所を聞いたり、教えてあげたりすることで子ども同士の言葉のやりとりが活発になった。
- 自然物の形を見たり触ったりする中で、それがどのような物に見えるか、想像力や表現力が豊かになった。
- 友達と一緒に集めて作る楽しさや、自分だけの図鑑ができあがる嬉しさを感じることができた。

6 家庭との連携

- お迎えの際や保護者会の中で子どもが自分で作った図鑑のことを話し、園の遊びの様子や子どもの成長を知る機会にする。
- 家庭で自分だけの図鑑について話題にしてもらい、「どうやって作ったの?」「なるほど。よく工夫したね。」などと質問したり褒めたりしてもらうことで、親子のコミュニケーションを深め子どもの自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児I期（4月から5月）「人との関わり」【事例2】

この歌なあ～に？

1 遊びのねらい

○クラスのみなどと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜好きなわらべ歌遊びを楽しむ＞



・おせんべやけたかなで遊ぶ様子

遊び方

- ①「どのおせんべが焼けたかな？」と歌いながら子どもたちの手を保育者が順番に指さす。
- ②歌が止まったときに指をさされていた手の子どもは、1回目は手を裏返す。2回目は焼けたおせんべいになったので、食べる



・なべなべそこぬけで遊ぶ様子

遊び方

- ①2人組で向かい合って両手をつなぐ。
- ②「なべなべそこぬけ。」と歌いながら手を揺らす。
- ③「底がぬけたらかえりましょ。」の歌詞の部分で手をつないだまま、背中合わせになるように2人が体をひねる。

援助のポイント

- ・4月は環境の変化に戸惑う子どもや、遊びのきっかけが必要な子どもを中心に誘い掛け、保育者も一緒に遊ぶ。やりたそうにしている子どもには、「〇〇ちゃんもやりたそうだね。」などと、周りの友達から誘うように声を掛けたり、保育者が直接誘い掛けたりする。
- ・遊びのルールの中で、同じ子どもの指名が続いたり、声の大きい子どもの意見が通ってしまったりすることが多いが、子どもの世界を大切に見守りつつ、様子を見ながらときにはどうすれば良いかをみんなで考える。



・はないちもんめで遊ぶ様子

遊び方

- ①集まった子どもの半分の人数に分かれて同じチームは手をつなぐ。
- ②2つのチームが向かい合って歌いながら前に行ったり後ろに行ったりしてやり取りする。
- ③最後にお互いのチームから味方になりたい子どもを指定する。
- ④名前を呼ばれた子ども同士がじゃんけんをして、負けた子どもは相手チームに入る。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・園庭、散歩先
- ②用具・遊具
 - ・特になし

4 安全上の配慮

- 手をつなぐわらべ歌遊びは、勢いを付け過ぎると転ぶことが予想されるため、どのくらいの力でやればよいかをみんなで確認してから始める。

5 遊びを通して育まれた姿

- 初めは、自分から遊びを見付けられない子どもを誘って遊び始めたところ、遊びを通して子ども同士の新たな関係が生まれた。
- 子ども同士が、遊びのやり方を伝え合ったり、新しい遊び方を考えたりして楽しむ姿を見ることができた。
- 特にはないちもんめは、前後の体の動きやスピードの加減、順番に手をつないでいくなど、回を重ねるうちにルールを体得していった。また、じゃんけんの勝ち負けが関わるので、「♪勝ってうれしい～♪負けてくやしい」の部分はその立場の気持ちになって表現していて、とても楽しく遊ぶ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- わらべうた遊びは家庭でも簡単にできる遊びなので、お迎えの際に遊び方を知らせたり、わらべ歌の歌詞やメロディを壁に掲示したりおたよりに掲載したりして保護者に知らせ、家庭でも子どもと楽しんでもらえるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児I期（4月から5月）「生活習慣」【事例3】

よく見てごらん 考えてごらん

1 活動のねらい

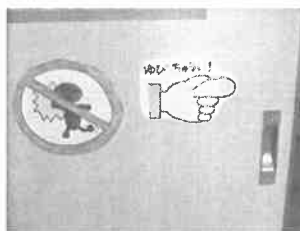
○危険な物や場所を知り、安全に気を付ける。

2 活動・援助のポイント

活動

<危険なことや場所を知る>

- ・保育室の中、園舎内、園庭を見て回る。
- ・自分たちが普段過ごしている部屋や園の中を見て、気付いたことを話し合う。
- ・約束を守って使う遊具を知る。（鉄棒、雲梯、ジャングルジム、滑り台、竹のぼりなど）



・ドアの開け閉めは指を挟まないように注意する
掲示

・鉄棒は、子どもだけでは遊ばないことを知らせる
掲示

援助のポイント

- ・「何が危ないかな?」「どうしたらいいかな?」などと、問いかけながら見て回る。大勢で見ると分かりづらい場所は、少人数で見て確認する。
- ・保育者が危険な場所を指し示すことで、全員の子どものに分かりやすくする。
- ・話し合っ中、いろいろな子どもが発言できるように声を掛ける。
- ・危険だと分かる掲示をつけて、子どもが見て気付くようにする。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・室内、園庭

②用具・構成

- ・危険だと分かる表示
- ・子どもに分かりやすい言葉と声の大きさ

4 安全上の配慮

○危険な場所を知らせることで、むしろ試してみたいことが予想されるため、知らせた後はに子どもの様子を見ながら、試すことが無いように声を掛けるなど、危険を回避する。

5 活動を通して育まれた姿

- 危険な場所を知ったり、自分たちはどうしたらよいかを想像したり考えたりしたことで、クラス全体で安全に気を付ける意識を共有することができた。
- 園内を回り確認することで、普段何気なく歩いている場所であっても、安全について意識するきっかけとなり、気を付けて過ごそうとする姿を見ることができた。
- 子ども同士で「そこは、危ないよ。」と声をかけたり、マークを見ながら「扉をそっと閉めないよね。」と意識したりする姿が見られた。

6 家庭との連携

- 進級にするにあたってクラスで行った話し合いの内容について、連絡帳や掲示物、クラスだよりなどで保護者に伝え、子どもが身に付けようとしている生活習慣を知らせ、園の取組について理解してもらう。
- 危険な物や場所について家庭内でも話題にしてもらい、安全に過ごすための約束作りをするきっかけにしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児I期（4月から5月）「運動」【事例4】

忍者になって遊ぼう

1 遊びのねらい

○友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<友達や保育者の動きをまねして楽しむ>

遊びの様子

- ①忍者体操で体をほぐす。
- ②新聞紙を体の後ろに持って走る。
- ③新聞紙を体の前面に当て、手で押さえずに走る。
- ④雑巾がけの動き方をする。
- ④小さくした新聞紙に手足を乗せ、四つ這いの姿勢で手足を動かし前に進む。（あめんぼうの動き）



・新聞紙を体の前面に当て走っている様



・あめんぼうの動き方の様子



・雑巾掛けの動き方の様子

援助のポイント

- ・手を伸ばす、おしりを上げる、視線を先に向けるなど動きの中で、どこに意識をして行えばよいか伝える。
- ・待っている子どもには、動いている子どもの姿をよく見るよう促す。
- ・「○○ちゃんの動き方は素敵だね。」など、丁寧に行っている子どもに言葉を掛け、喜びや意欲につなげる。
- ・少人数ずつ順番に行うので、子どもの待機する場所を確保する。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・室内、ホール
- ②用具・遊具
 - ・忍者体操のCD、新聞紙

4 安全上の配慮

- 動いている子どもが、座っている子どもの足につまづいて転ぶことが予想されるため、座っている子どもに、足を前に出さないよう言葉を掛ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 保育者や友達の動きを観察し、まねてやってみたり、自分なりのイメージをもち楽しんだりする様子を見ることができた。
- あめんぼうの動きが難しい子どもには、雑巾掛けの様な動きでたくさん遊んでから、もう一度試してみたところ、スムーズに動く姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 身近な素材（新聞紙）を利用して遊ぶことができることを、口頭やクラスだよりなどで保護者に伝え、家庭でも一緒に楽しむことができるようにする。
- 4歳児は友達との関わりが増えるので、子どもの友達関係などに保護者が不安を感じる場合がある。そのようなときは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを保護者会などで伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに努める。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅱ期(6月から9月上旬)「学びの芽生え」【事例5】

これでつ~くろう!

1 遊びのねらい

- 身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。
- 新しい素材や材料に興味をもって関わり、必要なものを使ったり作ったりして遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<様々な素材を使って、広い場所で自由に作ったり遊んだりする>

- ・空き箱や、トイレットペーパーの芯、ヨーグルトのカップ、段ボールなどを使って、自由に発想してごっこ遊びに使うテーブルやお店屋さんの売り物などを作って遊んだりする。



・二人で相談して遊んでいる様子



・上から部品を入れてみようとして試している様子



・どのように使うか、考えている様子

援助のポイント

- 導入では、一人ひとりが作りたいものをイメージしやすいように保育者が材料の紹介をしながら、みんなで何を作るか相談する時間を設定する。
- 友達と関わりながら作ることができるように、作ろうとする作業を具体的にイメージして、誰が何を作るのかを自分たちで決める。保育者は実際に作り上げるまでの経過を見守り、「いい考えだね。」「これはどうするの?」などと言葉を掛けながら、先の見通しを立てて進めることができるようにする。
- できあがったもので、さらにイメージを膨らませて遊べるように保育者が仲立ちをしたり、道具や材料の要求があった場合は、その道具や材料を用意したりする。
- 段ボールなどの硬い素材を切るなどの場面では、危険を察知したり回避したりする力を育むために、側で見守りながら子どもだけでできるのかについて一緒に考えたり見守る。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・広いスペース

②用具・遊具

- ・大きな布、段ボール、空き箱、ガムテープ、セロハンテープ、はさみ、ポリエチレンテープなど

4 安全上の配慮

- 様々な素材を切る場面では、けがをすることも予想されるため、子どもが切る素材と保育者が切る素材を見極める。子どもができると判断した素材であっても、子どもの動きに目を配り、危険を回避する。

○はさみの使用後は戻す場所を決め、自分で戻すように促す。

5 遊びを通して育まれた姿

- 初めは、1人や2人で材料を貼り付けたり、段ボールの中に入って材料の特性を確認したりする姿が見られた。材料で遊ぶうちに、偶然できたり、発見したりしたことで遊びが始まり、広がっていった。
- 友達と段ボールをつなげて遊んだり、5歳児がつなげた段ボールから家づくりに発展した。ドアの部分を作ると、イメージが膨らみ、子どもたちだけでどんどん作り進めていった。友達の意見を聞き「いいね!」とアイデアを取り入れて遊ぶ姿も見ることができた。
- いつも遊んでいる友達だけではなく、他の友達ともつながりが生まれていった。
- 一週間通して活動したことで、一つの作品を他の子どもが受け継いだり、違うものに変化させたりしながら、遊びがどんどん展開していき、広がりを見せた。そのため、子どもたちは作る楽しさを十分に味わっていた。

6 家庭との連携

- 保護者がお迎えの際に実際の作品や遊ぶ様子を見せ、その活動を通してどのような力が育まれているのか口頭やおたよりで伝え成長を共感するとともに、工夫した点などを保護者から褒めてもらい子どもたちの自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「人との関わり」【事例6】

ダンゴムシに変身！

1 遊びのねらい

○みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<ダンゴムシ鬼ごっこを楽しむ>

- ・みんなで、ダンゴムシ鬼ごっこのルールを確認する。
- ・遊ぶ人数によって鬼の人数を増やしたり、ダンゴムシ以外の様々な生き物になったりして遊ぶ。

ダンゴムシ鬼ごっこのルール

- ①鬼も逃げる人も、四つ這いで移動する。
- ②鬼にタッチされたらダンゴムシのように体を丸ませて固まる。



・ダンゴムシ鬼ごっこを楽しんでいる様子



・固まった仲間タッチして、助けている様子

援助のポイント

- ・ルールを理解しやすく伝え、鬼が誰なのか分かるように帽子を被るなどの工夫する。
- ・体を丸めることができない子どもには、保育者が実際に丸まって見せる。
- ・鬼をやりたくない子どもや、ルールを守らない子どもがいたときは、遊びを止めて、みんなでどうすればいいのかを考えるようにする。
- ・1回も捕まらずに逃げることができた子どもを「上手に逃げることができたね。」と褒めたり、「仲間が助けてくれてよかったね。」「鬼の人が速かったね。」など、一人ひとりの姿を認める言葉を掛けたりして、楽しかった思いを共有する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・ホール、室内

②用具・遊具

- ・特になし

4 安全上の配慮

- 逃げる場合は、狭い所などに入り込むと押されてけがをすることが予想されるため、広いスペースを用意し、思い切り体を動かせるようにする。
- 鬼が追いかけるときに、夢中になって友達に体ごとぶつかってしまうことが予想されるため、タッチの仕方はどうすればいいのかについて、ルールを確認するときに伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 友達と一緒に遊ぶことで、楽しかったという思いを共感し、友達に親しみを感じていた。
- みんなで「どうしたらいいかな？」と考えることによって、自発的に遊びをつくりあげていく力になった。
- 「こんな遊び方もできるよ。」などとイメージする力や、自分の言葉にして相手に伝える力が育まれた。
- 普段遊びの中であまり行わない四つ這い姿勢で遊ぶことで、体力向上につながった。

6 家庭との連携

- 子どもたちが、今どのような遊びに興味をもちどのように楽しんでいるか、また、その遊びからどのような力が育まれているのかなどを、お迎えの際やノート・おたよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守ったり励ましたりしてもらい子どもたちの自己肯定感につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「生活習慣」【事例7】

ピーマンとナスっておいしいよ

1 活動のねらい

○夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられた嬉しさを感じる。

2 活動・援助のポイント

活動

<ピーマンとナスを収穫して食べる>

- ・収穫したピーマンとナスを、調理室に持っていく。
- ・目の前で、収穫をした夏野菜を焼いて調理してもらうところを見学する。
- ・調理された夏野菜を、みんなで食べる楽しさや喜びを共有する。



・みんなで食べている様子



・ナスを収穫している様子



・ナスとピーマンを調理している様子

援助のポイント

- ・子どもと一緒に夏野菜の生長を確認し、収穫に適しているナスやピーマンを選んで、はさみで切る部分を保育者も側で確かめながら見守る。
- ・子どもが、夏野菜を調理室に運んで「野菜が採れました。」と報告する際には、事前に調理職員にも収穫した喜びを共感してもらえるように伝えておく。
- ・調理職員が子どもの目の前で調理した夏野菜を食べることで、苦手な夏野菜がある子どもにも食べようとする気持ちを高める機会とする。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・園庭（収穫）
- ・部屋（収穫した夏野菜を調理し喫食する）

②用具・構成

- ・ハサミ、ボール、ホットプレートなど

4 安全上の配慮

- はさみで収穫する場合、狭い場所で大勢が見学しようとするとうし合っ、けがをすることが予想されるため、少人数で落ち着いて行うよう伝える。
- ナスのヘタにはとげがあり、手に刺さることが予想されるため、実の方を持って収穫することを伝える。

5 活動を通して育まれた姿

- 「調理さんが焼いてくれたナスがおいしい。」「ピーマンが苦くない。」「私がお水をあげたナスは、おいしい。」など、収穫した夏野菜を食べて、嬉しさを感じている様子を見ることができた。
- 給食の献立のナスやピーマンは苦手と感じ、なかなか食べようとしていない子どももいるが、自分たちで育てた夏野菜を、その場で調理して食べる経験をしたことで、苦手な野菜を食べている様子も伺えた。

6 家庭との連携

- 活動の内容を写真で掲示し子どもの姿を具体的に知らせ、食べ終えた感想の言葉を伝えるなどにより、園での子どもの姿を知らせ、家庭でのコミュニケーションを深める機会にしよう。
- たくさん収穫できた野菜は、希望する家庭には持ち帰って調理をしてもらい、家族と一緒に食べる楽しさや喜びを感じ、食育の一環とする。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「運動」【事例8】

私はここよ！みんなも踊ろう！

1 遊びのねらい

○保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<全身でリズムを表現する>

表現遊びのやり方

- ①様々な曲（静かな曲、アップテンポの曲など）に合わせて体を動かす。
- ②知っている動物、海の生き物や植物などをイメージしながら動く。
- ③自分で好きな曲や動きを選んでみんなの前で表現する。



・誕生月をテーマにした、全員が主役になるダンス（曲名：12月のなかま）を楽しむ様子



・みんなの前で、自由な表現を見せている様子

援助のポイント

- ・初めは聞き覚えのある曲をかけ、歌も楽しみながら体を動かせるようにする。
- ・自分から踊れない子どもには、一緒に手をつないで動いたり、少しでも表現したときには、「その動き楽しいね。」などと言葉を掛けたりして、意欲につなげる。
- ・友達と同じ動きや、自分のイメージの動きをしたり、自由に表現したりする気持ちを大切にする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・保育室

②用具・遊具

・CDデッキ、CD曲、巧技台

4 安全上の配慮

○曲に合わせて、ばらばらに走り始めると互いにぶつかってしまうことが予想されるため、参加する人数に見合う広い場所で遊んだり、動く方向はある程度同じ向きにしたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたちは表現を褒められたことで満足そうにして、「今度は〇〇の曲やりたい。」などと催促するようになった。褒められたことで自信につながり、自己肯定感の芽生えが感じられた。
- 子ども一人ひとりの表現を認めることで、手や足の動きが少しずつ大きくなった。友達の動きを見て一緒にまねて楽しむ姿も見られた。
- 今までは表現遊びが苦手だった子どもからも、「もっとやりたい。」という声が聞かれ、元気よく踊っていた。

6 家庭との連携

- 子どもたちが自分から表現しようとしていた姿や表情などを、連絡帳に記入したりお迎えの際に口頭で知らせたりすることで、親子の会話につながるきっかけ作りとする。
- 自由な表現力を保護者にも認めてもらうことで、子どもの自信や次の活動への意欲につながっていくことを伝え、実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「学びの芽生え」【事例9】

のびのび・くにゅくにゅ

1 遊びのねらい

- 繰り返し遊ぶ中で自分なりのやり方を試したり工夫したりする。
- 身の回りの物に触れたり使ったりして遊ぶ中で、物の性質（重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど）に気付く。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<小麦粉粘土で遊ぶ>

小麦粉粘土の遊び方

- ①小麦粉の感触を楽しむ。
- ②水を入れた後の、手にくっつく感覚を味わい楽しむ。
- ③粘土に適したちょうどいい硬さを探りながら練る。
- ④できた小麦粉粘土に触って楽しんだり、いろいろな形を作ったりして遊ぶ。



- ・小麦粉粘土を手のひらで押しながら転がすと、長く伸びることに気が付き、何度も繰り返し楽しんでいる様子



- ・小麦粉の感触を確かめている様子



- ・小麦粉粘土の感触を確かめるために、伸ばしている様子



- ・渦巻きパンに見立てて、パン屋さんをしている様子

援助のポイント

- ・小麦粉アレルギーをもつ子どもがいる場合には、全員が別の素材（片栗粉、米粉など）で行う。
- ・小麦粉が、いつも遊んでいる砂や泥の感触とどのように違うか気付けるようにするために、「触ってみて、どんな感じがした？」などと子どもたちに聞き、子どもたちが感じた言葉（さらさら、つるつるなど。）を共感する。
- ・小麦粉に十分触れた後、「次はどうすればいいかな？」「水を入れたらどうなるかな？」などと言葉を掛ける。
- ・水は子どもが少しずつ入れることができるようにするために、小さな容器に入れて準備する。
- ・回を重ねて小麦粉粘土に慣れてきたら、食紅などで色を付けて、遊びを広げる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内、テラス

②用具・遊具

- ・小麦粉、ボール、水、カップ

4 安全上の配慮

- 食べ物に見立てて作っていると、誤って本当に口に入れてしまうことが予想されるため、すぐ側で見守りながら、「食べるまねをするだけだよ。」などと言葉を掛ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 小麦粉に水を入れると、サラサラからベタベタに感触が変化することに気付くことができた。
- なかなか思い通りの硬さにならず、どうしたらよいかと考え、水を入れたり粉を入れたりして、根気強く取り組む姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 小麦粉粘土は、家庭にある材料で作ることができるので、保育参観などで実際に保護者と子どもと一緒に小麦粉粘土を作る機会を作り体験してもらい、家庭でも親子で一緒に楽しむことができる遊びとして情報提供する。（参加できない家庭には、作り方を配布する。）このように保護者が参加する機会を増やししながら、園と保護者が共に子育てをする喜びを感じられるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「人との関わり」【事例10】

みんなで遊ぶから楽しい

1 遊びのねらい

- 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達との関わりを楽しむ。
- クラスのみなどと一緒にルールのある遊びをして、遊ぶ楽しさを味わう。
- 友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方 <ドロケイをする>

遊びのルール

- ①「ドロケイする人、集まって～！」と子どもたちが仲間を集め、ドロボウ役とケイサツ役に分かれる。
- ②ケイサツ役（追いかける）は、ドロボウ役（逃げる）を捕まえたら入っていてももらう陣地（ろうや）と守る役を決める。
- ③ドロボウ役の仲間がタッチしてくれたら陣地（ろうや）から逃げるができる。
- ④一定時間を決めて、ドロボウ役を全員捕まえられたらケイサツ役勝ち。ドロボウ役が一人でも残ったらドロボウ役勝ち。



・「誰かタッチして！」と捕まえた子どもたちが、陣地の中から仲間にタッチしてもらおうとしている様子



・「捕まえた。」「あーせっかく助けようと思ったのに。」惜しくも陣地の前でタッチされた様子

援助のポイント

- ・それぞれのチームは帽子をかぶる側と帽子を取る側になり、一目で仲間が分かるようにする。
- ・追いかけるチームが多いと逃げるチームがすぐに全員捕まってしまうことや、反対に逃げるチームが多いとなかなか全員を捕まえることができないことに気付かせ、どうしたらいいかみんなで考えあう機会をつくる。
- ・捕まりたくなくて途中で出たり入ったりする子どもや、それを嫌がる子ども、勝手にルールを自分流に変えてしまう子どもなどがいるので、保育者が仲立ちしながらその都度遊んでいる子どもたちでルールの確認をし、どのようにしたら楽しく遊べるかを話し合う。
- ・力を合わせて遊ぶことが分かってきたら、もっとおもしろいルールを子どもたちと一緒に考えたり、試したりして楽しむ。（陣地の場所や形や大きさを変えたり、異年齢で遊ぶときは人数配置を工夫したりするなど。）

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・園庭・散歩先
- ②用具・遊具
 - ・帽子

4 安全上の配慮

- 思い切り走り、他の子どもとぶつかって転んでけがをすることが予想されるため、広い場所で遊ぶ。
- 捕まりたくないために、遠いところまで逃げたり、見えないところに隠れたりすることが予想されるため、保育者が見えないところまではいかない約束をして遊ぶ。

5 遊びを通して育まれた姿

- 勝ち負けがある遊びなので、勝てば嬉しい、負ければ悔しい気持ちを経験しながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる姿を見ることができた。
- どのようにしたらもっと楽しくなるか、みんなで一緒に考え、友達の意見を聞く力が育まれた。
- 相手の動きに合わせて、自分の動きを変えながら思い切り体を動かして遊ぶことで、自然と体力が付くとともに、方向転換をする体のバランスが取れるようになった。

6 家庭との連携

- 子どもたちの遊んでいる様子を口頭や連絡ノートなどで保護者に伝えることで保育園での遊びに関心を深めてもらう。また、「お父さんも子どものときに遊んだよ。おもしろいよな。」などと同じ遊びの楽しさを子どもと共有したり、友達との関係の中で育まれることを感じてもらったりして、親子のコミュニケーションを深める機会にして、子どもの自己肯定感につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「生活習慣」【事例11】

歯磨き指導で歯をピカピカに！

1 活動のねらい

○生活に必要な事が分かり、自分からやってみようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜歯磨きについて、保健師から指導を受ける＞

- ・歯磨きの大切さについて、話を聞く。
- ・ジュースやお菓子の中にどれだけ砂糖が入っているのか、実際の量を目で見比べてみる。

望ましい歯磨きの仕方

- ①右手でブラシを持ち、面が自分の方に向くようにする。（「こんにちは。」の持ち方）
- ②1カ所につき10秒ずつ数えながら、歯磨きを行う。（声は出さなくてよい。）

援助のポイント

- ・歯磨きの仕方は、歯ブラシの持ち方や動かし方について、口内模型と大型の歯ブラシを使って、目で見えてわかるように説明する。
- ・保育者は、保健師と一緒にデモンストレーションを行う担当と、子どもたちが話を理解して歯ブラシを持ったり、動かしたりしているか丁寧に確認する担当に分かれて、連携しながら活動を進める。



・実際に入っている砂糖の量を、目で見分けるように透明の小袋に入れて比較しやすくするための工夫の様子



・歯磨きの仕方が目で見て分かるように、使用する口内模型と大きな歯ブラシ

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・保育室又はホール
- ②用具・遊具
 - ・食品サンプルと砂糖のサンプル、口内模型、大型歯ブラシ、各自の歯ブラシ、タオル

4 安全上の配慮

- 歯磨きをしているときに動き回ると、転んだり友達とぶつかったりして、歯ブラシでのどを傷つけることが予想されるため、水道の側に椅子を用意し座って磨くように知らせる。

5 活動を通して育まれた姿

- 歯磨きをするときには、「こんにちはの持ち方は、こうだね。」などと言って保育者に確認したり、側の子ども同士で確認し合ったりして、正しい歯ブラシの持ち方を意識して行っていた。
- 10回ずつ数えながら、丁寧に歯磨きを行うようになった。
- 健康な体について、考える機会になった。

6 家庭との連携

- 歯磨き指導について、保護者にその内容についておたよりを発行し、歯磨きの大切さや家庭で就寝前の仕上げ磨きの必要性についても知らせる。
- 歯や口の健康は、生涯にわたる健康づくりの基盤である。保護者や子どもが健康を維持するための方法や習慣について、自分がどのようなことができるのかなどを、家庭でも話題にして考える機会にしよう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「運動」【事例12】

よく見て進もう！

1 遊びのねらい

○いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜ドンじゃんけんをして遊ぶ＞

ドンじゃんけんの遊び方

- ①ロープの両側に2つのチームが分かれる。
- ②合図とともに、一番前の子どもがロープの上から落ちないように、バランスを取りながら歩く。
- ③両側から歩いてきて出会ったところでじゃんけんをする。勝った人は続けて進む。負けた人はスタートにもどる。
- ④次の人はフラフープの中で待っていて、前の人が負けたらすぐに出発する。
- ⑤じゃんけん勝ち続け、相手の陣地まで行ったら勝ち。
※線をはみ出したり跳び越えたりした子どもは、スタート地点に戻ってからもう一度進む。



・ロープの上から落ちないようにバランスを取りながら歩く様子



・曲線のコースの上をはみ出さないように歩く様子

援助のポイント

- ・ロープを使ったり順路をジグザグにしたりすることで、子どもたちがいろいろな体の動きを試せるようにする。
- ・チームで作戦会議の時間を設け、どのように体を動かすとうまく進めたかなど、子どもたちが考える機会をつくる。
- ・保育者が子どもたちの工夫している点に気付き、「○○ちゃんは、手を横に広げてバランスをとっているね。」「大きな声で次の人に声を掛けているから、待っている人は準備ができるね。」などと、具体的に言葉で伝える。
- ・早く前に進んでいきたいという気持ちから、線をはみ出す子どもがいたときは、「この線から落ちたら、池にワニがいるかもしれないよ。」などと声を掛け、ユーモアのあるイメージを膨らませ、楽しく活動に取り組めるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・ホール、園庭

②用具・遊具

- ・ロープ、フラフープ、養生テープ、ビニールテープ、ラインカー

4 安全上の配慮

- ロープやフラフープが動くと転んでけがをすることが予想されるため、ロープやフラフープは養生テープで貼りつけて固定する。
- チーム対抗戦で楽しむときは、興奮して子どもたちが前に出てきて危険になることが予想されるため、待っている子どもたちの場所が分かりやすいように、線を引いて示す。

5 遊びを通して育まれた姿

- ロープの上や線の上を、意識しながら体を動かして、バランスをとって進む姿が見られた。
- 「ロープの上を歩くときは、体を横向きにするよりも、体を前に向けて歩いた方が早く進めるよ。」などの工夫について、同じチームの子どもにも伝える姿が見られた。

6 家庭との連携

- 日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子どもの姿に生きることを、懇談会やおたよりなどで知らせる。例えば運動会に向けては、勝ち負けや出来栄のみにこだわらず、楽しんでいることや工夫していること、自分なりに頑張っている姿を大切にしていることを伝え、共通理解を図る。
- 実際に室内で設定したロープの上を、保護者が歩いてみる機会をつくって体験してもらい、子どもとの話題につなげてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅳ期（11月から12月）「学びの芽生え」【事例13】

マイフォトフレーム

1 遊びのねらい

- 自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。
- 思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<写真立てを作る>

写真立ての作り方

- ①段ボール製のフレームの中から、自分が好きな形を選ぶ。
- ②毛糸、メッキテープ、ボタンなどの飾りつけに使う様々な材料の中から、自分の好きな材料を選ぶ。
- ③段ボール製のフレームに、毛糸を巻きつけたりボタンやメッキテープをボンドで貼りつけたりする。
- ④ボンドが乾いたら、写真や絵などを入れて飾る。



・飾りつけに使う、毛糸、メッキテープ、ボタンなどの様々な材料を選びやすいように工夫している様子



・自分で好きなフレームや飾りつけの材料を選んで、毛糸を巻きつけたりボタンやメッキテープをボンドで貼っている様子



・できあがった写真立て

援助のポイント

- ・毛糸・ボタン・メッキテープなどのそれぞれの素材の特性を知り、子どもたちの自由な発想やイメージを実現できるように、「こうしたらお花みたいになるかな？」などと言葉を掛けて、一緒に表現方法を考える。
- ・ボンドは少量を付けることができるように、カップの中に入れて綿棒などで付けるように伝える。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室、テラス

②用具・遊具

- ・段ボールのフレーム、毛糸、ボタン、メッキテープ、ボンド、カップ、綿棒

4 安全上の配慮

- 段ボールのフレームは端の部分がギザギザになっており、指を切ってしまうことが予想されるため、制作するときは隣と距離を置いて座るように設定したり、ギザギザの部分には、気を付けて触るように伝えたりすることで、安全な環境づくりをする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 自分なりにイメージを膨らませ、飾りの材料を選んだり配置を考えたりして、自分だけの作品を作ることができた。
- 友達作品を見て、「自分はこうしてみようかな。」とアイデアを浮かばせながら、毛糸を丸めたり輪郭を作ってからフレームに付けたりするなど、これまでになかった発想を試す姿が見られた。

6 家庭との連携

- 保護者と子どもが作品に関する会話を交わしながら、工夫したところを認めてもらったり自信につながったり、コミュニケーション力を高めたりすることができるようにするため、子どもたちがその作品を作るまでの制作過程を説明書きにして、作品とあわせて掲示する。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅳ期（11月から12月）「人との関わり」【事例14】

おむすびころりん すっとんとーん！

1 遊びのねらい

- 友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。
- 簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きが関わり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。
- 友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜おむすびころりんの劇遊びをする＞

劇ごっこの進め方の例

- ①子どもたちが大好きな絵本や物語の中からどれを選ぶかみんなで相談して決める。
- ②劇ごっこに登場する役をあげて、誰が演じるかみんなで相談して決める。
- ③自分が言うセリフや動きを考えたり覚えたりする。
- ④みんなで演じる中で、おたがいのセリフの言い方や動きについて、よかったところや、もっとこうしたらよいと感じたことを言い合う機会をつくる。
- ⑤自分の役が使用する小道具を作り、劇ごっこの中で使用する。
- ⑥お楽しみ会などの場で発表する楽しさを感じたりする。



・おじいさんが、切り株に腰を下ろして、おむすびを食べようとしている様子

援助のポイント

- ・好きな場面（例えばおむすびを転がす場面）では、子どもたちと一緒に繰り返し遊びながらどのような表現をすれば見ている人にも伝わるのかを考える。
- ・セリフは絵本の中のセリフを基本にしながらい子どもたちがイメージを膨らませて言った言葉も活かしながら場面を展開する。
- ・恥ずかしくてできない子どもや、配役の動き方が分からない子どもがいたら、仲よしの子どもと一緒に配役をにしたり、少しでも表現できているところを見つけて褒めたりして、自信につなげる。



・ねずみとおじいさんが歌って踊る場面の様子

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室、ホール
- ②用具・遊具
 - ・物語に出てくる小道具

4 安全上の配慮

- 楽しさや恥ずかしさで興奮してしまうと、舞台の上でむやみに動き回ったり、暴れたりしてけがをすることが予想されるため、力を発揮することと、暴れることは違うことを話し、落ち着いてごっこ遊びを楽しむように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 友達と同じ劇ごっこを展開する面白さや、自分の体で表現することの楽しさを感じながら遊びを進める姿を見ることができた。
- 自分が思ったことを言葉や動きに表し、「いいね。」などと友達に受け止めてもらえて嬉しそうな様子を見ることができた。

6 家庭との連携

- 劇ごっこを保護者に見てもらえる機会をつくり、一人ひとりの表現する姿を受け止め褒めてもらい、子どもが自信につなげることができるようにする。
- 個人面談を設定し、日常生活での子どもの取組や友達との関わりの中で成長した姿を伝え共感することで、家庭でも話題にし褒めてもらうことで、子どもの自尊感情を高めるきっかけとする。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児Ⅳ期（11月から12月）「生活習慣」【事例15】

バイバイ！ ばい菌！ あっちいけ～！

1 活動のねらい

○手洗い、うがいの大切さが分かり、自分からすすんで行う。

2 活動・援助のポイント

活動

くうがいの大切さについて知り、自分からすすんで行う

望ましいうがいのガラガラうがいの仕方

- ①水を一口分口に含んだら、上を向いてのどの所まで届かせる。
- ②水を飲みこまないように、「あー」「がらがらがら。」などと、息や声を出して水を震わせる。
- ③15秒くらいやったら、水を口から静かに出す。
- ④同じ動作を3回行う。



・外遊びから帰ってきてガラガラうがいしている様子



・写真や絵カードなどを使って、目に見えないばい菌について子どもたちに話をしている様子

・食事の後に、口内に残った食べかすを出すためのぶくぶくうがいをしている様子
※上を向かないで水をぶくぶく動かしている



・子どもたちがうがいのやり方を目で見て分かるように掲示した、工夫の様子

援助のポイント

・保育者が実際にやって見せて、子どもたちにまねをさせる。上手にできている子どもの姿を認め、褒めることで意欲につなげる。

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・保育室、ベランダの水道
- ②用具、構成
 - ・コップ、水、タオル

4 安全上の配慮

○うがいや手洗いをする際は、足元に水がはねて滑りやすくなり、転んでけがをすることが予想されるため、周りに水が跳ねないように、静かに水を出すように伝えたり、小まめに雑巾で床の水を拭きとったりする。

5 活動を通して育まれた姿

○保育者に促されなくても自分から正しいうがいの仕方を意識し、丁寧にうがいすることができるようになった。
○健康な体について考える機会になり、うがいだけでなく手洗いも丁寧にうがいの姿を見ることができた。

6 家庭との連携

○秋から冬にかけて感染症が流行する時期なので、手洗いやうがいをしっかりと行うことを家庭でも一緒に行うように伝える。
○健康な体について考える機会になったことを伝え、子どもが自分でできる取組は他にどのようなことがあるか家庭でも話題にしてもらい、健康な体について園と家庭とで協力して共に進める。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児IV期(11月から12月)「運動」【事例16】

しっぽを取られないように逃げよう

1 遊びのねらい

○友達と一緒に、鬼遊びやしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<友達と一緒にしっぽ取り遊びを楽しみ、思い切り体を動かす>

しっぽ取りの遊び方

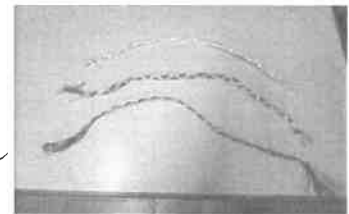
- ①ポリエチレンテープを編み込んだひもをしっぽに見立て、ズボン類の背中側に挟む。
- ②保育者の合図で、友達のしっぽを取る。(自分のしっぽが取られても続けてよい。この場合、最後の一人が取られるまで行うが、時間で終了にしてもよい。)
- ③終了の合図の後に、取れたしっぽの数を保育者と一緒に数え、誰がたくさん取れたかを確認し合う。



・広い場所で思い切り体を動かしてしっぽを取ろうとしている様子

援助のポイント

- ・広場で行うときはラインを引いて範囲を示す。
- ・上着の長い子どもはズボンの中に上着を入れ、しっぽがよく見えるようにする。
- ・走ったり逃げたりしながらしっぽを取るなど、複数の動きが重なっているため、慣れるまではしっぽを取るだけの簡単なルールにして遊べるようにする。
- ・繰り返し行い遊び方が分かってきたら、子どもたちと一緒にもっと楽しいルールを考える時間を作り興味を持続させる。



・ポリエチレンテープを編み込んだしっぽ

ルール変更の例

- ①自分のしっぽが取られたら場外に出て最後の一人まで行う。
- ②2つのグループに分かれてチーム戦にする。
- ③逃げる範囲を広げる。
- ④おにの数を増やす。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、公園

②用具・遊具

- ・ポリエチレンテープで作ったひも

4 安全上の配慮

- 狭い場所で走るとぶつかってけがをすることが予想されるため、参加人数に応じて遊ぶ範囲の広さを調節する。
- 心と体の準備をしてから始めるために、靴がしっかり履けているか確認したり、準備体操など行ったりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 回を重ねるうちに線から出ないように逃げたり、友達とぶつからないように走ったり、自分のしっぽを取られないようにしたりしながら体を十分に動かして遊ぶ姿が見られた。
- ゲームを進めていくうちに、しっぽを「2本付け」「3本付け」などと子どもたちがルールを考えて、遊びを楽しむ姿が見られた。

6 家庭との連携

- 秋から冬にかけて体調を崩しやすくなる時期だが、積極的に戸外で体を動かす遊びを取り入れて、健康な体を育んでいることを保護者と共通理解し、家庭でも一緒に体を動かして遊ぶ機会をつくってもらおう。
- 個人面談の時期である。日常生活での子どもの取組や友達との関わりの中で成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組む関係を築いていく。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児V期（1月から3月）「学びの芽生え」【事例17】

寒い日を楽しもう！

1 遊びのねらい

- 冬の自然事象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。
- 保育者や友達の話聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<氷や霜柱に気が付いたり、関心をもったりする>

- ・池の水や霜柱を見付け保育者や友達に知らせ、喜びや驚きを共有する。
- ・「バムとケロの寒い朝」という絵本を見て、氷ができる不思議さを感じるとともに自分たちも作ってみたいという気持ちになる。

「バムとケロの寒い朝」
出版社：文溪堂
絵・作：島田ゆか

<氷を作って遊ぶ>

子どもが出した氷のアイデア

- ・色のついた水で氷を作る。
- ・絵本の主人公のようにアヒルのおもちゃを入れて水を凍らせる。
- ・折り紙、木の実、ビーズなどを水に入れて凍らせる。
- ・寒いところ（日陰）に置いて一晩経った朝に確認する。
- ・氷ができていたら入れ物から出したり、氷の感触を確かめたり、溶けていくのを見たりする。



・池の水を集めてパズルのように組み合わせ遊ぶ様子

・池の水の中に葉っぱが入っているのを見つけた様子

・ガラスみたいだねと覗いて見ている様子

援助のポイント

- ・子どものいろいろな発想を大切に、うまくいかないときになぜそうなったのかについて子どもと一緒に考える姿勢を大切にする。
- ・話し合いの場面では、友達の意見に対して「いいね。」と思ったり「なるほど。」と感じたりできるような雰囲気を作る。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、公園

②用具・遊具

- ・バムとケロの寒い朝の絵本
- ・いろいろな形の容器、木の実、花びら、葉っぱ、ビーズ、折り紙など

4 安全上の配慮

- 氷を長時間触っていると指先が痛くなったり、温まるとかゆくなったりすることが予想されるため、冷たくなったら氷から手を放すように伝える。手袋も使用することもある。
- 大きな氷の上を踏むと滑って転ぶことが予想されるため、気を付けて歩くように声を掛ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 自分の作りたい氷のために、水を入れる容器や中に入れる物を選んで工夫する姿を見ることができた。
- 友達の意見を聞くことで、自分では気が付かなかった考えを知ることができていた。
- 絵本と同じ場面を体験し、お話の世界を楽しみながら氷で遊ぶ姿を見ることができた。
- 寒いと水が凍ったり、暖かいと氷が溶けたりすることに気付くことができた。

6 家庭との連携

- 読んだ絵本の紹介や子どもたちが工夫して作った氷の写真撮影しておたよりに載せたり、口頭で話したり掲示したりすることで、保護者に子どもたちがいろいろなことを学んでいる姿を伝えるとともに、成長を褒めてもらい子どもたちの自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児V期（1月から3月）「人との関わり」【事例18】

あこがれの当番活動

1 遊びのねらい

○年長児と交流したり、当番の引き継ぎなどをしたりして、年長児の生活に期待をもつ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<5歳児から当番活動を引き継ぐ>

- ・5歳児が行っている当番活動について関心をもつ。
- ・自分たちも当番活動を覚えてやってみようと相談し準備をする。
 - ①当番表に使う絵を一人ひとり作成する。
 - ②一緒に当番を行う相手や1週間ごとに当番を交代することを決める。
- ・5歳児と一緒に当番を行い、練習する。
- ・分からないことは自分から年長児に、「どうやるの？」などと聞く。

当番活動の内容

- ①人数当番（その日の出席を事務室と調理室に報告する。）
 - ②ご飯当番（5歳児が盛り付け、4歳児が配膳する。）
 - ③水くみ当番（散歩に行くときの水分を水筒に入れる。）
 - ④水やり当番（園庭の草花に水をやる。）
- ※①と③は5歳児のみの当番内容。



- ・子どもたちが作ったカードで、当番の内容と順番を示したホワイトボードの工夫の様子

援助のポイント

- ・憧れていた当番活動に期待をもって取り組むことができるように、当番表カードの作成時は、「もうすぐ5歳児組だもんね。」などと声を掛けて楽しみに感じることができるようにする。
- ・分からないことを聞くことができない子どももいるので、困っている様子を感じたら5歳児に、「教えてあげてくれる？」などと声かけて仲立ちする。
- ・当番活動の時間になっても気が付かない子どもには、年長児や仲間から声を掛けてもらったり、次回は自分でも気付くことができたりしながら、当番活動の意識が身に付くようにする。



- ・「エプロンの紐の結び方を教えるね。」と優しく教えている様子

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室、園庭
- ②用具・遊具
 - ・それぞれの当番活動に必要な物

4 安全上の配慮

- ご飯当番はみんなの給食を配膳するので、清潔な身支度をしないと不衛生になることが予想されるため、事前に手をしっかり洗うことや当番のエプロンやマスクなどを身に付けることを忘れずに行うように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 自分たちでできることをしようと、子どもが自ら主体的に当番活動の練習をすすめる姿を見ることができた。
○5歳児にいろいろと教えてもらうようになったことで、友達や自分より小さい子どもに同じように教えてあげたり、気に掛けたりする子どもの姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 子どもたちが当番活動を教わりながら行っている様子を保護者会やおたよりなどで伝え、1年間の成長を共感するとともに、5歳児クラスになる期待をもって生活している姿を保護者に励ましてもらうことで、子どもたちの自信となり自己肯定感につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児V期（1月から3月）「生活習慣」【事例19】

自分の体の中ってどうなっているの？

1 活動のねらい

○自分の健康に関心をもち、様々な食べ物をすすんで食べようとする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜体の仕組みや食べ物の働きについて知る＞

栄養士からの話の内容

- ①食べ物が体のどこを通過していくか知る。
- ②食べ物が体にどんな働きをするのか考えて、仕分けをする。
赤「体を作る」黄「熱や力になる」緑「調子を出す」
- ③栄養の歌をみんなで歌いながら栄養のことを知る。



「栄養の歌」
（ごんべえさんの
曲で替え歌）



・目で見て分かるように、体の絵や食品が描かれたペーパーサートを使って工夫をしている様子

援助のポイント

- ・体の仕組みについて興味を広げることができるように、絵本や図鑑などを保育室に用意する。
- ・食事のときに話の内容を思い出せるよう、「今日の献立はどんな働きになるのかな？」などと声を掛け、食事をすすんで食べようとする姿へとつなげる。

- 1 からだをつくるの なんでしょう？
それは「あか」のたべものよ
おにくに さかなに まめ たまご
ぎゅうにゆう こぎかな のり わかめ
- 2 ねつや ちからに なるものは
それは「きいろ」のたべものよ
ごはんに うどんに いも さとう
あぶらや ばたーが えねるぎー
- 3 ちょうしをだすものなんでしょう？
それは「みどり」のたべものよ
きやべつに きゅうりに ねぎ だいこん
にんじん かぼちゃに ほうれんそう
- 4 あか き みどりを とりそろえ
きちんとたべれば じょうぶなこ
うんどう あそびに おてつだい
もりもり かつやく げんきなこ

3 環境の構成

①場所

- ・保育室

②遊具・道具

- ・食品ボード、栄養の歌の歌詞

4 安全上の配慮

○絵やペーパーサートを近くで見たくて立ち歩いたり、「見えない。」などと言って友達とけんかになったりすることも予想されるため、どの座席からも見えるようにする。保育者もすぐにトラブルに対応できるような場所で待機する。

5 活動を通して育まれた姿

○話が終わった後に栄養の歌を保育室に掲示すると、それを見ながら友達同士で歌ったり活動をしたことを再現したりして楽しむ姿が見られた。

○食事のときに献立を見ながら、「これは赤の食べ物だよね。」などと言って食べる姿を見ることができた。

6 家庭との連携

○活動の内容を写真で掲示したり、実際に使った体のボードやペーパーサート、栄養の歌を掲示したりして子どもたちが学んだ内容について伝え、家庭でも食への関心を高めてもらう。

○自分の体に関心をもち個々に考えたり、体のためにいろいろなものをすすんで食べようとするようになったことが成長であり、その姿は5歳児クラスで自信をもって生活する力につながることを伝え、家庭でも見守ったり励ましたりしてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児V期（1月から3月）「運動」【事例20】

1、2のジャンプ!

1 遊びのねらい

○自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<自分のめあてをもって、跳んだり縄をくぐり抜けたりする>

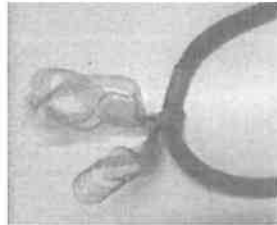
めあて	跳び方
たくさん跳ぶ 遊び歌で跳ぶ	大縄をタイミングよく跳ぶ
縄の真ん中をくぐる	大きく回した縄を走り抜ける
全員で連続して跳ぶ	縄を走り抜けたら目印にした場所を回って戻ってきて反対側の列の最後尾に並ぶ
フラフープを踏まないようにテンポよく回す	フラフープを短縄のように回しながら両足跳びをする



・縄跳びに親しむためにボールを組み合わせて遊んでいる様子



・遊び歌（おおなみなみ、郵便屋さん、誕生日など）に合わせてたり回数を数えたりして跳んでいる様子



・縄の中心が分かるようにリボンを付け工夫している様子



・回している縄を走り抜けている様子



・フラフープを自分で回して跳んでいる様子

援助のポイント

- ・室内でも縄を使った遊びを取り入れて、縄の扱いに慣れたり、縄に親しめるようにする。
- ・縄を走り抜けるときは、回っている縄の中心のリボンを目印にして一番高く縄が上がったタイミングで走り始め、途中で止まらず走りぬける方法を保育者がやって見せる。
- ・フラフープは手で軽く持って回す方法を保育者がやって見せる。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
・園庭、公園、広い場所
- ②用具・遊具
・フラフープ、縄など

4 安全上の配慮

- フープや縄を回すときは近くにいると縄に当たってけがをすることが予想されるため、遊ぶ子どもは周りを確認してから遊ぶように知らせる。反対に縄を跳んでいる子ども側には近付かないように注意する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 様々なところで5歳児が跳んだり回したりしている姿を見て、まねをしてみたりやり方を聞いたりしながら試す姿を見ることができた。
- 回している縄をくぐる遊びでは、一度タイミングよく入ることができるとその後は成功する体験が増えて自信につながっている様子が見られた。

6 家庭との連携

- 繰り返し縄跳びの練習をする姿や、タイミングよく跳んだりくぐったりしたときの様子をおたよりなどで保護者に伝えることで成功体験と一緒に喜び合い、褒めてもらうことで自信につなげる。
- 家庭でも縄跳び遊びができるように、子どもに適した縄を実際に見せるなどして用意の参考にしてもらう。

5歳児 事例

7 5歳児 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法

(1) 5歳児 I期 (4月から5月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者との関わりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、すすんで行う。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を取り入れて遊ぶなどする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもつ。【事例1】 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。 ・砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。 ・様々な行事などを通して、国旗に親しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。 ・友達と一緒に、遊びに必要なものを自分なりに工夫して作ることを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・年下の子どもに対して親しみの気持ちをもって接したり、世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもち、 ・友達の動きや言葉を感じ取りながら行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。 ・友達との関わりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。【事例2】
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。 ・手洗いやうがいなど、必要に応じて自分から行う。 ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。【事例3】
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。【事例4】 ・新しい遊具に関わりながら使い方を理解し、安全に使用しようとする。

〈指導例〉

☆学びの芽生え「自然物を描いてみよう」【事例1】 ☆人との関わり「こうしたらいいんじゃない?」【事例2】、
☆生活習慣「つき組の楽しい1日が始まるよ」【事例3】 ☆運動「いろいろなボールを使って遊ぼう」【事例4】

〈援助のポイント〉

・年長になり、張り切っている気持ちや、役に立ちたい気持ちを認めることにより、進級した喜びを十分に味わわせ、自信をもって行動できるようにする。

〈家庭との連携〉

・進級による喜びや不安に対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子どもを支えていくようにする。
・1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、年長の1年間に見通しをもって過ごせるようにする。

(2) 5歳児 Ⅱ期 (6月から9月上旬)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に触れ、自分なりの目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 ・友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 ・自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事に興味をもち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり、調べたりする。 ・身近にあるいろいろな素材や材料の使い方が分かり、遊びに生かそうとする。 ・自分なりに楽しみながら砂や水、いろいろな素材の特性が分かり、利用して遊ぶ。 <p style="text-align: right;">【事例5】</p>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことを言葉で伝える。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。 ・物語や昔話などいろいろな絵本に親しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・素材の組み合わせを楽しみ、工夫して使う。 ・いろいろな楽器の使い方が分かり、友達と一緒に音を合わせる楽しさを感じる。 ・クラス全体での歌、手遊び、ダンスなどを通して、声や動きが合うことの心地よさを感じ、表現を楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と十分にに関わり、いろいろな遊びを進める。 ・友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 ・相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められた嬉しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。 ・友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 ・小学校との交流を通して小学生と触れ合うことを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。 ・友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。【事例6】 ・危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの使った道具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする。 ・汗を拭く、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。【事例7】 ・1日の園生活に見通しをもち、状況を受け止めて自分なりに動こうとする。 ・栽培している植物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びに興味をもち、様々な体の動きを楽しむ。 ・水遊び、プール遊びなど季節ならではの遊びを通して、思い切り活動する充実感を味わう。 ・遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。【事例8】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「夏野菜は大きくなったかな」**【事例5】** ☆人との関わり「何して遊ぶ？」**【事例6】**
 ☆生活習慣「夏の生活を自分で進めよう」**【事例7】** ☆運動「見て見て！できるようになったよ！」**【事例8】**

〈援助のポイント〉

- ・子どもたちが自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分発揮できるように見守る。
- ・子ども同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、子どもが自分で乗り越えられるように励ましたり見守ったりして気持ちを支えていく。

〈家庭との連携〉

- ・自分の力で生活を進められるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守っていく。
- ・子ども同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達との関わりの中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。

(3) 5歳児 Ⅲ期 (9月中旬から10月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動を通して、すすんで物事に取り組む大切さや達成感を味わう。 ・みんなでする活動を楽しみながら、友達よさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 ・自分の目的に向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な物の数、人数、適当な大きさ、長さ、バランスを考えて活動する。 ・遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり読んだりする。 ・遊びの中で数を数える、量を比べる、いろいろな図形に関心をもつなどする。 ・用途に合った素材を選んで使い、遊びに生かす。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことを話したり、友達の話の聞いたりする。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かる言葉で伝える。 ・話の内容を理解し、言葉の使い方、楽しさ、心地よさに気付く。 ・物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや体を意識した表現を楽しむ。【事例9】 ・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。 ・自分の力を発揮し、友達よさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・自分の身近な人(高齢者、年下の子ども、地域の人など)との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ。【事例10】
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール必要性や危険なことについて分かり、意識して行動する。 ・自分の行動の結果を、自分なりに考える。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・所持品の整理や片付けをすすんで行う。 ・健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。【事例11】 ・1日の園生活の流れを予測したり、見通したりして状況に応じて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。 ・ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。【事例12】

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「運動会楽しかったね」【事例9】
- ☆人との関わり「笑ってくれたよ！うれしいなあ〜」【事例10】
- ☆生活習慣「知りたい！食べ物力」【事例11】
- ☆運動「最後までバトンをつなごう」【事例12】

〈援助のポイント〉

- ・いろいろな活動の中で、子どもの挑戦しようとする気持ちを受け止め、目的が明確にもてるようにする。それぞれの頑張る姿をクラスの子どもに知らせ、よさに気付かせるとともに、みんなで喜び合う気持ちを高めていく。
- ・友達との関わりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子どもの成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。
- ・体を動かすことで様々な意欲が引き出されることを伝え、子どもの伸びようとする力を園と家庭の両方で生かしていく。

(4) 5歳児 IV期 (11月から12月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探究心を深める。 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。【事例13】 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。 季節の変化に関心を持ち、遊びに取り入れたり調べたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 理由を添えたり新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 友達の話の内容を理解しようと、関心をもって聞く。 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表現したいことを材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ。 絵本や物語に親しみを持ち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。【事例13】
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。【事例14】 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。 友達の中で、自分の力を発揮していく。 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> よいことや悪いことを自分で考えて行動する。 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら、それを守って進める。 その時にすべきことが分かり、自分から行動する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 所持品の整理や片付けをすすんで行う。 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 1日の園生活や流れに見通しを持ち、友達と声を掛け合って行動する。 健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して行動する。【事例15】 交通ルールや公共のマナーを知り、気を付けて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。【事例16】 遊具や用具、遊びに使う場所など安全に気を付けて遊ぶ。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「いい絵本ができたね!」【事例13】 ☆人との関わり「ドッジボール 大作戦!」【事例14】
 ☆生活習慣「バイキンさよなら、きれいに手洗い」【事例15】 ☆運動「何回跳べるかな?」【事例16】

〈援助のポイント〉

- グループでの取組の中で一人ひとりが十分に自己を発揮し、互いのよさや考えに触れて協同して遊べるような機会を意図的に設定する。
- 少し難しいことに向き合い、友達と一緒に工夫して乗り越えていく機会を意図的につくり、達成感を重ねられるようにする。
- 思いや考えの違いに気付き、グループの友達と折り合いを付けながら遊びを進めていくことができるように援助していく。

〈家庭との連携〉

- グループの友達との活動を通して協同性が育まれ、小学校での生活や学習の基礎になることを伝えるとともに、自分の子どもやクラスへの理解が深まるようにする。
- 就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識を持って生活してもらえるようにする。

(5) 5歳児 V期 (1月から3月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心を持ち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心を持ち、考えたり試したりして自然を取り入れて遊ぶ。 ・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりして遊びに取り入れる。 ・日常生活に必要な文字や数字、標識などに興味や関心を持ち、遊びの中ですすんで使う。 ・小学校での授業の体験などを通して、入学への期待をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、感じる、考えるなどの経験を、自分なりの言葉で十分に表現する。 ・誰とでもすすんで挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。 ・話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって話を聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々なものに自分から関わり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。【事例17】 ・友達と一緒に共通の目的を持ち、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスや学年の友達とみんなでする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 ・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。 <p style="text-align: right;">【事例18】</p>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話を聞いて受け止める。 ・友達の得意な面やよさに気付き、生かし合って遊ぼうとする。 ・小学校との交流などを通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えたルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 ・今は何をすべきなのかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、協力してすすんで行う。 ・時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ・交通ルールが分かり、守って行動する。【事例19】 ・行事や経験を通して、伝統的な日本の食文化に関心をもつ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と積極的に体を動かす運動遊びに取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみるで遊ぶ充実感を味わう。【事例20】 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。

〈指導例〉

- ☆学びの芽生え「みんなの気持ちを合わせよう」【事例17】 ☆人との関わり「みんなで育てたお米 おいしいね!」【事例18】
 ☆生活習慣「右を見て、左を見て」【事例19】 ☆運動「力を合わせて頑張るぞ!」【事例20】

〈援助のポイント〉

- ・友達と互いのよさを生かし合いながら、試したり、発見したり、考えたりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を十分に味わえるようにする。
- ・生活の中で十分に自己発揮をしている姿を認め自信につながるように関わる。
- ・様々な友達と関わる中で、それぞれが成長したことを認め合い、自信がもてるようにする。
- ・就学に向けて期待が膨らむ思いを十分に受け止め、小学校入学への期待感をもてるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。
- ・具体的な場面を通して子どもの成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。

(6) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児I期（4月から5月）「学びの芽生え」【事例1】

自然物を描いてみよう

1 遊びのねらい

○戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもつ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜自然物を探して、集めたり、調べたり、描いたりする＞

作り方・楽しみ方

- ①園庭や散歩先へ行き、珍しい葉や石、枝などを探し集める。
- ②集めたものを観察したり、触れたりして興味を深める。
- ③集めた自然物の絵を描く。
- ④描いたものに名前を付ける。
- ⑤できた作品を友達と見せ合い、感じたことを話し合う。



・集めたものを調べたり描いたりする様子

援助のポイント

- ・自然物を探す時は、「どこにあるかな？」と声を掛け、見つけた場所を後になって思い出せるように言葉で確認する（今後、四季折々の変化に気付くことができるように意識付ける）。
- ・観察するときは、「つるつるしている？ざらざらしている？」「何に見えるかな？」「どんな形かな？」などと、具体的に言葉を掛け、観察するためのきっかけづくりをする。
- ・できた作品を友達と見せ合うときには、絵の描き方や塗り方について、「こうすればよく描けるね。」などと、今後の参考にできる部分に気付かせる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、散歩先の公園

②用具・遊具

- ・紙、油性マーカー、色鉛筆など

4 安全上の配慮

- 枝や先のとがっている物は、振り回すと友達にぶつかってけがをすることが予想されるため、正しい持ち方について丁寧に話す。

5 遊びを通して育まれた姿

- 自然物を探し紙に描きたいと思う気持ちが強くなり、戸外の自然の美しさに興味が高まる姿を見ることができた。
- 自然物の形を見て、それが何に見えるか、どんな特徴があるか、見たり触ったりしながら表現することで想像力が育まれた。
- 模写するためにじっくりとそのものを見て、形や大きさ、色合いを照らし合わせ、特徴を捉えた表現ができるようになった。

6 家庭との連携

- 園庭や散歩先で自然物の美しさや季節の変化などに興味をもち遊びに取り入れている姿を、口頭や掲示物で保護者に知らせ、子どもたちが思考力を身に付け成長している姿を共感する。また、保護者に一人ひとりの子どもの思いを受け止め励ましてもらうことで、子どもの自信につなげることで自己肯定感を育む。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児I期（4月から5月）「人との関わり」【事例2】

こうしたらいいんじゃない？

1 遊びのねらい

○友達との関わりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者や友達とルールのある遊びを楽しむ＞

- ・4歳児のときに経験していたわらべ歌遊び（あぶくたった・はないちもんめ）をする。
- ・ルールを守らない子どもがいたり、ふざけたり、遊びが続かないような場面になったら、みんなでどうしたらよいか話し合う。
- ・楽しく遊びを続けるために、互いの思いを聞き、話し合い、新たなルールを考え、守りながら遊ぶ。



・ルールを確認している様子

援助のポイント

- ・勝ち負けが関わる遊びの場合に、夢中になりすぎて次第に大きな声を出したり、友達の手を引っ張ったりする子どもがいる。そのような場合は一旦遊びを止めて、みんなでどうすればよいかを考えて再開する。
- ・大声を出す子どもには、「叫び声は耳が痛くなるね。どうすればいいかな。」などと投げかけて、声の大きさを考える機会をつくる。
- ・ルールを守らないと、遊びが中断してつまらないという思いを共有する。
- ・楽しむことと、ふざけることは違うということを伝える。
- ・子どもから「じゃあ、こうしたらいいんじゃない。」「それから、〇〇なのもいやだね。こうしようよ。」などと新たなルールが提案されたら、「なるほど、やってみよう。」と受け止めて、試してみる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、ホール

②用具・遊具

- ・特になし

4 安全上の配慮

○ルールを守らずにふざけて遊ぶと、思わぬけがをすることが予想されるため、その都度一旦遊びを止めて、ルールを確認したりふざけないことを伝えたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- ルールを理解し、守って遊ぶことが楽しいと感じられる姿を見ることができた。
- 新たなルールを友達と一緒に考え出し、みんなで守りながら楽しんでいる姿が多くなった。
- ルールを守って遊ぶことで規範意識が芽生え、行動の良し悪しが分かり、自分の気持ちを調整できるようになった。（勝ちたたくてもずるをしてはいけない、悔しくても当り散らしたりしないで次に頑張ろうとするなど。）

6 家庭との連携

○子どもが遊びを通して身に付けようとしていること（規範意識の芽生え）を掲示物や口頭で保護者に伝えて成長を共感するとともに、行動の良し悪しについて家庭でも話題にしてもらい、いろいろな場面でどのような行動をすればいいのか一緒に考えてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児I期（4月から5月）「生活習慣」【事例3】

つき組の楽しい1日が始まるよ

1 活動のねらい

○新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。

2 活動・援助のポイント

活動

<一日の活動内容を知る>

- ・子どもたちは、朝の会で、ホワイトボードを見ながら、一日の活動内容を知り、見通しをもって生活する。



・一日の予定が分かるホワイトボード

・週や月の予定が分かるカレンダー

<当番活動をする>

- ・当番の子どもは幼児クラスを回り、ホワイトボードや用紙に出席を記入してもらい園長や調理室に報告する。

援助のポイント

- ・視覚的にも分かりやすくするために、ホワイトボードに一日の予定を箇条書きで簡単に記入する。
- ・月や週の予定もカレンダーなどを利用して知らせる。
- ・当番カードを作成して、誰が当番か分かり易く提示する。
- ・翌日の当番は誰かということ、午後のおやつを食べる前に確認し合い、その子どもたちの意識を高める。
- ・子どもたちが片付けをしやすいように、玩具の置き場を写真で掲示する。



・誰が当番か分かる表



・どこに置くか分かる掲示

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・子どもの目線に掲示物を配置
- ・生活がしやすい棚の設置及び配置

4 安全上の配慮

○園庭、室内での約束や危険な遊びについて、約束を守って行動することができない子どもがいることが予想されるため、クラス全体で話す機会をつくり確認し合う。

5 活動を通して育まれた姿

- ホワイトボードを使用して、口頭や視覚で日々の活動を伝えることに慣れ、見通しをもって行動している姿を見ることができた。
- 年長児としての自覚が芽生え、当番活動を友達と協力して取り組む様子が見られた。また、掲示板を見ることで、文字や数字への興味にもつながった。

6 家庭との連携

- 月や週の活動内容を保護者が見る場所（廊下、部屋の入口、壁など）に掲示し、日々の活動の様子を知らせることにより、親子のコミュニケーションを深めるきっかけにする。
- おたよりや保護者会の場で1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、保護者が5歳児クラスの見通しをもって過ごせるようにする。また、子どもたちが年長になり張り切っている気持ちや、役に立ちたい気持ちを認め、家庭でもできる役割を考えてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児I期（4月から5月）「運動」【事例4】

いろいろなボールを使って遊ぼう

1 遊びのねらい

○すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<ボールで楽しく遊ぶ>

- ・新聞ボール投げ競争をする。
- ・ボールを遠くに投げる。
- ・様々なボール（大きさ、素材）を使って投げる。
- ・投げる位置を変え、変化を楽しむ。
- ・ドッジボールを楽しむ。



・相手の陣地に新聞ボールを入れる遊び



・ボールを遠くに投げる遊び

援助のポイント

- ・どの遊びも、ルールをみんなで確認してから始める。
- ・遠くに投げる遊びでは、150センチメートルくらいの高さにポリエチレンテープを貼り、それより上を目指すよう促す。
- ・ドッジボールでは、ボールの取り合いでケンカになる場面がある。どうしたらよいか話し合っ、ルールを確認してから再開する。
- ・様々なボール遊びを取り入れ、投げ方にもいろいろあること（両手投げや片手投げ）を知らせ、遊びの中でできるように援助する。
- ・「体を動かして遊ぶと気持ちがいいね。」などと声を掛け、子どもたちと共感する。



・ドッジボールを楽しんでいる様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・ホール、園庭など

②用具・遊具

- ・ポリエチレンテープ、新聞ボール、ドッジボール、スポンジボール、ライン引き

4 安全上の配慮

- 夢中でボールを追いかけると、周りが見えなくなり、転んだりぶつかったりすることが予想されるため、慌てないように気を付けるよう言葉を掛ける。
- 鉄棒前、水道前、砂場前などの危険な場所には、あらかじめつい立などを置きけがの未然防止に努める。

5 遊びを通して育まれた姿

- 繰り返し遊ぶ中で、ルールを理解し楽しむ姿を見ることができた。
- 少しずつ、投げたりキャッチしたりすることができるようになり、嬉しくてもっとやりたいという気持ちにつながった。
- ドッジボールでは、ゲームの中でボールの取り合いになると、「じゃんけんするんだよ。」「時間がもったいないよ。」「早くやろう。」など、敵味方関係なしに声を掛け合う姿が見られた。

6 家庭との連携

- 日々の子どもの姿やエピソードを、その日の活動として部屋の入り口や廊下に掲示したりおたよりなどで伝えたりして、子どもの成長に気付き共感するとともに、主体的に遊びをすすめる姿を認め褒めてもらい、いろいろな活動への意欲につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「学びの芽生え」【事例5】

夏野菜は大きくなったかな

1 遊びのねらい

○夏野菜や草花の栽培を通して、生長の様子に関心を持ち、よく見たり考えたりする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<夏野菜の栽培を通して、生長の様子に関心をもつ>

実際の活動の様子

- ①黒土、石灰、腐葉土を混ぜ、天日干しし、畑の土作りをする。
- ②どんな夏野菜を栽培したいか相談する。
- ③夏野菜の苗を買いに行き、元気な苗を選ぶ。（ナス、キュウリ、トマト、オカワカメなど）
- ④シャベルやスコップなどを使って、畑やプランタに苗を植える。
- ⑤日々、ジョウロで水をかけ、生長に関心をもつ。
- ⑥生長する過程で、不思議に感じたことを「トマトの実は緑色から黄色になって、最後に赤になったね。」などと言葉で表現したり、子どもたちと一緒に調べたりする。
- ⑦夏野菜のへたをはさみで切って収穫し、調理室に持っていく。
- ⑧収穫物を調理職員に調理してもらい、その後、みんなで夏野菜を食べ味わう。



・野菜に水をかけている様子

援助のポイント

- ・土が乾いたら水やりをすることを伝え、子どもが自分たちで気付くことができるようにする。
- ・夏野菜の生長に気付いた子どもの発言（トマトの実の色が変化の様子など）を聞き逃さずみんなで共有する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、畑やプランタの場所

②用具・遊具

- ・シャベル、スコップ、ジョウロ、はさみ
- ・図鑑、夏野菜の育て方の本

4 安全上の配慮

- 収穫の際に、はさみを使用する場合は、手や指を切ることが予測されるため、保育者が側で必ず見守り、慌てずに切るように伝える。
- 夏野菜が小さい頃は、乳児が誤飲することが予想されるので、ネットなどを掛けて防止する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 栽培を通して、夏野菜が育つためには毎日水をあげることが大切だということに気付くことができた。
- 水やりのときは、じょうろの傾き加減を考えて水の勢いを調整し、苗が倒れないように優しく水をあげることができた。
- トマトの実は生長するにつれて、色が緑から黄色、最後に赤色と変わることを発見することができた。
- 近隣の畑に育っている夏野菜にも興味をもつようになり、どんな夏野菜なのかよく見たり、考えたり、調べたりするようになった。

6 家庭との連携

- 子どもたちが夏野菜の栽培をしている様子を掲示物やおたよりなどで知らせたり、実際に育てている野菜の生長を見てもらい機会をつくり、家庭でも話題にし、共感したり励ましたりしてもらうことで子どもたちの意欲につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「人との関わり」【事例6】

何して遊ぶ？

1 遊びのねらい

○友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりする＞

- ・新聞紙で作った玉を使って、何をして遊ぶか考える。
- ・自分たちの遊びを進めるために、どんなルールにするか話し合う。

＜ライン玉入れを楽しむ＞

- ・みんなで決めたルールで、ライン玉入れを楽しむ。
- ・ルールを意識して、遊びを進めようとする。



・新聞紙で作った球を使って何をして遊ぶか、友達と話し合いをしている様子

ライン玉入れの遊び方

- ・相手の陣地に多く玉を投げ入れた方が勝ち。
- ・玉は、一人一つずつ投げる。
- ・時間は3分間。
- ・笛が鳴ったら投げるのをやめる。
- ・ラインを踏んだり、はみ出して投げない。
- ・わざと顔にぶつけない。
- ・グループ分けはグーとパーで決める。



・みんなで決めたルールで、ライン玉入れをしている様子

援助のポイント

- ・話し合いの場面では、できるだけたくさんの意見を聞き、いろいろな考え方があることに気付かせる。
- ・いろいろな意見に折り合いを付けるにはどうすればいいのか、自分たちで問題を解決できたという満足感につながるように、気持ちに寄り添い見守ったり、少しだけヒントを出したりしながら援助する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・ホール、園庭など

②用具・遊具

- ・新聞紙、ラインテープ

4 安全上の配慮

- 狭い場所で動き回ると、ぶつかってけがをすることが予想されるため、事前に周囲を片付けて、広いスペースを確保する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子ども同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、「ルールを守らないと、楽しくないよ。」「今度はルールを守るよ。」などと、子どもたち自身で問題を解決し、遊びを進めようとする姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 子ども同士の間で起こった出来事について、保護者に口頭やおたよりなどで丁寧に伝え、友達との関わりの中で経験していることや育まれていることについて理解してもらうことにより、園と家庭が同じ視点で子どもたちを見守ったり励ましたりできるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「生活習慣」【事例7】

夏の生活を自分で進めよう

1 活動のねらい

○汗を拭く、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。

2 活動・援助のポイント

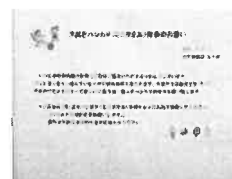
活動

<夏の生活に必要な事が分かる>

- ・夏の生活を快適に過ごすためにはどんな事が必要か、保育者と一緒に考える。
- ・看護師から汗についての話を聞き、汗が体の中でどんな役割をするのかを知る。

<夏の生活に必要な事を自分で気付いて行う>

- ・自分で気付いて、着替え、汗拭き、手洗いなどを自ら行う。



・看護師が、汗について話を
をする様子

・保護者に、汗拭きハンカチを依頼するおたより

援助のポイント

- ・イラストやペットボトルを活用し、話だけでなく、目で見て分かるようにする。（ペットボトルは、一日にかく汗の量を入れ視覚で分かるようにする。）
- ・汗が出ていることや暑さ涼しさを感じることができるよう、「暑いね。」「汗かいたね。」などと声を掛ける。
- ・汗拭きハンカチは、ポケットに入れるか、紐の付いていないポーチに入れるようにする。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・部屋

②用具・構成

- ・汗についてのイラスト、ペットボトル、ハンカチ

4 安全上の配慮

○暑さやのどの渇きについて、保育者から一人ひとりに声を掛ける。一方で、体の不調を自分から発信できないと重症化することが予想されるため、自分の体を守る事の大切さを知らせ、自ら行動し発信できるようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 汗が出たら自分で気づき、自分の汗拭きハンカチを使用してすぐに拭くことができるようになった。
- 汗をかいた衣類は、自ら気付いて着替えるようになった。
- 体の不調に自分で気付くことが大切だということが分かり、保育者に伝えることができるようになった。

6 家庭との連携

- 「汗拭きハンカチ持参について」のおたよりを家庭に配布し、ハンカチには記名のお願いをする。
- 看護師から子どもたちに行われた「健康の話」を保護者が動画で見ることができたり、保健だよりにして配布したりするなど、家庭でも話題にしてもらい、夏の生活に必要なことを親子で考える機会にする。
- 自分の力で生活をすすめることができるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守り励ましていくことで、子どもの意欲や自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅱ期（6月から9月上旬）「運動」【事例8】

見て見て！できるようになったよ！

1 遊びのねらい

○遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜縄を使って遊ぶ＞

- ・前跳び、後ろ跳び、走り跳びをする。
- ・縄の結び方を知り自分で結ぶ。（縄をウサギの形にして穴に通す）

＜棒登り（竹登り）をする＞

- ・目標の鈴などに向かって登る。

＜竹馬を使って遊ぶ＞

- ・様々な高さの竹馬から、自分で選んで遊ぶ。
- ・順番を待つための場所（マット）を、子どもが自分で用意する。

援助のポイント

- ・縄は回しやすいように新聞紙を利用して持ち手を長くする。
- ・転落防止のためのマット、滑り止め用の湿った足ふきタオルを準備する。
- ・棒登りは、使用しないときは「お休み」の意味の札を掛ける。
- ・1人ひとりの頑張りを、クラスみんなで認めていくことができるような雰囲気づくりをする。
- ・1人に1枚ずつ忍者カードを作り、縄跳びや棒のぼりなど挑戦したらシールを貼る。



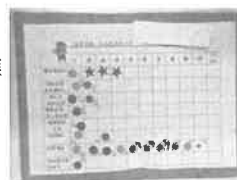
・新聞紙を利用して持ち手を長くする工夫



・縄を結ぶときの工夫（ウサギの形にして穴を通す）



・上に登るための目標の鈴が付いている棒



・忍者カード

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、公園

②用具・遊具

- ・縄跳び、竹、竹馬、マット、足ふきタオル

4 安全上の配慮

- 縄跳びでは、縄や子どもが他の子どもにぶつかることも予想されるので、広い空間で行うようにする。
- 棒登りは、落下するとけがをすることが予想されるため、下にマットを敷くとともに、保育者が必ず側について援助する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 忍者カードを使用することによって、自分の頑張りが目に見えることが嬉しくなり、積極的に取り組む子どもが増えた。成功体験から「もっとやりたい。」と子どもたちから催促したりするようになった。
- 成功したことが自信に繋がり、他の運動遊びにもすすんで取り組むようになった。
- 失敗を恐れたり、恥ずかしがったりして、初めてのことを躊躇する子どももいたが、やる気になるまで待ったり、友達から「頑張って。」などの声援を受けたりしたことで挑戦する姿が見られた。
- 誰かが前を横切って危険を感じたときに、「危ないよ。」などと子ども同士で声を掛け合っていた。子どもたちが自分で安全を考えながら運動遊びを行う姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 連絡帳や口頭、日々の掲示やおたよりなどで、それぞれの子どもがどのような様子で取り組んでいるのかを保護者に伝え子どもの成長に共感するとともに、園と家庭が一緒になって、子どもたちに励ましの言葉を掛けることで意欲につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「学びの芽生え」【事例9】

運動会 楽しかったね

1 遊びのねらい

○動きや体を意識した表現を楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜荒馬の踊りをしているところを表現する＞

作品の作り方

- ① 2人1組になり、運動会のときに演じた荒馬の踊りの決めポーズをして、その姿を紙に描く。
- ② 下書きを見ながら、鉛筆で体の部位を厚紙に描く。
- ③マジックで鉛筆の線をなぞり、絵の具で色を塗る。
- ④部位ごとにモールでつなげて、人体の形にする。
- ⑤できた作品をみんなで見て楽しむ。



・体の部位ごとに、マジックで線を描き、色を塗っている様子

援助のポイント

- ・顔の表情も、見たままに描くように伝える。
- ・体を描くことが難しい子どもには、体の部位を触りながら説明しイメージできるようにする。
- ・集中力が続きにくい子どもには、少人数ずつのグループで取り組むことができるようにする。
- ・仕上げのときは、保育者や友達と一緒に、体の動きや向きを確認して、イメージした通りに表現できるように部位をつなげる。



・荒馬の踊りの決めポーズをしている作品

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・保育室

②用具・遊具

・紙、鉛筆、厚紙、絵の具、モールなど

4 安全上の配慮

○針金が入っているモールは持って立ち歩くと他児にぶつかりけがをすることが予想されるため、座って作成したり、モールを持って立ち歩かないように知らせたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 体の動きや、顔の表情などの細かい部分にも着目して、楽しい思い出を絵で表現できるようになった。
- 子ども同士が互いに描き合うことで、丁寧に描いてもらえる喜びを感じ、相手にも同じように丁寧に描こうとする姿が見られた。
- できた作品を見ながら同じポーズをしたり、「足を曲げるところを作るのが難しかった。」などと、感想を言ったり、動きや体を意識した表現を楽しむ姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 体の動きを再現できるような人形を作成した活動のねらいや、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、子どもの成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。
- 作品展で踊りの場面を再現した壁面構成などを考え、人形の動きが活かされる掲示の仕方を工夫し、楽しかった思い出を表現した一人ひとりの作品を見せよう。さらに、子どもの努力を褒めてもらうことで、子どもは自信につなげ、自己肯定感が育まれることを伝える。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「人との関わり」【事例10】

笑ってくれたよ！うれしいなあ～

1 遊びのねらい

○自分の身近な人（高齢者、年下の子ども、地域の人など）との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜地域の人との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ＞

- ・年間何回か訪れている児童館の出前保育（地域の親子の支援活動）で、地域の親子に自分たちができるところを見せたり関わったりする。
- ・小さい子どもと関わる時の注意点を、自分たちで考えて確認し合う。
- ・自分よりも小さい子どもに優しく接するなどの思いやりの気持ちをもつ。



みんなで話し合ったこと

- ①ソーラン節を元気に踊って見せる。
- ②小さな子どもには、小さな声で優しく話し掛ける。
- ③ボールで遊ぶときは優しく転がす。
- ④「上手だね。」などと優しく話し掛ける。



・運動会で踊ったソーラン節を踊って、地域の親子に披露している様子

・小さい子どもと遊ぶときに、どのようなことに気を付ければよいのか、みんなでよい方法を考えている様子



・地域の子どもと、ボールを使って遊んでいる様子

援助のポイント

- ・事前の話し合いでは、初めて会う小さい子どもであることを意識して、どうすればいいかイメージできるようにする。
- ・相手の子どもの言葉や表情、行動に関心を向けることができるようにする。例えば、「相手の子どもがにこにこしていたら、喜んでいと思うから、もっと一緒に遊んであげようね。」「相手が困った表情をしたら、どうしたの？と、聞いてあげようね。」などと、具体的な対応策を助言する。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・地域の児童館。

②用具・遊具

- ・ボール

4 安全上の配慮

○小さな子どもと遊びたいという気持ちが高まり、はしゃいでけがをすることが予想されるため、むやみに興奮させず、保育者が落ち着いて優しく対応する姿を見せたり、上手に接している子どもを、「〇〇ちゃん、優しいね。」などと褒めたりする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 小さい子どもと関わることで、人見知りや泣かれたりして困る場面も経験しながら、相手を思いやる姿（頭を撫でる。どうしたの？と聞いてあげる。）を見ることができた。
- 泣いていた子どもが、次第に慣れてボール遊びができたことで、「嬉しい。」「可愛い。」という言葉が聞かれ、自分より小さい子どもへの思いやりの気持ちを育むことにつながった。
- 運動会で披露したソーラン節を地域の親子に披露し、拍手を受け喜んでもらったことで、達成感や満足感につながった。

6 家庭との連携

○クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子どもの成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「生活習慣」【事例11】

知りたい！食べ物のか

1 活動のねらい

○健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。

2 活動・援助のポイント

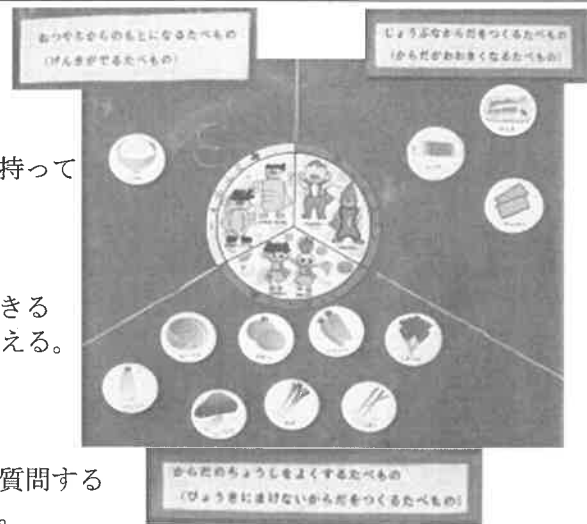
活動

<給食の食材について知る>

- ・毎日の給食に使われている食材に興味をもつ。
- ・いろいろな食材の特徴や自分たちの体への働きを知る。
- ・その日の給食の食材を切る前の大きさのままで見たり、手で持って重さを体験したりする。

援助のポイント

- ・様々な食材の体への作用を、子どもたちが理解することができるようにボードを使って説明し、表示に分かりやすい言葉を添える。
- ①肉や魚や玉子⇒丈夫な体をつくる⇒体が大きくなる。
- ②野菜⇒体の調子を良くする⇒病気に負けない体をつくる。
- ③ご飯やパンや麺⇒熱や力のもとになる⇒元気が出る。
- ・食べ物の栄養や働きについて、毎日の給食の献立を見ながら質問することで、楽しみながら興味を深めることができるようにする。



献立クイズの例

- ①問題「かぼちゃを食べると、体にどんなよいことがあるかな？」
答え「かぼちゃは野菜だね。野菜は病気に負けない体をつくるよ。」
- ②問題「サケはどんな栄養があるのかな？」
答え「サケは魚の仲間だね。魚や肉は私たちの体を大きくするよ。」

3色食品群のボード

- ・食べ物カードには磁石が付いていて、どこのグループに入るか正解したら貼りつけ、目で見て知ることができる工夫がされている様子

- ・調理前の食材を観察して、気付いたことや感じたことを友達と共有することができる時間を設定する。

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・保育室
- ②用具・構成
 - ・給食、3色食品群ボード
 - ・食物カード（磁石付）

4 安全上の配慮

- 実際の食材に触れる際には、乱暴に扱うと食材に傷がつき、不衛生になることが予想されるため、手洗いを済ませ、優しく触れるように伝える。

5 活動を通して育まれた姿

- 食材の栄養や働きに興味・関心をもち、調理前の食材の形や特徴、体への働きを知ることを楽しんだり、献立の質問にすすんで答えたりする姿が見られた。
- 食事中、友達と食材についての会話をしたり、体によいことを知りすすんで食べたりする姿が見られた。

6 家庭との連携

- 献立の質問や調理前の食材の観察をする子どもたちの様子を、お迎えの際に話したりおたよりにしたりして、家庭でも実践してもらおう。
- 3色食品群ボードや献立を実際に廊下に掲示し、お迎えの際に親子で見ながら、食べ物大切さや丈夫な体づくりなどについて話題にしてもらえるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅲ期（9月中旬から10月）「運動」【事例12】

最後までバトンをつなごう

1 遊びのねらい

○ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜自分の力を思い切り出す心地よさを味わう＞

- ・手を大きく振る、トラックを大回りして走らない等、速く走るためのコツを知り、やってみようとする。
- ・頑張っている友達のことを認めたり、友達に認められる喜びを感じたりする。

＜チームの友達と力や気持ちを合わせて取り組む＞

- ・バトンを用意したりチーム分けをしたりなど、みんなでリレーをするための準備をする。
- ・チームで作戦会議の時間を設け、どのようにしたら速く走ったり、上手くバトンを渡したりできるのか、子どもたちが考える機会をつくる。
- ・リレーに取り組む前に、「全力で走ろうね。」「反則負けしないように気を付けよう。」などと、チームで気持ちを高めようとする。
- ・チームの一員としての走順を意識できるように番号入りのビブスを着る。
- ・走っている友達のことを応援する。
- ・転んで走れなくなった友達に声を掛けたり手を差し伸べたりして、みんなでやろうという思いで取り組む。

リレーをするときの大事なこと

- ①全力で走る。
- ②一周走りきり、バトンを渡す。
- ③インコースから抜いてはいけない。
- ④反則負けしないように気を付ける。
- ⑤ゼッケンを着て走る。



・リレーで走っている様子



・転んだ友達を励ます様子

援助のポイント

- ・ルールは、最初から全て伝えるのではなく、子どもの姿を捉えて段階的に1つずつ提示し、子どもがポイントを意識して、力を発揮できるようにする。
- ・繰り返し取り組むようになってきたら、自信をもって自分の力を出せるように、一人ひとりの頑張りを、「○○ちゃん、最後まで一杯走ったね。」「バトンを渡すのが上手だったね。」などと具体的に言葉にして認める。
- ・勝敗を意識しながらも、諦めずに最後までバトンをつなぐことや、チームの仲間を応援することが大切であることを実感できるように励ます。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭 ・ホール ・近隣中学校の校庭

②用具・遊具

- ・ラインカー、カラーコーン、バトン、ゼッケン、ゴールテープ

4 安全上の配慮

- リレーをしているときにコースを横切ると衝突するすることが予想されるため、他の遊びの動線を配慮したり、他の保育者と連携を取ったりして、園全体で安全に気を付ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 繰り返し取り組む中で、走力や体力が遊びながら自然と伸び、運動面での育ちが感じられた。
- 積み重ねていく中で、体の動かし方を自分なりに意識したり、友達の頑張りがよさに気付いて声を掛け合ったりして、一人ひとりが自信を高めて取り組む姿が見られた。
- 勝つために必要なことを友達と話したり、負けたときに「次は頑張ろう。」と励まし合ったりして、チームの友達とのつながりを深める姿が見られた。

6 家庭との連携

- リレーは運動会の種目の一つである。取組の過程を降園の際に保護者に伝えることで、子どもの頑張りが成長への喜びを感じてもらおうと共に、園全体の大きな行事への期待を高める。
- 家庭でも体を動かす機会を増やすことで、力を発揮しやすくなることを伝え、園と家庭との両方で子どもの意欲を引き出せるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅳ期(11月から12月)「学びの芽生え」【事例13】

いい絵本ができたね！

1 遊びのねらい

- 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。
- 絵本や物語に親しみをもち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜絵本や物語に親しみをもち、自分たちの絵本を作る＞

- ・4～5人で1グループを作り、どんな絵本を作りたいか、登場人物や場所、物語の展開を保育者と一緒に話し合っ決めて。
- ・物語や絵の下書きする。
- ・画用紙に物語や絵を描く。
- ・完成した絵本を読み合い楽しむ。



・同じページを、みんな
で協力して、絵を描い
たり色を塗ったりし
て作成している様子

援助のポイント

- ・グループでの取組の中で一人ひとりが十分に自分のよさを発揮できるように、役割を分担するときには、「〇〇ちゃんは、人を描くことが上手だね。」「〇〇ちゃんは、色を丁寧に塗ることができるよね。」などとさりげなく助言して、自信をもって取り組めるようにする。
- ・互いの思いや考えの違いから上手く遊びが継続できない場面では、保育者が仲立ちとなって互いの言い分を出す機会をつくり解決策を見出すために援助する。



・できあがった絵本

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・保育室
- ②用具・遊具
 - ・画用紙、サインペン、色鉛筆

4 安全上の配慮

- 先のとがった鉛筆やサインペン、はさみなどを持ったまま立ち歩くとぶつかってけがをすることが予想されるため、作業を進めるときは座って行くことを伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 絵本や物語の表現について改めて興味を深め、親しみをもって見たり自分なりに読んだりする姿を見ることができた。
- 自分の意見を言葉で伝えたり相手の意見を聞いたりして、徐々にどうすればよいか考えをまとめられるようになってきた。
- 思い描いたイメージを友達と共有し、絵で表現できるようになってきた。
- 一つの目標に向けて、友達と協力して作り上げることの難しさと、できたときの嬉しさを感じ取る姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- 作成した絵本を保護者が目にするができる場所に展示し、できあがるまでの過程や子どもたちが経験した学びについて説明書きを作成して、共に掲示し理解が深まるようにする。
- グループの友達との活動を通して協同性が育まれ、そのことが小学校での生活や学習の基礎になることを伝え、自分の子どもだけでなくクラス全体の成長として喜んでもらえるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅳ期（11月から12月）「人との関わり」【事例14】

ドッジボール 大作戦！

1 遊びのねらい

○グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜ドッジボールを通して、クラスの友達と一緒に楽しむ＞

- ・自分たちで誘い合ってドッジボールを十分に楽しむ。
- ・近隣の保育園との6園交流ドッジボール大会に参加する。
- ・どうすれば大会で勝てるかについて、話し合う。

子どもたちから出された意見

- ①仲間同士でボールを取り合わない。
- ②ボールを持ったらずぐに投げる（パスするときも相手に当てるときも同様に）。
- ③外野にいる子どもは同じところに立たないで、ボールがどこに転がって来てもすぐにとって投げるができるようにする。



・子どもたちが、主体的にドッジボールをやろうと誘い合って楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・勝ち負けにこだわる気持ちから友達の行動を責めることがあるので、「じゃあ、どうしたらよいのかな？」などと質問を投げかけ、解決策を子どもたちから引き出すようにする。
- ・上手く言葉で表現することができない子どもがいたら「○○すればよいということかな？」などと分かりやすく言い換えたり少し言葉を足したりして思いを受け止め整理して伝えることができるようにする。
- ・何度も繰り返しドッジボールを楽しむ中で一人ひとりの成長や頑張りを認め合えるように、保育者が「○○ちゃん、投げ方が上手になったね。」「○○ちゃんは、ボールをよく見て逃げているね。」などと具体的な姿をみんなの前で言葉にして褒め自信につなげる。



・「こっちに投げて。」などと、作戦を考えて、声を掛け合っている様子

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・園庭、公園
- ②用具・遊具
 - ・ボール、ラインカー

4 安全上の配慮

- 外野にいる子どもがボールを追って走ることが予想されるため、ドッジボールコート周りには、危険なものが無いように事前に片付けて、安全で広い環境を整える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 「○○くんの球は強いよね。」などと友達を認め合う言葉が聞かれ、仲間意識が強くなった。
- 「仲間同士でボールを取り合わない。」「ボールを手にしたら、すぐに投げる。」などと、子どもたちが自分で気付いたことで、さっと譲り合ったりすぐにパスをしたりするなど、動きが素早くなった。

6 家庭との連携

- 共通の目的（ドッジボール大会に出て勝つこと）に向けて遊ぶ中で、単に勝ち負けではなく、友達と一緒に遊びを進める楽しさや友達によさに気付いて認める姿が育まれた。このことは、小学校での生活や学習の基礎になることを保護者に伝えるとともに、自分の子どもだけでなくクラス全体の取組を理解し、子どもたちを励ましてもらえるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅳ期(11月から12月)「生活習慣」【事例15】

バイキンさよなら、きれいに手洗い

1 活動のねらい

○健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して行動する。

2 活動・援助のポイント

活動

＜病気の予防に関心を持ち、手洗いの仕方を身に付ける＞

- ・見えない汚れが、手のどんなところに付いているか、その手で食事をするとどうなるのか、絵や写真で視覚的に見る。
- ・各自の手に手洗いチェッカー専用ローションをつけて、ブラックライトを当てて、見えない汚れを見る。
- ・手洗いをし、再度ブラックライトを当てて見えない汚れがきれいになったか確認する。
- ・洗い残った部分(指先、指の付け根、手首など)を知り、どのように洗うとよいか考えたり、教わったりしてもう一度洗う。



・見えない汚れについて看護師から話を聞いている様子



・ブラックライトの光に手を当てて、見えない汚れを確認し、もう一度丁寧に手を洗っている様子

援助のポイント

- ・汚い手で食事をするとどうなるか、分かりやすく絵や写真で示し話すようにする。
- ・ブラックライトを手に当てると、汚れが落ちていない部分が光るので、具体的にどの部分の汚れが落ちていないか、どうすれば汚れを落とせるか、一緒に考え気付けさせる。
- ・手洗いの大切さを知ること、子どもたちが丁寧に手洗いをすることを予想して、時間的な余裕をもって生活できるようにする。

3 環境の構成

①活動場所

- ・保育室、手洗い場

②用具・構成

- ・見えない汚れが付いている写真や絵
- ・ブラックライト
- ・手洗いチェッカー専用ローション、石鹸

4 安全上の配慮

- 手洗いチェッカー専用ローションの成分(グリセリン、ヘキシディングリコール、マカデミアナッツ油など)は、手洗いに安全な成分とされている。しかしローションが付いた手で目の周りを触ってしまうと、不快な影響が出る事が予測されるため、すぐ側で見守り顔を擦らないように声を掛けたり、汚れを見た後は速やかに洗うように促したりする。

5 活動を通して育まれた姿

- 手洗いの大切さを知り、病気にならないための意識をもつことができた。
- 丁寧に手洗いをするようになり、特に見えない汚れがついていた箇所(指の付け根、指先、手首等)を念入りに洗うようになった。

6 家庭との連携

- 保護者会などで、手洗い指導の体験(手洗いチェッカー専用ローションをつけて、ブラックライトを当てて、見えない汚れを見る)の機会をつくり、手洗いの大切さを伝える。
- 手洗い指導の様子を掲示やおたよりなどで知らせ、家庭でも親子で丁寧な手洗いを実践し、健康な生活について考える機会にしよう。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児Ⅳ期（11月から12月）「運動」【事例16】

何回跳べるかな？

1 遊びのねらい

○いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<短縄を跳ぶ>

- ・遊び歌「いろはにほへと」に合わせて、縄をくぐったり、またいだり、跳んだりする。
- ・保育者が縄を波やへびなどに見立てて揺らしながら、子どもは縄に触れないようにして跳ぶ。
- ・保育者が縄を持ってしゃがんで回転し、子どもは縄が来たタイミングで跳ぶ。
- ・自分で短縄を回して跳ぶ。（前回り、後ろ回りなど）

<大縄を跳ぶ>

- ・保育者が大縄を回し、子どもが跳んでみる。
- ・遊び歌「郵便屋さん」「誕生日」などに合わせて楽しみながら跳ぶ。
- ・自分が跳ぶ順番を待っている間でも、遊び歌に合わせて跳んでみる。



いろはにほへの遊び方

- ①保育者が二人で2本の縄を、両手に持つ。
- ②歌に合わせて縄を揺らしながら最後に手を止めて偶然できる縄の隙間をつくる。
- ③子どもは縄に触らないようにくぐる。

いろはにほへの歌詞

「いろはにほへと 上下真ん中 どーれだ。」

誕生日の歌詞

「誕生日 おめでとう 今何歳 1歳、2歳、3歳…（と続く）。」

郵便屋さんの歌詞

「郵便屋さん 落し物 拾ってあげましょう 1枚、2枚…（と続く）。」「ありがとさん。」

援助のポイント

- ・縄に親しみ、体を動かすことが楽しいと感じられるように、くぐる、またぐなど、一人ひとりに合った動きから始め、徐々に跳ぶ動作ができるようにする。
- ・遊び歌は回数を数える曲が多い。跳ぶことができた回数を具体的にイメージできるように、「○回も跳ぶことができたね。」などと言葉を掛け、もっと跳んでみたいと思えるようにする。
- ・順番を待つ間も遊び歌に合わせて跳ぶと、タイミングがつかめて上達することを伝える。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・公園、園庭
- ②用具・遊具
 - ・短縄、大縄

4 安全上の配慮

- 縄跳びは、周りの子どもに縄があたるとけがをすることが予想されるため、十分なスペースを確保する。
- 縄跳びを使った後、地面に置いておくと、子どもの足が絡んで転ぶことが予想されるため、必ず決められた場所に片付けるように知らせる。

5 遊びを通して育まれた姿

- もっと跳べるようになりたいと、自分からすすんで取り組む姿が見られた。
- 友達が跳んでいるときも待っている場所で一緒に跳ぶと、自然と楽しく体を動かすことにつながった。
- 友達が跳ぶ数を数えたり、応援したりする姿が見られた。
- 遊び歌「いろはにほへと」は子どもたちが縄を持ってできるので、自発的に誘い合って楽しんでいた。

6 家庭との連携

- 運動全てに通じることだが、特に縄跳びでは足に合った靴が大切になる。子どもの足に合った適切な靴を用意してもらえるように、保護者会などで伝えたり個別に伝えたりする。
- 子どもたちがすすんで取り組む姿や少しずつ上達していく様子を、口頭で伝えたり写真を掲示したりして知らせ、保護者にも励ましてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児V期（1月から3月）「学びの芽生え」【事例17】

みんなの気持ちを合わせよう

1 遊びのねらい

○みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜みんなで一緒に歌ったり楽器を演奏したりして遊ぶ＞

- ・いろいろな曲を聴いたり、歌ったりして楽しむ。
- ・いろいろな楽器に親しむ。
(ハンドベル、鈴、タンバリン、木琴など)
※様々な楽器に触れ、音を出してみる。
- ・自分たちが歌いながら、いろいろな楽器を演奏してみる。
- ・クラスの友達や、他のクラスの子どもたちと一緒に全員で歌ったり、楽器を鳴らしたりする姿を披露し、気持ちを合わせる様子を伝えることができるようにする。



・いろいろな楽器に触れて、どのような音が出るのか楽しんでいる様子



・友達と一緒に気持ちを合わせて歌を歌っている様子

援助のポイント

- ・音楽が楽しいと感じることができるように、普段から様々な歌を歌ったり聴いたりする機会をつくる。
- ・大きな声とどなる声は違うことを伝え、聴いている人が心地よく感じるにはどのように歌えばよいのかみんなで話し合う。
- ・みんなで気持ちを合わせて歌ったり、簡単な曲で楽器を演奏したりする楽しい経験を重ねて、年度末の園行事などで自信をもってみんなに見てもらいたいという気持ちの高まりにつなげる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・ホール、部屋

②用具・遊具

- ・楽器

4 安全上の配慮

○楽器の中でばちを使うものは、振り回すと周りの子どもがけがをすることが予想されるため、正しい使い方を伝える。また、使わない机を端に寄せて広く使える環境を整える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 友達と気持ちを合わせて好きな歌を歌ったり、楽器を演奏したりすることに取り組む楽しさを味わう姿を見ることができた。
- 園の行事などでみんなで歌ったり、楽器を使って楽しく表現したりする機会では、見てもらった人から拍手をもらう喜びを感じていた。

6 家庭との連携

- 普段から、様々な歌を歌ったり聴いたりしている様子を掲示物やおたよりで伝え、音楽を楽しむ自由に表現する力が育まれ成長していることを共感するとともに、小学校でも活かされる力であることを伝えることで保護者の安心感と期待につなげる。
- 目的に向かってみんなが協力して取り組む中で一人ひとりの頑張る姿を、保護者から認めて褒めてもらうことで、子どもの自信となり自己肯定感につながることを伝え実践してもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児V期（1月から3月）「人との関わり」【事例18】

みんなで育てたお米 おいしいね！

1 遊びのねらい

○共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜米を育てて4歳児と一緒に食べる＞

5歳児クラスの恒例の活動

- ①春に園庭の一部に田んぼを作る。
 - ・自分たちで泥と土や砂の違いについて図鑑で調べてみる。
 - ・いつも成長や田んぼの様子が分かり世話ができるように、身近な場所に田んぼを設定する。
- ②田植えをする。
 - ・水やりや田んぼにメダカを放ってボウフラなどを食べてもらうなど、稲が育つ環境の大切さを学ぶ。
 - ・稲の生長の段階で変化に気付いたり稲の穂を発見したりしたときはみんなで報告し合う。
- ③稲を刈る。
- ④脱穀、精米をする。
- ⑤ご飯を炊いておにぎりにして食べる。



・みんなで苗を植えたりメダカを放ったりして田んぼの環境を整えている様子



・収穫した米をすり鉢に入れ、野球のボールを押し付けて脱穀している様子



・中が見える強化ガラスの鍋で米がぐるぐると動いたり炊ける匂いを嗅いだりしている様子



・少しだけ塩を振ったおにぎりを作って食べている様子（4歳児クラスにもごちそうした。）

援助のポイント

・友達と互いのよさを生かし合いながら、試したり、発見したり、考えたりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を十分に味わうことができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

・園庭、保育室

②用具・遊具

・苗、プランター、土、すり鉢、野球のボール、鍋

4 安全上の配慮

○プランターに苗を植えた後は水を張るが、少しの水であっても乳児が近付いて思わぬ事故につながる事が予想されるため、ネットなどを掛けて防止する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 稲の成長の様子を観察しながら、その変化していく様子に気付き、「どうして?」「どのように?」などと疑問を抱いたり、もっと知りたいという探求心が芽生えたりしている様子を見ることができた。
- たくさんの工程を経て自分たちが育てた米の収穫を喜び合い、それを炊いておにぎりを作り食べることで、4歳児クラスにもごちそうすることができたことに達成感を感じていた。

6 家庭との連携

- みんなでお米を育てるといった共通の目的を通して、探究心や責任感、見通しをもつ力などが育まれたことを保護者会やおたよりなどで保護者に伝え、子どもの成長を共に喜び合うとともに、小学校での学習や生活をする力になることを知らせ安心感につなげる。
- 育てた米を食べることができた経験を通して、みんなで力を合わせた結果だということを保護者に褒めてもらい、その達成感を就学に向けての子どもたちの自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児V期（1月から3月）「生活習慣」【事例19】

右を見て、左を見て

1 活動のねらい

○交通ルールが分かり、守って行動する。

2 活動・援助のポイント

活動

<交通ルールを知り守って行動する>

- ・道路を歩くときは、車に気を付けて歩道を歩く。
- ・横断歩道では左右を確認してから手を挙げて渡る。
- ・様々な場面で安全に行動しようとする。



<警察の実地指導を受ける>

- ・警察官と一緒に公道を歩く。
- ・就学に向けて一人で歩くことを想定し、危険な場所や安全な行動の仕方を教わる。

・警察の指導を受けながら横断歩道を渡る様子

・実地指導の後に集会をして、交通安全について話を聞く様子

援助のポイント

- ・曲がり角は見通しが悪いので、左右をよく確認することや、車を運転する人からよく見えるように手を挙げて渡ることなど、行動と共に交通ルールを守る理由を一緒に知らせて、納得して行動できるようにする。
- ・「車が来ないかよく見ようね。」「右を見て左を見て、もう一度右を見て安全だったら手を挙げて渡ろう。」などと具体的な言葉を掛けてすぐに行動できるようにする。
- ・子どもと歩く道のは事前把握し、危険な場所（車が多く通る道など）と、子どもが自分で気付いてほしい危険箇所（電柱、塀、触ってはいけないものなど）を確認する。

3 環境の構成

- ①活動の場所
 - ・園外の公道
- ②用具・構成
 - ・特になし

4 安全上の配慮

- 子どもたちが集団で道路を歩くときは、注意が散漫になり危険を伴うことが予想されるため、保育者は車道側を歩いて常に周囲の状況に気を配り、子どもたちに「車が来ていますよ。どうしますか？」などと言葉を掛け、回避する方法を確認させる。

5 活動を通して育まれた姿

- 小学校への就学の期待もあり、安全に歩く意識をもって交通ルールを守りながら動く姿が見られた。
- 「この曲がり角は車が見えにくい。」「塀がチクチクしていて危ないね。」などと自分たちで危険な箇所を探しながら歩き、安全への意識が高まった。

6 家庭との連携

- 警察に教わったことを家庭でも意識して取り組めるように、内容を掲示物やおたよりにまとめて伝える。
- 入学前に学校までの通学路を親子で一緒に歩き、危険な個所と歩き方を認識することを提案し、子どもが自信をもって安全に通学できるようにする。
- 保護者会などで小学校の生活（通学路の情報も含む。）や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児V期(1月から3月)「運動」【事例20】

力を合わせて 頑張るぞ！

1 遊びのねらい

○友達と積極的に体を動かす運動遊びに取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。

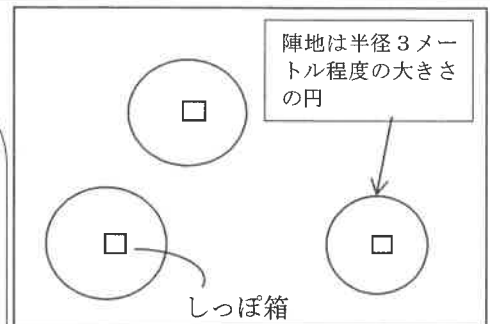
2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<チーム対抗しっぽ取りを楽しむ>

チーム対抗しっぽ取りのルール

- ①自分たちでポリエチレンテープを三つ編みにしてしっぽを作る。
 - ②青・黄・赤の3チームに分かれ、自分のチームの色のしっぽをつける。1本1点。
 - ③金色のしっぽは3チームそれぞれに2本ずつ。1本10点。
 - ④スタートの合図で他のチームの友達のしっぽを取り、終了の合図のときに点数が多かったチームの勝ち。
- ※自分のしっぽを取られたら自分のチームの陣地にあるしっぽ箱から新しいしっぽを取り付け、また参加できる。
- ※他のチームの陣地には入らない。
- ※陣地の外から陣地の中にいる人のしっぽを取ってもよい。
- ※友達を引っ張ったり押さえたりしてしっぽを取らない。



・子どもたちがポリエチレンテープを三つ編みして作ったしっぽの様子

援助のポイント

- ・準備のときに子どもたちとラインをひき、徐々に子どもだけでラインを引くことができるようにする。
- ・初めは簡単なルールにして、子どもたちが遊ぶ中で新しいルールを考えることができるようにする。
- ・新しいルールを考えた子どもたちはみんなの前で発表し、ルールに加えるかどうか子ども全員で話し合いをして決めるようにする。さらに、実際に新しいルールを試してみてもう良かったか意見を聞く機会をつくり、ルールが一層工夫されるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭、ホール

②用具・遊具

- ・しっぽ、しっぽ箱、ラインカー

4 安全上の配慮

○友達とぶつかりけがにつながることを予想されるため、広い場所で陣地と陣地の間隔をとり、子どもたちが衝突しないようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 遊びをもっと楽しくするためにはどうしたらよいか子どもたち同士で考え、新しいルールが増えたことを喜び、ルールを守りながら遊びを楽しむ姿を見ることができた。
- 金色の10点しっぽは取りにくいように短く作ったり、金色のしっぽをつけている人はしっぽを取るよりも逃げることに集中するようになりなど、工夫して遊ぶ姿が見られた。

6 家庭との連携

○友達と一緒に三つ編みを教え合いながらしっぽを作る様子、体を動かしてみんなで競い合っ遊ぶ様子、ルールを子どもたちで決めていく様子などを、おたよりや掲示物で保護者に伝え成長を共感する。さらに、子どもたちが主体的に取り組む力は、小学校に入学してからも活かされていく大切なものであることを伝え、保護者の期待感につなげるとともに、家庭でも子どもを励まし褒めてもらい意欲を高める。

3・4・5歳児
夏季保育
事例

(1) 3・4・5歳児 夏季保育（7月下旬から8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことを見付けたり、夏の自然に関わったりして、十分に遊びを楽しむ。 ・いろいろな友達との関わりの中で、自分の思いを表して遊ぶ。 ・夏の生活の仕方が分かり、安定して過ごす。
配 慮 点	<p style="text-align: center;">学びの芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。【事例1】【事例5】 ・保育者もモデルとなって一緒に遊びながら、色や泡の変化の面白さや、水を使って遊ぶ楽しさを感じさせていく。また、子どもが色や泡の変化に気付いたり、色が出る草花を発見したりすることに共感し、興味や関心をもって考えたり試したりしながら、繰り返し楽しめるようにする。【事例9】 ・夏に実なる植物を自分たちで世話をすることで、生長や収穫を楽しみにできるようにする。 ・カブトムシやザリガニなど手に持って触れることのできる生き物を飼育することを通して、生き物への親しみや、興味や関心をもてるようにする。 ・カブトムシやズムシなど夏から初秋にかけて成虫になる昆虫を飼育して親しみ、変化に気付いたり図鑑などで調べたりしながら、興味や関心、探究心をもてるようにしていく。 ・年上の子どもがしている遊びを見てまねたり、年下の子どもに遊びを教えたりしながら、遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見えるような場の工夫をする。 ・家庭や地域での経験を、遊びに取り入れて楽しめるようにする。
	<p style="text-align: center;">人との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園状況により、友達関係が変わったり、様々な保育者と関わるが増えたりするため、子ども一人ひとりの気持ちを受け止め、自分の思いを出しながら安定して過ごせるようにする。 ・夏の時期にも、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じるような活動を取り入れていく。 ・一緒に生活する中で、様々な友達との自然な交流を見守るとともに、時には保育者が一緒に関わりながら、遊びのルールや考え方の調整をし、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。【事例6】 ・異年齢の子ども同士が関わることを、今までとは違う相手への関わり方を学んだり、年上の子どもへの憧れを育んだりする機会を捉えて援助する。【事例2】【事例10】
	<p style="text-align: center;">生活習慣・運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の視診を丁寧に行い、健康面に留意する。 ・暑さのために体調を崩したり食欲が落ちたりするので、1日の生活の流れに余裕をもって設定し、一人ひとりが安定できるようにゆとりと過ごせる環境を整えていく。【事例7】 ・午睡の時間を十分にとるなど、体を休めることができるような時間と場を工夫する。 ・室内外の温度差から体調を崩すことがあるので、室内の温度調整に配慮する。 ・こまめに水分補給をするように声を掛ける。 ・プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさを感じられるようにする。【事例4】【事例8】 ・光化学スモッグなどで戸外に出られない日もあるため、室内でも巧技台を使ってアスレチックをするなど、体を動かす楽しさを感じられるようにする。【事例12】 ・栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心を持ち、友達と一緒に食べる喜びを感じることができるようにする。【事例3】【事例11】

〈異年齢児と一緒に生活する上での配慮点〉

- ・3歳児の状況に応じて、遊びの場を区切ったり、4・5歳児と別の保育室を生活の拠点にしたりするなど、一人ひとりの遊びや生活のペースを大切にしておこなうように配慮する。
- ・同じ遊びや活動の中でも、3歳児、4歳児、5歳児それぞれに応じた必要な経験ができるように援助する。保育者がどの子どもにも適切に対応できるように、連絡を密に行う。

〈3歳児 指導例〉

- ☆学びの芽生え「ジュース屋さんになろう」【事例1】
- ☆生活習慣「大きくなったら食べようね!」【事例3】
- ☆人との関わり「わくわくリズム」【事例2】
- ☆運動「ドキドキ楽しい プール遊び」【事例4】

〈4歳児 指導例〉

- ☆学びの芽生え「あわあわ もこもこ」【事例5】
- ☆生活習慣「暑さなんかには負けないぞ!」【事例7】
- ☆人との関わり「いらっしやいませー!」【事例6】
- ☆運動「魔法の水で 大変身」【事例8】

〈5歳児 指導例〉

- ☆学びの芽生え「どんな色ができるかな?」【事例9】
- ☆生活習慣「みんなで作って食べて おいしいね」【事例11】
- ☆人との関わり「一緒にやろう」【事例10】
- ☆運動「作って遊ぼう サーキット!」【事例12】

〈家庭との連携〉

- ・食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、十分に休息を取り、食事や睡眠のリズムを整えてもらう。
- ・プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子どもの健康状態を把握して、安全にプール遊びができるようにする。
- ・夏にかかりやすい伝染病の症状や熱中症の予防や対応など、夏の健康な生活に必要な情報を伝える。
- ・夏季保育ならではの経験（夏の遊び、自然との関わり、友達関係の広がりなど）や、そこで見られる子どものよさを具体的な姿を通して伝えていく。

(2) 実践事例

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児夏季保育（7月下旬から8月）「学びの芽生え」【事例1】

ジュース屋さんになろう

1 遊びのねらい

○色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<草花で色水を楽しむ>

- ・ビニール袋に、園庭の草花を入れて、ビニールの上から指先を使ってもんだり、袋から出して石ですり潰したり、すり鉢ですったりする。
- ・つぶした草花と水をビニール袋の中に入れる。
- ・コップやカップに注いで、ジュースに見立てて遊ぶ。

<絵具で色水遊びを楽しむ>

- ・たらいに水を入れ、絵具を溶いて色水をつくる。
- ・たらいから様々な入れ物に色水をいれる。
- ・色水を混ぜて、ジュースに見立てて遊ぶ。

援助のポイント

- ・どのようにして遊んだらよいか分からない子どもには、目の前で、実際にやって見せて興味を引き、やってみようとする気持ちを高める。
- ・いろいろな用具（ビニール袋、すり鉢、器など）を準備して、子どもたちが考えて試すことができるようにする。
- ・色が出にくい草花があることや、色水を混ぜてできた新しい色の発見に、保育者も共感し、子どもが主体的に遊びを広げる様子を見守る。
- ・ごっこ遊び（ジュース屋さんごっこ）に展開することを予想して、白いテーブルやジュースの入れ物などを準備する。



・草花をすり潰して、色水を作り、ジュースに見立てて遊んでいる様子



・様々な絵具で色水を作り、色水を混ぜて、新しい色を見つけて遊んでいる様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・園庭

②用具・遊具

- ・ビニール袋、すり鉢、たらい、絵具、カップ、スポイト、空の容器、テーブル（コンテナ）

4 安全上の配慮

- 外気温が高い中で夢中になって遊び熱中症になることが予想されるため、場所を木陰に設定したり、帽子を着用させたり、水分補給をこまめに行なう。
- ジュースに見立てることで誤飲することが予想されるため、必ず側で見守り飲まないように声を掛ける。

5 遊びを通して育まれた姿

- 子どもたちが、自らの手でいろいろな植物の葉や花びらを採集して、「これは何色になるのかな。」などと想像しながら、次々にジュース作りに挑戦していた。
- 葉を指先でもんでみるが、なかなか色が出ないときに、「全然出ないよ。」などと悔しい気持ちを体験していた。その後すり鉢を使って擦ると、ようやく色が出て、「見て、少し緑色になった。」と、成功を喜んでいた。
- 「リンゴジュース。」「オレンジジュース。」などと言ってテーブルに並べ、ごっこ遊びを楽しむことができた。

6 家庭との連携

- 色水遊びで子どもたちが楽しんでいる様子や、試した草花などを写真や実物を展示して見せ、子どもたちがこの遊びを通して色の変化に気付いたりこうしてみようとしてみたりすることで、学びの芽生えが育まれていることを伝える。さらにその姿を保護者に褒めてもらうことで、子どもたちが自信をもち自己肯定感につながるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児夏季保育（7月下旬から8月）「人との関わり」【事例2】

わくわくりズム

1 遊びのねらい

○異年齢の子ども同士が関わることを、今までとは違う相手への関わり方を学んだり、年上の子どもへの憧れを育んだりする機会ととらえて援助する。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜音楽に合わせて身体を動かすことを楽しむ＞

- ・3歳児、4歳児、5歳児が合同でリズム遊びを楽しむ。
- ・ピアノの音楽に合わせてリズム遊びをする。
- ・事前に決めていた3人組（異年齢で3人組を決めておく）になり、リズム遊びを楽しむ。

リズム遊びの音楽の例

「ウサギ」「カメ」「ウマ」「ことりことり」「糸車」
「兄弟すずめ」「こま」など



「兄弟すずめ」

- ・5歳児、4歳児、3歳児の順番で並び、曲に合わせて動いて遊ぶ様子

「糸車」

- ・みんなで手をつなぎ、歌ったり、回ったり、集まったり、広がったりして遊ぶ様子

「ことりことり」

- ・4歳児と5歳児が鳥かごを作り、3歳児が曲に合わせて他の鳥かごに移動して遊ぶ様子

援助のポイント

- ・待機しているときには、動いている子どもの姿を見ながら、「○○ちゃんは足がピンとしているね。」などと、他の年齢の子どもたちの上手な動きに興味をもてるように声を掛ける。
- ・異年齢のグループで動く曲では、3歳児が不安にならないように一人ひとり見守り、分からないことは4歳児や5歳児に聞くように促し、異年齢同士が関わる機会にする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・広い場所（ホール、園庭など）

②用具・遊具

- ・ピアノ

4 安全上の配慮

○待機しているときは、足を出していると動いている子どもに踏まれてけがをすることが予想されるため、三角座り（体育座り）をするように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 年齢が上のクラスの子どもの動く様子を見ることで、よい刺激を受けてまねをしながら動いていた。
- 「大きくなったら兄弟すずめの先頭ができるんだ。」などと、憧れや期待が感じられた。
- 3歳児は、異年齢で関わる場面を通して、年齢が上の子どもにリードしてもらったり甘えて頼ったりなどと、4歳児や5歳児に対する信頼が育まれた。

6 家庭との連携

- 同じグループの4歳児や5歳児の子どもとどのように関わり合っているのかを、おたよりなどに記載することで、異年齢児との信頼関係が育まれていることを伝え、園の取組を理解してもらう。
- 運動会や保育参観などを通じて、実際に異年齢と一緒にリズム遊びをする様子を見てもらい、子どもたちの楽しむ表情や姿を伝え安心してもらうとともに、頑張る姿を褒めてもらい自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児夏季保育（7月下旬から8月）「生活習慣」【事例3】

大きくなったら食べようね！

1 活動のねらい

○栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心を持ち、友達と一緒に食べる楽しみを感じることができるようにする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜夏野菜を育てる楽しさを知り、夏野菜に興味をもつ＞

- ・毎朝子どもたちが、ミニトマトやきゅうりにジョウロで水をやる。
- ・食べ頃になったら、みんなで収穫して調理室に持っていく。

＜収穫した野菜を、みんなで食べる＞

- ・給食やおやつのときに、収穫した野菜を調理してもらって食べる。



・ミニトマトに水をやっている様子

・赤くなったミニトマトを手で優しく握って収穫している様子

援助のポイント

- ・「どんな匂いがする？」「どんな色かな？」などと声を掛けて、食べ物に興味や関心をもたせる。
- ・「ミニトマトが赤くなったら食べようね。」などと、具体的にミニトマトの収穫時期を知らせ、水をやるときに何色になったか楽しみにできるようにする。
- ・収穫するときや食べるときは、「みんなで育てたからおいしいよね。」などと、これまでの取組を振り返りながら共感し、野菜が苦手な子どもが食べてみようという気持ちになることができるような言葉を掛ける。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・園庭の畑、保育室

②用具・構成

- ・ジョウロ、収穫物を入れる物

4 安全上の配慮

- ミニトマトは、0歳児から2歳児が口に入れると、喉に詰まらせてしまうことが予想されるため、畑で育てるときは囲いをするなどして、0歳児から2歳児が触ることができないような工夫をする。

5 活動を通して育まれた姿

- 少しずつ大きくなったり色が変わったりするミニトマトやきゅうりに興味を持ち、子どもが積極的に畑に行き水をやり、夏野菜を育てる楽しさを感じていた。
- 「きゅうりが太くなってきたよ。」「ミニトマトはまだ緑色だから採っちゃだめだよ。」などと、収穫への期待感が高まった。
- みんなで育てたという喜びを感じ、ミニトマトやきゅうりを食べるのが苦手だった子どもが、自分から食べようとしていた。

6 家庭との連携

- 保護者に実際に畑のミニトマトやきゅうりを目で見てもらい、「お水をあげたの？」「大きくなったね。」などと、子どもたちの頑張りを認め褒めてもらうことで活動の意欲につながる。
- 夏野菜を育てて収穫して食べるという夏ならではの経験を通して子どもたちが成長している様子を口頭や連絡帳などで伝え保護者と共感するとともに、「どんな味がしたか聞いてみてください。」などと具体的に投げかけて、親子の楽しい会話につながるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
3歳児夏季保育（7月下旬から8月）「運動」【事例4】

ドキドキ楽しい プール遊び

1 遊びのねらい

○プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさが感じられるようにする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜保育者と一緒にプールに入り、水に慣れる＞

- ・入水する前に、十分に準備体操をする。
- ・順番にプールに入水し、水に慣れる。（腕、肩、顔、頭の順番で子どもが自分の手で自分に水を掛ける。）

＜水掛けごっこをして楽しむ＞

- ・2つのグループ（男の子と女の子、左側と右側など）に分かれる。
- ・保育者の合図に合わせて、手で水をすくって相手に掛けたり、手や足をバタバタと動かして、水しぶきを立てて、相手に水を掛けたりする。

＜水遊びの遊具を使って楽しむ＞

- ・水鉄砲、ペットボトルなどを使って、水に触れて遊ぶ楽しさを味わう。



・プールに入水し、保育者の指示を聞いている様子

援助のポイント

- ・プール遊びの約束（プールの周りは濡れているので走らない、プールに入るときは決められた位置から入水する、プールの中では友達を押したりぶつかったりしないように気を付ける、保育者の指示をしっかりと聞くなど）を事前に絵や写真などを準備して視覚的に伝える。
- ・幼児用プールに入ることが初めての経験になるので、水が怖いという印象を残さないよう、一人ひとりの様子を見て、「大丈夫かな。」「気持ちがいいね。」などと安心するような言葉を掛ける。
- ・水が顔にかかるのが苦手な子どもや怖がっている子どもは、プールの端に移動させる。
- ・水遊びの遊具は、数に限りがあるので順番で使うよう声を掛ける。



・水に慣れ肩まで水に入って楽しんでいる様子

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・プール

②用具・遊具

- ・ペットボトル、水遊び遊具

4 安全上の配慮

- 子どもが不意に溺れることが予想されるため、複数の保育者が声を掛けながら連携し、プールの中とプールの周りに立ち、細心の注意を払い常に一人ひとりの様子を見守り、すぐに対応できるようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 準備体操の大切さに気付き、子どもから「先生、体操しよう。」という声があがるようになった。
- 水掛けごっこでグループ対戦をしたことにより、子ども同士の仲間意識がより一層高まった。
- 徐々に水に触れ親しんだことで、プール遊び以外の水遊びにも興味が増した。

6 家庭との連携

- プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子どもの健康状態を把握して安全にプール遊びができるようにする。
- プール遊びに消極的な子どもの家庭には、水遊びの遊具を使って自由に楽しんだり、水を掛け合ったりして遊ぶことを通して、徐々に水に慣れている姿を具体的に伝え安心してもらうとともに、子どもを頑張る姿を褒めてもらい自信につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児夏季保育（7月下旬から8月）「学びの芽生え」【事例5】

あわあわ もこもこ

1 遊びのねらい

○色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜泡を作って、ごっこ遊びを楽しむ＞

- ・固形石鹸をおろし金で削る。
- ・ボールに削った石鹸と水を少量入れて、泡立て器でホイップする。
- ・好きな色で着色する。（絵具、食紅などを少量入れる。）
- ・スポンジをカップや皿に載せ、スプーンや絞り器で飾り付けを楽しむ。
- ・ケーキ屋さんごっこなど、遊びを広げて楽しむ。

泡を使った遊び方の例

- ・ケーキ屋さん・パン屋さん
- ・アイスクリーム屋さん
- ・ドーナツ屋さん など



・石鹸を削っている様子



・泡立て器でふわふわにしている様子



・絞り器に入れて飾りつけている様子



・おいしそうなケーキが並ぶケーキ屋さん

援助のポイント

- ・ホイップをするときに、「どんなケーキを作ろうか?」「おいしそうだね。」「ケーキ屋さんごっこもやりたいね。」などの声を掛けながら、イメージを膨らませることができるようにする。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内または屋内

②用具・遊具

- ・ボール、泡立て器、石鹸、ネットなど
- ・絵具、食紅、スポンジ、紙皿など

4 安全上の配慮

- 石鹸を触った手で目の周りを触ると、目が痛くなることが予想されるため、事前に目の周りを触らないように知らせる。それでも触った場合は、速やかに拭き取ったり、洗眼したりするなどの処置をする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 石鹸を削る、泡立てる、飾るというそれぞれの工程を、子どもたちが分担して楽しんでいった。
- 道具の数は多くはなかったが、「次に貸して。」「いいよ。」とやり取りしながら、遊びの中で自然と順番を待つことの大切さに気付いていた。
- みんなで作ったものを次々と並べることにより、イメージがいろいろと膨らみ、集中して遊ぶ子どもの姿を見ることができた。

6 家庭との連携

- できた作品をお迎えの際に展示して保護者に実際に見せ、どのように作ったのかを子どもから聞いてもらうように声を掛ける。その際に各自が工夫したところを褒めてもらうことが自信となり次の活動への意欲につながることを伝え実践してもらう。
- この遊びを通して子どもが考えたり試したり、上手くできたりできなかったりしながらも、多くのことを学び成長していることを伝え、園の取組に理解を深めてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児夏季保育（7月下旬から8月）「人との関わり」【事例6】

いらっしゃいませー！

1 遊びのねらい

○一緒に生活する中で、様々な友達との自然な交流を見守るとともに、時には保育者が一緒に関わりながら、遊びのルールや考え方の調整をし、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜お店屋さんごっこを楽しむ＞

- ・子どもたちがこれまでに作ったものを並べて、どのようなお店屋さんごっこをするかみんなで考える。
- ・お店屋さんに分かれて、品物を並べたり、足りない物があつたらみんなで作ったりする。
（夏季保育で一緒に過ごしている5歳児にも、一緒に準備を手伝ってもらおう。）
- ・お店屋さんの準備が整ったら、お店屋さんとお客さんに分かれてやり取りを楽しむ。

お客さん役



・手裏剣のお店で「いらっしゃいませ。」「これください。」などと、やり取りしている様子

お店屋さん役

お店屋さん役



・「どのケーキにしますか？」などと、お客さんに聞いている様子

お客さん役

援助のポイント

- ・4月以降、これまで制作してきた品物を保管しておき、一定の量に達したら子どもたちに見せ、「こんなにたくさん作ったね。」「これを使って遊ぼうか。」などと、ごっこ遊びへ展開するきっかけをつくる。
- ・どんなお店にするのか、お店屋さんとお客さんの役をどうするのか、お金に見立てた紙やチケットをどうするのかなどのルールを、子どもたちと一緒に相談する。
- ・お客さんが分かりやすいように、店の場所を区切るように配置する。
- ・「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」だけでなく、やり取りが一層楽しくなるように、「こうやって遊ぶんですよ。」「〇〇味のケーキですよ。」などと具体的な説明の言葉を使うことを知らせる。

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・室内

②用具・遊具

- ・制作した作品、テーブル

4 安全上の配慮

- ハサミを使って制作をするときは、間違った使い方をするとけがをすることが予想されるため、正しい使い方を絵などで示して伝えるとともに、側で見守り確認する。

5 遊びを通して育まれた姿

- 5歳児と協力をしながら準備したので、作り方ややり取りの工夫などを知り、制作や役割を試していた。
- 3歳児も参加したことで、自分より小さい子に教えてあげようとする姿を見ることができた。
- お店屋さんごっこならではのやり取りを楽しみ、自分が作った物を買ってもらう喜びを感じていた。

6 家庭との連携

- 子どもが買った品物を実際に見せて、「どのようにやり取りして購入したのか聞いてみてください。」などと保護者に投げかけ、「上手に言えたね。」などと褒めてもらい自信につなげる。
- お店屋さんごっこで交わされた言葉ややり取りの様子を、連絡帳やおたよりに記載したり、動画で撮って保護者会や保育参観などで保護者に見せたりする機会をつくり子どもたちの成長を共感するとともに、家庭でも子どもとのやり取りを大切にもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児夏季保育（7月下旬から8月）「生活習慣」【事例7】

夏の過ごし方を知ろう

1 活動のねらい

○暑さのために体調を崩したり食欲が落ちたりするので、1日の生活の流れに余裕をもって設定し、一人ひとりが安定できるようゆっくり過ごせる環境を整えていく。

2 活動・援助のポイント

活動

＜夏の過ごし方を知る＞

・看護師から、暑い夏を過ごす方法を聞き、自分でできることをやってみる。



・絵カードを見せて「このようなときはどうすればいいかな？」と質問をしている様子

熱中症対策の絵本の紹介

「どうしてねっちゅうしょうになるの？」
出版：金の星社
監修：清水直樹・清水さゆり
絵：せべまさゆき

援助のポイント

- ・事前に看護師と相談し、子どもたちに伝えたい内容を共通認識する。（外に出るときは帽子を被る、水分補給をこまめに行う、頭が痛くなったりお腹が痛くなったりしたら、すぐに大人に伝えるなど。）
- ・子どもの座る場所から紙芝居や絵カードがよく見える様に半円型に椅子を設定する。
- ・この活動以降も、どんなときに水分補給や休憩をすればよいのか、日々の生活の中で伝え続ける。
- ・話を聞くときに、言葉だけではなく子どもがイメージしやすいように視覚に訴えるもの（絵本や紙芝居や絵カード）を用意する。

3 環境の構成

①活動の場所

- ・保育室

②用具・構成

- ・絵本、紙芝居、絵カードなど

4 安全上の配慮

- 暑さで子どもたちが体調を崩したり食欲が落ちたりすることが予想されるため、余裕をもった1日の生活の流れとなるように設定する。
- 異年齢の子どもたちが一緒に過ごすことが多い時期なので、職員同士が子どもの情報交換を丁寧に行い、子どもの体調の変化を見過ごさないようにする。

5 活動を通して育まれた姿

- 水分補給が必要なことが分かり、保育者の指示したときだけでなく、子どもが自分で判断して飲むようになった。
- 健康に過ごすことの大切さが分かり、自分の体調を言葉で伝えたり、友達や3歳児の様子を気に掛けて、「○○ちゃん帽子を被っていないよ。」などと、保育者に知らせたりする姿が見られた。

6 家庭との連携

- 掲示物やおたより・連絡帳などで、夏の過ごし方について子どもたちが看護師から話を聞いたことを知らせ、家庭でも健康に夏を過ごすにはどうすればよいのか話題にし実践してもらう。
- 食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、家庭でも十分な休息を取り食事や睡眠のリズムを整えてもらう。

「わくわくドキドキするような保育」
4歳児夏季保育（7月下旬から8月）「運動」【事例8】

魔法の水で 大変身

1 遊びのねらい

○プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさが感じられるようにする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜プールの中で、動物になって動く＞

- ・入水する前に、十分に準備体操をする。
- ・バケツの中の水（魔法の水）を体に掛け、ラッコやワニに変身する。
- ・変身した動物になりきって、フープやホースの水のトンネルをくぐる。
- ・ラッコのときは、両手を交差するように胸に付け、仰向けになって浮かぶ。
- ・ワニ歩きのときは、両手と両足をプールの底に付けて、這うように動く。



- ・魔法の水を体に掛けて、ワニに変身し、フラフープをくぐっている様子

援助のポイント

- ・プール遊びの約束（プールの中では友達を押ししたりぶつかったりしないように気を付ける。水が苦手な友達には水を掛けないなど）を事前に伝える。
- ・「バケツの水に魔法がかかっているよ。」などと言って導入し、楽しい雰囲気作りをする。
- ・遊びに慣れるまでは、水位は低くして遊ぶ。（ワニ歩きをして、顔に水がかぶらない程度）

- ・ワニ歩きをしても顔が水に沈まない水位にし、安心して楽しく遊んでいる様子



3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・プール

②用具・遊具

- ・フラフープ、バケツなど

4 安全上の配慮

- 子どもは、水に慣れてくると自分の力以上のことをしようとして、溺れることが予想されるため、複数の保育者が一人ひとりの子どもができることを情報交換し、プールの中とプールの周りに立ち、細心の注意を払って見守り、何かあった際にはすぐに対応できるようにする。

5 遊びを通して育まれた姿

- 水が顔に掛かることが苦手な子どもが、魔法の水を掛けることを楽しみながら遊んでいた。
- 保育者に見守られながら、自分のペースで水に慣れている様子が見られた。
- 徐々に水に触れ親しみ、水の中で動く楽しさを感じていた。

6 家庭との連携

- プールチェック表などへの記入を保護者に依頼し、子どもの健康状態を把握して安全にプール遊びができるようにする。
- 中にはまだ水が顔に掛かることが苦手な子どもがいる。魔法の水による導入で楽しい雰囲気の中でプール遊びが行われ、徐々に水に慣れている姿を個別に家庭と情報交換しながら成長を共感するとともに、頑張っている姿を褒めてもらうことで自信につなげることができるようにする。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児夏季保育（7月下旬から8月）「学びの芽生え」【事例9】

どんな色ができるかな？

1 遊びのねらい

○保育者もモデルとなって一緒に遊びながら、色や泡の変化の面白さや、水を使って遊ぶ楽しさを感じさせていく。また、子どもが色や泡の変化に気付いたり、色が出る草花を発見したりすることに共感し、興味や関心をもって考えたり試したりしながら、繰り返し楽しめるようにする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜園で栽培している身近な草花や植物を使って色水を作る＞

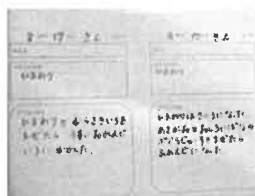
- ・自分で気になる草花を見つけて摘み、ビニール袋やすり鉢に入れて潰してみる。
- ・潰した草花に水を加え、ペットボトルや容器に入れてできた色の様子を気付く。
- ・友達と色を見せ合ったり、混ぜて変化する様子を楽しんだりする。



・草花を潰して色水を作っている様子



・たくさん色を作って楽しんでいる様子



・子どもが試した実験カード

色水に適している植物	オシロイバナ ホウセンカ アサガオの花と葉 クローバー など
色水に適さない植物	ヤマゴボウ スズラン エンゼルトランペット ササの葉 ミカンの葉 など

援助のポイント

- ・保育者は子どもの発見や興味に共感しながら、草や花の名前を知らせたり、一緒に調べたりする。
- ・植物で色水ができることを経験したら、「黄色の色水もつくれるかな？」と提案し関心を膨らませる。
- ・一人ひとりの実験カードを作り、何をしたらどうなったか、試したことを保育者が聞きとって記録に残したり、目に見えるように掲示したりすることで、次は何を試してみようかという意欲につなげる。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・園庭の自然園、公園
- ②用具・遊具
 - ・すり鉢、容器、水

4 安全上の配慮

○色水遊びに適さない植物（触ってかぶれたり、口に入ると腹痛などを起こす可能性のある植物）を使うと、子どもが体調を崩すことが予想されるため、事前に調べてその植物は使用しないように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 色の変化や発見の面白さを体験し、「知りたい。」「試してみたい。」という探究心が高まった。特に黄色の色水を作るためにたくさん試して、ひまわりの花びらを発見することができた。
- 身近な自然に一層好奇心をもって関わろうとする姿が、遊びながら自然と広がった。

6 家庭との連携

- 夏季保育ならではの経験（自然との関わり、友達関係の広がりなど）は、5歳児だけでなく、側でやり取りを見ている4歳児や3歳児にとっても刺激になっている。クラスのおたよりだけでなく園全体のおたよりに、異年齢の関わりが具体的に感じられる写真や会話のやり取りを記載し、子どもの学びが積み重なり育まれていることを伝え、園の取組を理解してもらおう。
- 家庭でも、子どもが様々なことに気付いたり発見したりすることに保護者が共感し、一緒になって考えたり試したりすることができるようにしてもらおう。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児夏季保育（7月下旬から8月）「人との関わり」【事例10】

一緒にやろう

1 遊びのねらい

○異年齢の子ども同士が関わることを、今までとは違う相手への関わり方を学んだり、年上の子どもへの憧れを育んだりする機会と捉えて援助する。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

<3歳児、4歳児、5歳児が、一緒にリズム遊びをする>

リズム遊びの進め方

- ①5歳児から順番に、ピアノの音楽に合わせてリズム遊びをする。
- ②3歳児や4歳児は、5歳児の動きをお手本として体を動かす。
- ③基本的なギャロップの曲・スキップの曲
- ④「トンボ」「糸車」「なべなべそこぬけ」「ひらいたひらいた」など。



・「糸車」の曲に合わせて3歳児、4歳児、5歳児が一緒にリズム遊びをして楽しんでいる様子

援助のポイント

- ・5歳児からやって見せることで、4歳児や3歳児がまねようとしたり、5歳児はお手本になるために頑張ろうとしたりする気持ちにつなげる。
- ・1人で動くものから2人～3人、集団へと関わりが増していくような遊びの構成をする。（回る動きであれば、「コマ」から「糸車」の人数を増やしていくなど。）
- ・3人以上のリズム遊びをするときは、異年齢の子ども同士でグループを組むように促す。
- ・3歳児、4歳児の担任は「5歳児さんは上手だね。」「止まるときに、ぴたっと動かないね。」などと、5歳児に憧れを育むような具体的な声を掛ける。
- ・5歳児が、4歳児や3歳児に優しく接している場面を見たときは、「優しく誘っていたね。」「教え方が上手だね。」「〇〇ちゃんが嬉しそうにしていたよ。」などとやり取りが上手にできている具体的な姿を誉めて認める。

3 環境の構成

- ①遊ぶ場所
 - ・ホール
- ②遊具・遊具
 - ・ピアノ

4 安全上の配慮

○誘い方が分からず、無理に引っ張って友達にぶつかったり転んだりすることが予想されるため、「こっちだよって呼んであげるといいよ。」などと、具体的に誘い方を知らせたり、動くスピードを加減したりするように伝える。

5 遊びを通して育まれた姿

- 5歳児が一番始めにお手本を見せることで、お兄さんお姉さんとしての意識が高まった。
- グループで行うリズム遊びでは、5歳児が3歳児や4歳児にやり方を教えてあげたり誘導してあげたりして、自分より小さな子どもを思いやる様子を感じることができた。
- 5歳児に優しく声を掛けられることで、3歳児や4歳児も嬉しそうに遊んでいた。

6 家庭との連携

- 異年齢の子ども同士で活動を楽しむ姿を通して相手を思いやる気持ちが育まれていると感じる場面を、おたよりや掲示や口頭などで具体的に伝え、子どもを認め褒めてもらい自信につなげる。
- 保育参観や運動会の競技などで、5歳児が3歳児や4歳児にやり方を教えてあげたり、誘導してあげたりしている場面を実際に見てもらい機会をつくる。子どもが上手に関わっている様子を見たら、保護者から「優しく誘っていたね。」などと認めてもらい、子どもの自己肯定感につなげる。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児夏季保育（7月下旬から8月）「生活習慣」【事例11】

みんなで作って食べて おいしいね！

1 活動のねらい

○栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べる喜びを感じることができるようにする。

2 活動・援助のポイント

活動

＜じゃがいもを育てて収穫し、カレーを作ってみみんなで食べる＞

- ・春から育てたじゃがいもの生長に興味や関心をもち、水やりや草取りをする。
- ・じゃがいもを収穫し、幼児クラス全員でカレー作りの下ごしらえをする。（3歳児は野菜を洗う、4歳児は野菜の皮をむく、5歳児は野菜を切る。）
- ・切った野菜で調理職員にカレーを作ってもらおう。
- ・みんなで一緒に作ったカレーを食べ、味わう楽しさや喜びを共有する。



・じゃがいもを収穫している様子



・カレー作りのために野菜を切っている様子

援助のポイント

- ・植物が丈夫に育つためにはどんなことをしたらよいか、子どもと一緒に考えたり、調べたり、試してみたりする。
- ・5歳児が収穫する様子を4歳児にも見せ、土から出てくるじゃがいもに大喜ぶする姿をみんなで共感し、カレー作りへの意欲につなげる。
- ・3歳児、4歳児、5歳児が関わりながら楽しく食べることができるような会食の席を用意する。
- ・自分たちで育てたじゃがいものおいしさを保育者も一緒に味わい、「おいしいね。」「みんなが喜んでいるね。」などと言葉にして共感し子どもたちの自信につなげる。



・3歳児4歳児5歳児が同じテーブルで食べている様子

3 環境の構成

①活動の場所

- ・畑、保育室、園庭、ホール

②用具・構成

- ・ジョウロ、収穫用の軍手、包丁、まな板、ボールなど

4 安全上の配慮

- 野菜を包丁で切るときは、刃の部分でけがをすることが予想されるため、保育者がすぐそばで見守り、野菜を押さえる手を猫の手のように丸めるように知らせ、ゆっくりと切る。



・ネコの手で人参を切っている様子

5 活動を通して育まれた姿

- じゃがいもを毎日よく観察し、水やりや草取りの世話をし、その生長に驚いたり喜んだりすることができた。
- 自分たちで、カレーの材料になるじゃがいもを育てているという楽しさとともに、自覚や責任感をもつ様子が感じられた。
- 自分で育てたじゃがいもに愛着をもち、友達と一緒に食べるおいしさを感じることができた。

6 家庭との連携

- 大切にじゃがいもを育てている様子や、カレーをみんなで作っておいしく食べた様子を、お迎えの際に話したり、写真やおたよりや掲示物などを通して知らせたりして、活動を通して子どもたちが成長したことを共感する。
- たくさん収穫できたじゃがいもを家庭にも5個から6個ずつ持ち帰り、収穫の喜びを家庭でも共感する。
- 家庭でも、保護者と一緒に野菜等を切り、保護者に認めてもらうことで、子どもたちの自尊感情や自己肯定感が高まることを伝える。

「わくわくドキドキするような保育」
5歳児夏季保育（7月下旬から8月）「運動」【事例12】

作って遊ぼう サーキット！

1 遊びのねらい

○光化学スモッグなどで戸外に出られない日もあるため、室内でも巧技台を使ってアスレチックをするなど、体を動かす楽しさを感じられるようにする。

2 遊び方・援助のポイント

遊び方

＜サーキットのコースで体を動かす楽しさを感じる＞

- ・サーキットのコースを、子どもたちが考えて設置する。
- ・コースを考えた子どもが、コースの回り方を説明する。
- ・みんなで、コースを回って体を動かして遊ぶ。
- ・作るグループを変えながら様々なコースを楽しむ。
- ・5歳児が中心に遊ぶが、4歳児も自由に参加できる。

ミニハードルを倒さないようにまたぐ、またはジャンプする



・コースを作っている様子

援助のポイント

- ・コースを作るグループは少人数にして、それぞれの意見が反映できるようにする。
- ・運動用具は、子どもたちが使い方を理解しているものを使用する。
- ・初めて使う用具は、扱い方や約束を確認する。

フラフープは両脚ジャンプやケンケンなど自由に跳ぶ



丸い足場から向うの足場へ、ミニハードルの上から大きくまたぐ

鉄棒は前回りや足かけ回りなどをする



クネクネ道をバランスを取りながら歩く

3 環境の構成

①遊ぶ場所

- ・保育室

②用具・遊具

- ・ウェーブバランス、フラフープ、マット、マーカーコーン、ハードル、トンネルなど

4 安全上の配慮

○運動用具に破損があると、子どもたちがけがをすることが予想されるため、事前に用具を点検・確認した後に使用する。

○友達とぶつかってけがをすることが予想されるため、十分なスペースを確保する。

5 遊びを通して育まれた姿

○室内でも、様々な運動用具を使って、十分に体を動かして楽しんでいた。

○フラフープを回すという使い方だけではなく、ケンケンパをしたりグーの足でジャンプしたり様々な使い方を考えて遊ぶ姿を見ることができた。

○コースを作るグループは、様々な運動用具を取り入れて、並べ方を考えている様子が見られた。

6 家庭との連携

○子どもたちが工夫しながらサーキットのコースを作る様子や、できたコースで体を十分に動かして遊ぶ姿をお迎えの際に口頭で知らせたり写真を掲示したりして知らせ、子どもの成長を褒めてもらい自信につなげる。

○夏に戸外に出ることができない日でも、体を動かして遊ぶ工夫をしていることを知らせ、保護者に安心感を与え、信頼関係を深める。

連携教育検討委員会委員

(敬称略 職名は委員在任時のものである)

【幼稚園】

関 政子	私立	やはた幼稚園長
永見 俊光	私立	こまどり幼稚園長
宮本 実利	区立	かみさぎ幼稚園長
若槻 容子	区立	ひがしなかの幼稚園長

【保育園】

谷崎みよ子	私立	とちの木保育園長
滝瀬 恭子	区立	弥生保育園長

【認定こども園】

関 政子	私立	やはたみずのとう幼稚園長 (認定こども園・幼稚園型)
根元 由佳	私立	やよいこども園長 (認定こども園・幼保連携型)

【小学校】

林 禎久	区立	白桜小学校長
松井 敏	区立	南台小学校長

【中学校】

竹之内 勝	区立	第八中学校長
弓田 豊	区立	中野中学校長

【教育委員会事務局】

戸辺 眞	教育委員会事務局	次長
宮崎 宏明	教育委員会事務局	指導室長
所 水奈	教育委員会事務局	指導室主任指導主事
村上桂一郎	教育委員会事務局	指導室指導主事 (就学前教育推進担当)
四宮 範明	教育委員会事務局	指導室指導主事 (小中連携教育担当)
古屋 寿子	保育園・幼稚園課	運営支援係長
佐藤 美紀	教育委員会事務局	指導室就学前教育推進担当主査
大見 由美	教育委員会事務局	指導室就学前教育推進員
中野 貴博	教育委員会事務局	指導室 (平成30年度就学前教育推進担当)

事例作成 指導者

(敬称略 職名は指導時のものである)

小山 朝子	帝京平成大学 現代ライフ学部児童学科講師
石沢 順子	白百合女子大学 人間総合学部初等教育学科准教授

事例作成 協力園

(施設区分表記 区立：区立幼稚園・区立保育園
 私立：私立幼稚園・私立保育園・私立認定こども園
 小規：小規模保育事業所 認証：認証保育所とする)

【0歳児】

私立 わらべ西鷺宮保育園	私立 ピオニイ保育園
小規 かたつむり保育園野方	認証 ピノッキオ保育園

【1歳児】

区立 弥生保育園
認証 ぽけっとランドさぎのみや

私立 ピオニー保育園
小規 子ごころ園都立家政

【2歳児】

私立 やよいこども園
区立 仲町保育園
区立 白鷺保育園
私立 にじいろ保育園中野野方

区立 本町保育園
私立 中野南台ちとせ保育園
区立 江原保育園
小規 TAC 未来こども保育園南台

【3歳児】

区立 鍋横保育園
私立 わらべ西鷺宮保育園

区立 江原保育園
私立 やはた幼稚園

【4歳児】

私立 とちの木保育園
私立 徳田保育園
区立 昭和保育園

私立 やはたみずのとう幼稚園
区立 大和東保育園
区立 弥生保育園

【5歳児】

区立 白鷺保育園
区立 中野保育園
区立 あさひ保育園
区立 ひがしなかの幼稚園
私立 やよいこども園

区立 昭和保育園
区立 仲町保育園
区立 本町保育園
私立 中野南台ちとせ保育園

参考文献

- 就学前教育プログラム改訂版（理論編） 【中野区教育委員会 平成31年2月】
就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック（新幼稚園教育要領等対応）
【東京都教育委員会 平成30年3月】
就学前教育カリキュラム改訂版 【東京都教育委員会 平成28年3月】